



# 大淀町文化財保存活用地域計画

未来に伝えたい  
おおよどの遺産





# 大淀町文化財保存活用地域計画

— 未来に伝えたいおおよどの遺産 —

令和5年(2023)12月

奈良県大淀町



# 刊行によせて



大淀町長 辻本真宏

奈良県内でも有数の大河・吉野川に面し、里山の豊かさに育まれたわがまち大淀町は、縄文時代以来、人々の行き交う吉野地域の門戸として栄えてきました。

そのなかで、人と自然のかかわりによって生み出される、地域に根ざした歴史文化の遺産は、何事にもかえがたいふるさとの宝といえます。

本町では平成28年度(2016年度)より、ふるさとに眠る地域の遺産を見直し、その魅力と価値を次世代へ継承する「地域遺産保存活用事業」に取り組んでいます。その一環として、町内各地域に残されたさまざまな地域遺産のなかから、とりわけ魅力あるストーリー(物語)をもつものを「おおよど遺産」として100件選定し、地域住民と行政の協働でその保存・活用をすすめる新たな仕組みづくりを模索してきました。

この「おおよど遺産」の取り組み等をふまえ、令和4年度(2022年度)からは、文化庁のご指導とご助言、奈良県のご助言のもと、地域の遺産を地域社会総がかりで保存・活用し、次世代に継承していくための「文化財保存活用地域計画」の作成をすすめてきました。この度、それが刊行の運びとなり、関係者一同喜びに堪えません。

新型コロナウイルス感染症がわたしたちの生活を一変させ、過疎化・少子高齢化といった社会のほころびも身近に感じられるようになりました。先行きを見通すことも難しい昨今の情勢ですが、本書が各方面で大いに活用され、ふるさとの風土や原風景に思いを寄せる人々が増え、足元にある宝物の発見を促し、地域に根ざした歴史文化遺産の保存・継承につながり、吉野地域が歩むべき未来への新たなビジョンを生み出すきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、本書の作成にあたりご尽力を賜りました大淀町文化財保存活用地域計画協議会の皆様、ご指導・ご助言を賜りました文化庁、奈良県、大淀町文化財保護審議会の皆様、ご支援・ご協力を賜りましたすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



# 例 言

- 1 この本の名称は、『大淀町文化財保存活用地域計画―未来に伝えたいおおよどの遺産―』です。
- 2 この本は、下記の文化庁の補助をうけて大淀町が作成したものです。  
文化庁 令和4・5年度地域文化財総合活用推進事業(文化財保存活用地域計画作成)
- 3 上記事業の対象地は、奈良県吉野郡大淀町内(23大字)です。
- 4 事業の実施体制は次のとおりです。
  - 実施主体
    - 大淀町(町長・辻本眞宏)
    - 大淀町教育委員会(教育長・廣見敦志)
    - 大淀町文化財保存活用地域計画協議会(委員長・中村隆昭、副委員長・森本悦子)
    - 大淀町文化財保存活用地域計画協議会事務局:大淀町教育委員会事務局文化振興課
  - 実施担当 奈良県大淀町教育委員会事務局文化振興課 係長・松田度
  - 指導・助言 文化庁
  - 助言 奈良県・大淀町文化財保護審議会
- 5 この本の編集は令和4年(2022)4月から同5年(2023)8月にかけて、本町教育委員会事務局文化振興課(担当・松田)がおこないました。
- 6 この本に記載したデータは令和5年(2023)8月末時点でのものです。
- 7 この本に掲載した挿図のうちとくに記載のないものは本町が作成したものです。またこの本に掲載した写真は本町所蔵のものを使用しています。
- 8 上記以外に、調査と資料整理、本書の作成に際し、多くの方々よりご指導・ご協力を得ました。記して感謝申し上げます。

# 大淀町文化財保存活用地域計画

## — 未来に伝えたいおおよどの遺産 —

### 目 次

#### 序 章 計画を作るにあたって

- 1 地域計画作成の背景と目的 .....1
- 2 地域計画の計画期間 .....2
- 3 地域計画作成の流れ .....3
- 4 用語の定義 —文化財と地域遺産— .....6

#### 第 1 章 大淀町の概要

- 1 自然的・地理的環境 .....7
- 2 社会的状況 .....10
- 3 歴史的背景 .....13

#### 第 2 章 大淀町の地域遺産

- 1 指定等文化財 .....23
- 2 おおよど遺産 .....37
- 3 未指定文化財 .....38
- 4 地域遺産の類型ごとの概要 .....39

#### 第 3 章 大淀町の歴史文化の特性

- 1 記紀伝承を物語る古代吉野の遺産 .....42
- 2 聖地へつながる吉野路の交差点 .....43
- 3 人と自然がおりなす吉野川の民俗 .....43
- 4 中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 .....44
- 5 吉野の風土に生きた偉人たち .....45



---

## 第 4 章 地域遺産に関するこれまでの把握調査

- 1 これまでの取り組み .....46
- 2 地域遺産の把握調査の概要 .....46
- 3 地域遺産の把握調査に関する課題 .....51

## 第 5 章 地域遺産の保存・活用に向けて

- 1 地域計画の基本理念と基本方針 .....52
- 2 地域計画の課題と方針 .....53
- 3 地域計画の措置 .....58

## 第 6 章 地域計画の重点事業

- 1 「おおよど遺産ストーリー」の設定に向けて .....65
- 2 広域での取り組み .....67
- 3 災害予防対策 ―地域遺産の確実な継承に向けて― .....68

## 第 7 章 地域遺産保存・活用の推進体制

- 1 地域計画の推進体制 .....69
- 2 地域計画の評価 .....71
- 3 地域遺産(文化財)の登録の提案 .....71

参考文献 .....72

参考資料 .....73



▲大淀町と吉野連山（車坂峠から南を望む）

## 1 地域計画作成の背景と目的

文化財は、地域の歴史文化を理解するうえで欠かせないものです。我が国でも文化財保護法に基づき、それらを適切に保存・活用していく取り組みが各地でおこなわれています。しかし、その一方で、過疎化や少子高齢化、自然災害等によって失われていく文化財の保護と継承が課題となっています。

このような現状をふまえて、行政や地域住民など、多様な主体が連携し、地域社会総がかりで文化財を保存・活用していこうとする気運が高まりつつあります。

国では平成30年(2018)3月6日、「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が閣議決定されました。その後国会での審議を経て、この法律が同年6月1日に成立、同8日に公布され、平成31年(2019)4月1日から施行されることになりました。一方、奈良県では平成29年(2017)3月に「奈良県文化振興大綱」が策定され、令和3年(2021)6月に「奈良県文化財保存活用大綱」が策定されました。また、令和4年(2022)3月には「なら歴史芸術文化村」も開設され、県内の文化財の保存・活用に関する基本的な方向性が示されています。

大淀町では、平成29年(2017)3月に「第4次大淀町総合計画(基本構想及び前期基本計画)」を、令和4年(2022)3月に「第4次大淀町総合計画(後期基本計画)」を策定し、「来たい、住みたい、住み続けたいまち 大淀町 ～次世代へつなぐ共創のまちづくりをめざして～」を基本理念・将来像としてまちづくりを進めてきました。

そのなかで、文化財に関しては「それぞれの地域で人々が連綿と守ってきた有形・無形の文化財は、その地域を語る一部であり、地域と一体的に存在する大切なものです。地域を成り立たせている歴史や文化財を【地域遺産】として活用し、地域文化を活性化する必要があります。」と、地域固有の文化財を「地域遺産」(6頁で詳述)として理解する視点が示されています。また、「若年層にも親しみやすい内容のプロモーション媒体を制作・活用し町外へ広く周知して、町への誘客を図るとともに、地域の伝統行事を披露する場にも積極的な参加を呼びかけ、住民の郷土に対する知識の向上、郷土への愛着と誇りを育むことにつなげます。」と、伝統行事などの地域の歴史文化の情報発信を積極的に行っていくべき方向性も示されています。

上記をふまえて大淀町では、文化財保護法183条3に基づき地域遺産の保存・活用をより

一層推進するため、地域遺産を地域総がかりで保存・活用していくための「大淀町文化財保存活用地域計画」を作成することになりました(以下では「本計画」とします)。

また、本計画では、まちづくりの主体を「地域住民」ととらえています。そのため、地域住民にとって手に取りやすい、読みやすい冊子作りをめざしています。とりわけ、これからの地域を担っていく次世代に地域遺産の保存・活用について考えてもらうことを想定しています。

## 2 地域計画の計画期間

本計画の計画期間は、令和6年度(2024年度)～令和10年度(2028)の5年間とします。ただし「第4次大淀町総合計画(前期:平成29年度～令和3年度、後期:令和4年度～令和8年度)」に続く次期総合計画(令和9～18年度実施予定)との整合性を計るため、令和8年度(2026)には本計画の内容更新を検討し、変更する場合(計画期間の変更、市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更、地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更)は、法第183条の4に基づき、文化庁より変更の認定をうけるとともに、次期地域計画の作成にも反映させていきます。軽微な変更の場合は、変更内容について奈良県及び文化庁へ情報提供するものとします。

計画期間

西暦	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
和暦(令和)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
第4次総合計画 (後期基本計画)			5年間												
次期総合計画						10年間(予定)									
文化財保存活用 地域計画			5年間				次期地域計画(予定)								

### 3 地域計画作成の流れ

本計画の作成にあたっては、文化庁の指導・助言、奈良県の助言のもと、文化財保護法第183条の9に基づき、有識者や地域住民等で構成する大淀町文化財保存活用地域計画協議会に意見聴取をおこない、計画に反映させました。

その事務局は文化財担当課である大淀町教育委員会事務局文化振興課が担い、教育・福祉、観光振興といった関連部局と調整を図りながら、民間団体との意見交換をすすめ、地域計画の作成に取り組みました。

また、本計画の作成にあたり、文化財の有識者等で構成する町文化財保護審議会の意見を聴取し、専門的な分野の内容についても補強しました。

#### 協議会委員名簿 (12名)

氏名	団体名および役職	区分
辻本 眞宏	大淀町長	大淀町
廣見 敦志	大淀町教育委員会 教育長	大淀町
三浦 康生(R4) 中川 智巨(R5)	奈良県文化・教育・くらし創造部 文化財保存課長	奈良県
小西 正久	NPO 法人おおいわ結の里 理事長	町内 NPO 団体
佐野 純子	奈良インターカルチャー 代表	有識者(文化振興)
寺岡 伸悟	奈良女子大学文学部 教授(社会学)	有識者(地域政策)
中村 隆昭 (委員長)	大淀町文化連盟 会長	有識者(文化・教育)
迎居 茂實	大淀町文化財調査会 代表	町内文化財関係団体
森本 悦子 (副委員長)	おおよど語り部の会 会長	町内文化財関係団体
安川 光平	大淀いきいきプロジェクト 代表	実務者(まちづくり団体)
辻 敬三	大淀町役場 建設産業課長	大淀町
柳井 正行(R4) 丸尾 精妥郎(R5)	大淀町教育委員会 文化振興課長	大淀町

協議会オブザーバー名簿 (5名)

氏名	団体名および役職	区分
松本 昌也	大淀町教育委員会事務局 教育部長	大淀町
島田 博史	大淀町教育委員会事務局 学務課長	大淀町
喜多 俊之	大淀町教育委員会事務局 社会教育課長	大淀町
西藤 清秀	大淀町文化財保護審議会委員	大淀町
中東 洋行	吉野町役場 産業観光課	吉野町

大淀町文化財保護審議会 (10名)

氏名	団体名および役職	専門分野
石川 正	大淀古文書文化研究会代表	地域史・古文書
浦西 勉(委員長)	元龍谷大学教授	民俗学
川村 優理	NPO法人うちのの館館長・エッセイスト	文学
西藤 清秀	奈良県立橿原考古学研究所 技術アドバイザー	考古学
高橋 平明	〈公財〉元興寺文化財研究所	絵画工芸・仏教彫刻
中村 隆昭 (副委員長)	大淀町文化連盟会長	地域史・地質学
長谷川 力雄 (R4)	大淀町議会議員	
竹内 元章 (R5)	大淀町議会議員	
福本 知則 (R4)	大淀町議会議員	
森永 雅世 (R5)	大淀町議会議員	
本庄 眞	元関西環境教育学会会長	自然史
水谷 知生	奈良県立大学教授	地理学・景観学



協議会のようす (2023年6月)

## 地域計画作成の履歴

日時	内容
令和3年(2021)12月10日	実施計画書・交付要望書を文化庁に提出(奈良県経由)。
令和4年(2022)4月24日	採択通知受理。4月27日、本申請を文化庁に提出。
4月28日	文化財保存活用地域計画協議会委員に委嘱依頼(委嘱状送付)。
6月7日	奈良県文化財保存課との初回協議(於 奈良県庁)。
6月13日	文化庁との初回協議(於 文化庁地域文化創生本部・京都)。
6月27日	令和4年度第1回文化財保護審議会にて意見聴取。
6月29日	令和4年度第1回文化財保存活用地域計画協議会にて意見聴取。
7月23日	文化財を考える意見交換会「未来に伝えたいおおよどの遺産」
8月20日	地域遺産ワークショップ「岸田日出男の遺したもの」
9月1日～10月17日	特別展示「おおよど遺産ミュージアム」実施。
9月25日	地域遺産シンポジウム「吉野のなかの大淀町」開催。
9月28日	令和4年度第2回文化財保存活用地域計画協議会にて意見聴取。
10月2日	地域遺産ワークショップ「未来に伝えたい桜垣本の文化」
11月17日	令和4年度計画変更承認申請を文化庁に提出。
11月29日	文化庁との協議(於 文化庁地域文化創生本部・京都)。
12月13日	実施計画書・交付要望書を文化庁に提出(奈良県経由)。
令和5年(2023)1月17日	令和4年度第3回文化財保存活用地域計画協議会にて意見聴取。
2月2日	令和4年度補助金交付決定変更通知受理。
2月15日	令和4年度第2回文化財保護審議会にて意見聴取。
2月24日	概要(案)について町議会全員協議会にて報告。
3月10日～24日	概要(案)についてパブリックコメント募集。
4月7日	令和4年度実績報告書提出。
4月15日	令和5年度補助金交付申請書を文化庁に提出。
4月25日	文化庁との協議(於 文化庁京都庁舎)。
5月12日	文化庁調査官による現地視察。
5月31日	文化庁との協議(於 文化庁京都庁舎)。
6月5日	令和5年度補助金交付決定通知受理。
6月29日	令和5年度第1回文化財保存活用地域計画協議会にて意見聴取。
6月30日	令和5年度第1回文化財保護審議会にて意見聴取。
7月6日・28日	文化庁との協議(於 文化庁京都庁舎)。
9月7日	文化庁に地域計画を提出。
12月15日	文化庁による地域計画の認定。

## 4 用語の定義 – 文化財と地域遺産 –

文化財は、文化財保護法第2条に規定する、建造物・美術工芸品などの「有形文化財」、演劇・音楽・工芸技術などの「無形文化財」、民俗資料・風俗慣習・民俗芸能・民俗技術などの「民俗文化財」、遺跡・名勝地・動物・植物・地質鉱物などの「記念物」、棚田や里山のある集落、用水路が発達した水郷等などの「文化的景観」、宿場町・城下町・農漁村等の「伝統的建造物群」といった6つの類型に分かれます。

このほか、文化財の保存に欠かせない材料製作や修理・修復の技術、地中に埋もれている文化財(埋蔵文化財)も保護の対象となっています。さらに近年は、地域にとって重要な、次世代に継承していくべきと考えられる文化的所産も、上記と同様にとりあつかう視点も求められています。

本計画では、上記の文化財のおかれている自然環境や周囲の景観、文化財をとりまく人々の活動などが一体となってつくりだす環境の総体を「**歴史文化**」と呼ぶことにします。

また、本計画では、指定・未指定を含めて、各地域(区・大字)固有の歴史文化を知るうえで欠かせないもの、各地域の活性化に寄与するもの、あるいは地域の人々が心のよりどころにしている、地域に根ざした有形・無形の文化財等を「**地域遺産**」と定義します。



▲歴史文化と地域遺産の関係



## 第 1 章

# 大淀町の概要

### 1 自然的・地理的環境

#### 地理

奈良県南部一帯にひろがる吉野地域は、日本列島のほぼ中央で南に突き出た紀伊半島の中央部にあります。その大半は「近畿の屋根」と称される山岳地帯ですが、北端の紀の川(吉野川)流域は、北方の高取山地を介して奈良盆地と接しています。

吉野川は、三重県と接する大台ヶ原にその源を発し、周辺の山塊から水を集めて、西へと流れながら蛇行を重ね、やがて奈良県と和歌山県との境に至って「紀の川」となり、和歌山市内を経て紀淡海峡、果ては太平洋へとその流れをそそいでいます。大淀町は、この吉野川中流域の北岸の台地にひらけたまちで、隣り合う市町村とは一部を除いて、河川や分水嶺等の自然境界で接しています。



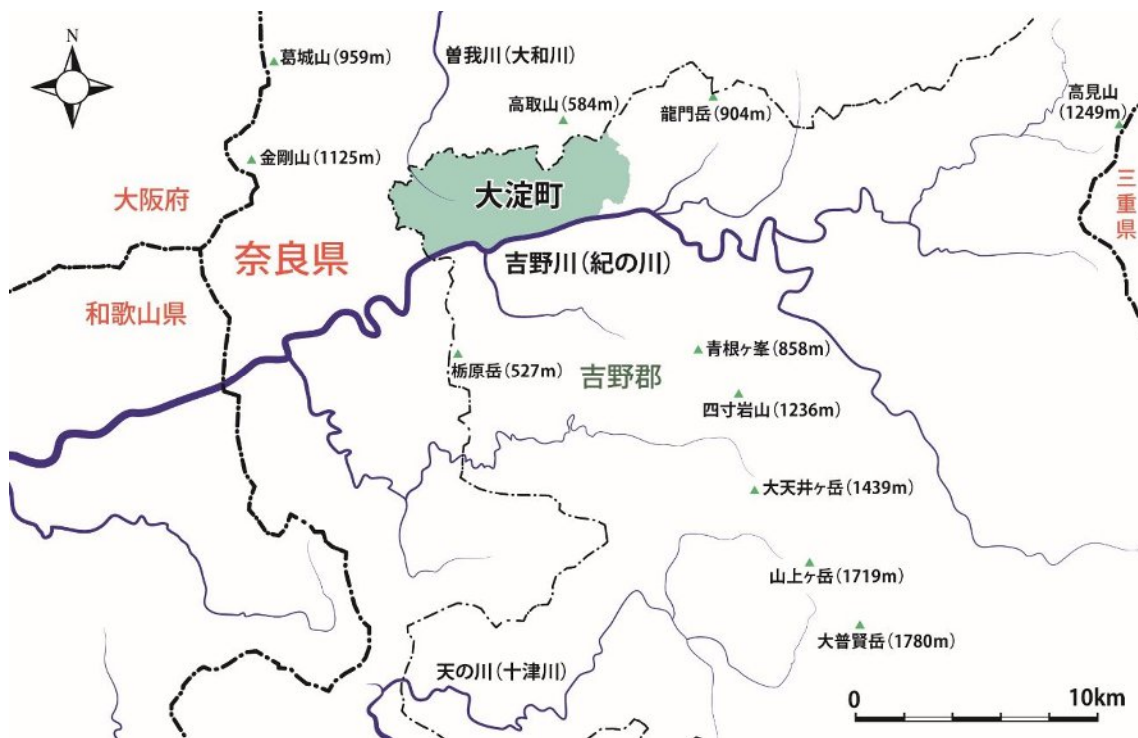
▲紀伊半島と吉野



▲奈良県の位置



▲大淀町の位置



▲大淀町周辺の水系



▲吉野川（西から）

その北部は高取山(標高583.6m)を盟主とする高取山地(大和川水系との分水嶺)、南部は直線的にほぼ西流する吉野川、東部は高取山地から南へ延びる尾根が境界となっています。ただし西部は、大和川水系の曾我川(西北流)が町域にくい込み、吉野川水系との分水嶺(車坂峠<sup>くるまざかとうげ</sup>)は高取山地から約3km南に位置しています。高取山地と吉野川の間には、東部で標高260m、西部で標高240mの比較的大きな台地が広がっています。これらの台地を浸食して、小河川が南方の吉野川へとほぼ直線的に流れ込んでいます。小河川はその中流域で盆地を形成し、これらの盆地は低い峠を介して東西に連なっています(参考資料75頁の図)。

この地形には中央構造線(構造線とは規模の大きい断層のこと)が大きくかかわっています。本町内では吉野川による氾濫原の形成はほとんど見られませんが、吉野川右岸(北岸)には吉野川によって形成された数段の河岸段丘が広がっており、台地や段丘が吉野川に臨む南端は急な崖面をなしています。吉野川流域では中央構造線の影響もあって東西方向の地形(山地・河川)が優勢ですが、吉野郡南部(十津川・熊野川流域)では中新世の火成活動(大峯酸性岩類)の影響で、大峯山脈を主脈とした南北方向の地形が主になっています。

#### 気候

奈良県の気候は、おおむね吉野川を境に奈良県北部と南部にわかれます。とくに奈良県南部は、内陸性気候の穏やかな北部(大和盆地)とは異なる山岳性気候で、夏季は局地的な豪雨や風水害も多く、冬季は積雪が深く交通に支障が出るほどです。南部には日本有数の多雨地帯として知られる大台ヶ原があり、大台ヶ原を源流とする吉野川は戦後の山間部のダム建設まで度々氾濫しました。吉野川本流域にあたる本町の気候は、北部と南部の中間に位置する中間漸移地帯で、年平均気温は最高19.8度、最低8.7度。年間降水量は1,500～2,000mmです。その自然環境が本町の歴史文化の形成に大きく影響を及ぼしています。

## 2 社会的状況

### 大淀町の位置

大淀町は、奈良県の中央を西にむかって流れる長さ70.1kmの大河、吉野川の北岸にあります。その広さは、東西11.01km、南北4.7km、総面積は38.10km<sup>2</sup>です。1万6,267人(7,395世帯)が住んでいます(令和5年7月末時点)。吉野郡内ではもっとも人口の多い町です。

大正10年(1921)2月、吉野郡大淀村が町制をしいて大淀町になりました。昭和27年(1952)7月1日には、西に隣接する宇智郡大阿太村の一部(佐名伝)が大淀町に入り、昭和42年(1967)9月1日には、同じく西に隣接する五條市東阿田町の一部が大淀町に入りました。昭和59年(1984)には、東に隣接する吉野町との間で土地を一部交換し、今に至ります。

### 地区と大字

大淀町域は東西に長く、下図のとおり①**東部**(中増・西増・増口・比曾・北六田・北野・新野・馬佐)、②**中部**(越部・土田・桧垣本・畑屋・持尾・矢走・芦原)、③**西部**(下淵・岩壺・銚立・大岩・今木・薬水・福神・佐名伝)の3つの地区、23の大字に分けることができます(大字は江戸時代の「村」にあたります)。それぞれの地区に、大小の住宅団地があるのも大淀町の特色です。大淀町では現在、これらをさらに51の行政区に分け、それぞれの区や自治会・連合区等による運営が進められています。以下では、大字を基本に地域の特徴について記します。

〈①東部〉町内最大の住宅団地である北野には、町立小学校や町健康づくりセンターといっ



▲大淀町の地区割と大字

た施設があります。山間部の中増・西増には水田と茶畑の広がる農村の景観が広がります。比曽には町内有数の観光地である世尊寺があります。また、国道169号線の走る吉野川沿いには、私鉄駅と商業施設が集中しており、増口にある町立杉本記念文化センターには図書室と歴史展示室が併設されています。



▲道の駅吉野路大淀iセンター（芦原）

〈②中部〉町役場庁舎・町文化会館(桧垣本)がある町の行政中枢部で住宅団地も多く、人口が集中しています。町立の小学校(土田)・中学校(桧垣本)があり、国道が交差しており、私鉄駅・バスセンターなどの交通拠点や商業施設、消防署などの各種公共機関があります。芦原には観光情報のハブ拠点となる「道の駅吉野路大淀iセンター」があります。

〈③西部〉御所市に隣接した北西の山間部と、南の吉野川に面した地域に分かれます。下淵には町立小学校と県立高校があり、下市方面に向かう千石橋周辺に私鉄駅と駅前商店街、銀行等の施設があります。大阿太高原(薬水・佐名伝)では、町の特産物として梨の栽培が盛んです。福神では平成11年(1999)以降、住宅団地、南奈良総合医療センターと専門学校および宿舎などの病院関連施設、植物栽培工場、メガソーラー(大規模太陽光発電施設)といった施設の整備が進んでおり、奈良県南部の中核となる街として注目を集めています。



▲福神遠景（東より）

#### 土地利用と特徴的な産業

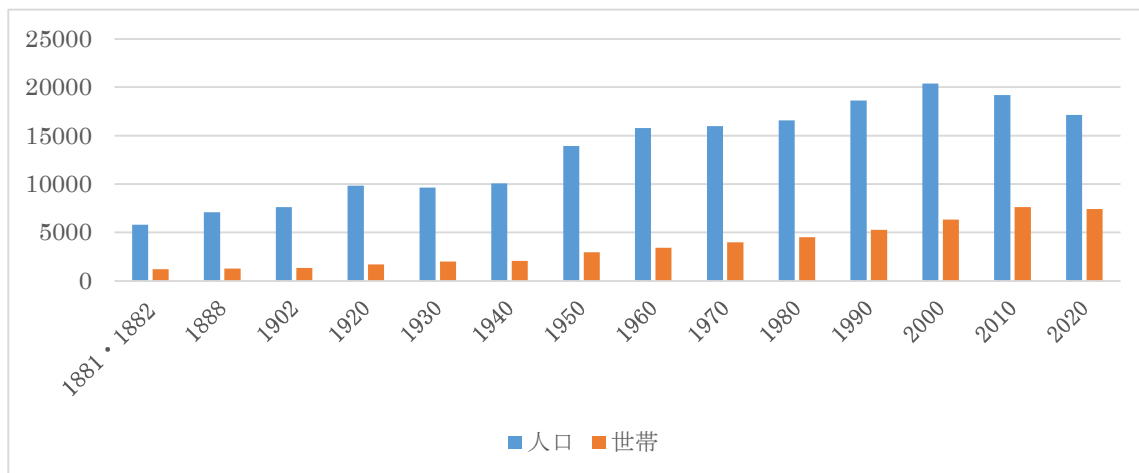
大淀町は森林の割合が約52%で、奈良県南部の自治体の森林面積の割合がほぼ90%近いのに比べて、農地や市街地としての土地利用が多くなっています。

大淀町は農業が盛んで、吉野郡内では「米所」として知られています。平成3年(1991)11月に制定された「町の花」はバラ科の梨花(ナシの花)、「町の木」はブナ科のアラカシ。平成30年(2018)4月には、梨の花によるまちづくりを推進するため「大淀町梨の花条例」ができました。



▲梨の花

名産品として、町西部の大阿太高原で作られている「二十世紀梨」、町東部の中増地域で



▲大淀町の人口推移（縦軸：人 横軸：年）

作られている「増茶・日干番茶<sup>にっかん</sup>」などが知られています。

また、吉野地域の木材を扱う市場も多く、木のまち・大淀町の歴史を物語ります。

#### 人口推移

大淀町は今、吉野郡内で最も人口密度が高い場所ですが、明治時代からそうだったわけではありません。明治29年(1896)に刊行された『大和国町村誌』の明治14・15年(1881・1882)頃の統計によると、後の大淀町域にあたる吉野郡20か村の人口数は5,801人(1217世帯)でした。町の人口は昭和15年(1940)から昭和25年(1950)の間に急速な増加をみせ、平成14年(2002)頃の約2万人をピークとして、現在はゆるやかな減少傾向にあります。人口の3分の1が65歳以上の高齢者です。

現在大淀町の人口は約1万6,000人(約7,400世帯)ですが、平成27年の国勢調査を基に推計された国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」に準拠した推計によると、本町の人口は令和32年(2050)に10,000人を下回り、令和42年(2060)には6,758人まで減少するとされています。

#### 町内各地の抱えている課題

各地域におおむね共通するのは、少子高齢化と過疎化が急速に進むなかで、各区や自治会のさまざまな活動が難しくなり、地域の年中行事と祭りも維持できなくなっていることです。現在は住宅団地への新規移住も停滞気味で、町全体が人口減少の傾向にあります。空き家や空き地、耕作放棄地も増えているため、これらをどのように利活用できるのかも大きな課題です。

なお、新興住宅地はそのほとんどが高台にあるため、鉄道駅からも遠く、高齢者にとってはたいへん不便です。また、町外からの移住者が多い住宅地ほど、地域住民が互助できる体制も整っていません。そのため、地域の家族・高齢者同士がコミュニケーションをとり、つながり助け合える安心・安全なまちづくりへの環境整備が求められています。

### 3 歴史的背景

大淀町には、吉野川と吉野・高取山系にはぐくまれた農山村の歴史文化の所産として、縄文時代から近現代にいたる地域遺産があります。ここでは大淀町域を中心とした、吉野川流域の歴史的背景についてみていきます。

#### 縄文時代

吉野川流域では、縄文時代早期(6,000～1 万年前)の遺跡を皮切りとして、「縄文街道」と呼ばれるほど数多くの縄文時代の遺跡が川沿いに広がっていました。

吉野川の支流・丹生川の上流にある川原手垣内遺跡(下市町丹生)では、国道 309 号線のバイパス道路の工事にともない、発掘調査がおこなわれています。調査では、狩猟用の穴や生活の痕跡が多数みついています。ダム開発にともない発掘調査された吉野川上流の宮の平遺跡(川上村迫)とともに、吉野でも最古級となる縄文遺跡早期の遺跡です。

ただし、川原手垣内遺跡の土器は地元の土で作られたものではなく、大半が紀ノ川の下流域からさかのぼって運ばれたようです。縄文人たちにとって、吉野は住居を営む(定住する)ための地というより、季節ごとに立ち寄る狩りのキャンプ地だったようです。

大淀桜ヶ丘遺跡(大淀町下湊・桧垣本)は、吉野川を見下ろし、東に吉野のマッターホルン・高見山(標高 1248m)を望む景色のよい台地上にあります。この桜ヶ丘遺跡では、縄文時代前期(5,000～6,000 年前)の竪穴式住居や石器の製作場がみついています。とくに縄文時代の住居は、調査された当時(1950・51 年)、奈良県内ではじめての発見でした。

これ以降、縄文時代中期(4,000～5,000 年前)の北六田遺跡(大淀町北六田)をはじめ、多くの遺跡が確認されています。宮の平遺跡では、縄文時代中期から後期(3,000～4,000 年前)の立石をとともう直径約 30m規模の環状の配石などがみつき、祭祀場と考えられています。河岸段丘上にある佐名伝遺跡(大淀町佐名伝)や越部ハサマ遺跡(大淀町越部)、宮滝遺跡(吉野町宮滝)では、縄文時代後期・晩期(3,000 年前)の土器がみついています。

佐名伝遺跡の集落のようすは不明ですが、東日本系のデザイン(三叉文)をもつ土器も出土し、なかには三重県南部で採取できる赤色の水銀朱が付着した土器もあり、遠隔地との盛んな交流がうかがえます。

また、越部ハサマ遺跡では、環状に配列された縄文時代晩期の墓がみついています。



▲越部ハサマ遺跡の調査風景



▲大淀町内の主な遺跡

### 弥生時代

弥生時代の宮滝遺跡では墓(土器棺など)が数多くみつっていますが、大淀町でも同じく土器棺がみついている常門遺跡(大淀町越部)、平面円形の住居跡がみついている越部ハサマ遺跡や土田遺跡(大淀町土田)などが知られています。これらは主に、弥生時代前期の終わりごろから中期半ばごろ(2,000~2,500年前)の遺跡と考えられています。

また、吉野川に面した新住遺跡(下市町新住)も、拾われている土器から弥生時代中期の遺跡と考えられ、この時代に吉野川流域では広範囲にわたり人々が居住していたことがわかります。

その対岸にある大淀町佐名伝の民家で、同時代の銅鐸が保管されています。そこに鋳出された文様(横帯分割型)は瀬戸内海東部地域の特徴ですが、付着した土の分析から佐名伝付近で出土した可能性が高く、紀の川を介した海と山の人々の交流を物語っています。



▲佐名伝銅鐸  
(個人所蔵)

弥生時代中期の終わりごろ(2,000年前)を過ぎると、弥生人たちは丘陵の上に集落を営むようになります。

そのうちのひとつが、大和川と吉野川の分水嶺である平畑山(標高約 250m)のうえにひろがる平畑遺跡(大淀町桧垣本)です。ふもとにある大淀町役場との比高差は約 75mで上るのもたいへんです。詳しい調査はされていませんが、弥生時代中期・後期(1,800~2,000年前)の土器が広い範囲で見つかるため、吉野でもっとも大規模な弥生時代の「山上」の集落となる可能性をひめた遺跡です。



## 古墳時代

古墳時代には、吉野川流域と、大和川の支流にあたる曾我川流域で、異なるタイプ横穴式石室をもつ古墳が造られます。飛鳥時代にも古墳は造られ続けますが、7世紀の半ばにはほとんど消えてしまいます。この古墳の分布と特徴が、奈良時代にまとめられた『古事記』『日本書紀』(以下、記紀)の伝承に登場する地域集団を反映していると考えられています。

吉野川沿いの古墳は、石室の石材に吉野川流域でとれる結晶片岩を多用します。記紀によると、天皇の始祖となったイワレヒコ(後の神武天皇)は、九州を出発、大阪湾をう回し、紀伊(熊野)から吉野・宇陀をへて、大和盆地へとむかいます。そのとき、吉野川のほとりで「阿陀人」「国巢人」「吉野首」という「吉野3人組」が天皇を出迎えています。

吉野川沿いの古墳の分布・特徴と、記紀にみえる古代氏族を重ね合わせていくと、五條市北東部の阿田地区、吉野町東部の国栖地区にも、それぞれ6・7世紀代とみられる古墳がみつかり、それぞれ「アダ人」「クズ人」らのイメージと重なります。「吉野首」らは、7世紀後半の天武天皇の時代から「吉野連」姓を名乗り、8世紀(奈良時代)以降、吉野郡司の大領(いわゆる郡長)を歴任する、地元映えぬきの氏族ですが、吉野川沿いの越部古墳(大淀町越部)をはじめ、野々熊古墳(下市町野々熊)、吉野町上市の古墳群などは、「吉野首」らの活動圏とかさなります。また、同じ吉野川流域にあっても、紀の川下流域の古墳に特徴的な「石棚」を石室内にもつ岡峯古墳(下市町阿知賀)や榎ヶ峯古墳(大淀町新野)などは、紀の川流域をおさえていた古代氏族・紀氏とのつながりが想定されます。

一方、曾我川上流域の「巨勢谷」は、巨大な横穴式石室をもつ水鏡塚古墳、水鏡南古墳(いずれも御所市古瀬)のほか、大小の古墳が集中するこの地域最大の墳墓域です。

曾我川をさかのぼった町北西部の大岩には石神古墳があります。巨石を用いて造られた7世紀中ごろの横穴式石室です。その石室の造り方は大和盆地の飛鳥や巨勢谷の古墳と共通していますが、石室内からは結晶片岩の石棺材や、紀の川流域で流行した装飾付きの須恵器がみつかり、吉野(紀の川)と巨勢の両地域をつなぐ埋葬者の性格がみてとれます。

また、7世紀代の石室をもつ保久良古墳(大淀町今木)は、曾我川の源流・今木谷を見下ろす山寄せタイプの古墳で、石室の造り方は巨勢谷の古墳と共通しています。吉野では珍しい墳丘列石も施されており、石室内から結晶片岩の石棺材、紐通し孔のあるソラマメ大の琥珀玉などがみつかり、これらの曾我川水系の古墳は、巨勢谷とその周辺一帯を支配した古代氏族・巨勢氏とのかかわりが深そうです。



▲保久良古墳の琥珀玉  
(大淀町所蔵)

## 飛鳥時代

吉野川流域が「吉野」と呼ばれるようになるのは飛鳥時代と考えられています。この「野」は、吉野川北岸に位置する大淀町東部の丘陵地をさすとの見解が一般的です。またこの頃、大淀町東部の山間部、大淀町比曾の地に古代寺院が創建されます。また、さらに上流の宮滝遺跡には、斉明天皇の時代の離宮(吉野宮・芳野宮)が造営されます。

「吉野寺」は、『日本書紀』の欽明天皇 14 年条に記す、日本で最初に創られた仏を安置した場所とされ、大淀町比曾の世尊寺境内に残る比曾寺がその有力候補です。比曾寺跡はこ



▲比曾寺跡でみつかった軒丸瓦  
(比曾)

れまでの調査で、7世紀半ば(飛鳥時代)にさかのぼる吉野最古の寺院跡として知られています。古代の瓦は、近年の研究によれば、五條市の宇智丘陵で焼かれたものと、比曾付近で焼かれた2種があることもわかってきました。

また、比曾寺跡から南に400m下った比曾川東岸の段丘上(トノカイト遺跡)でも、7・8世紀代の須恵器や硯の破片、金属加工の残り滓、瓦片などがみつかり、寺院とセットになる「工房」などがあつたと想定されています。

## 奈良・平安時代

比曾寺は飛鳥時代に吉野寺、奈良時代に比曾(蘇)寺、平安時代には法号で現光寺と呼ばれるようになります。奈良時代にまとめられた『万葉集』にも吉野の風景が数多く詠われます。

土田遺跡では、7世紀後半から8世紀(飛鳥時代後半から奈良時代)にかけての、規則的に並ぶ掘立柱建物と蛇行する溝がみつかり、蛇行溝は、中国起源の年中行事「曲水宴」がイメージされる庭園の一部とみられています。奈良時代の後半期には埋没してしまつたようです。これらの施設は、吉野ではほかに例がないことから、奈良時代前半期に設けられた吉野郡の役所(吉野監・郡家)とのかかわりも想定され、瓦を葺いた建物だった可能性も考えられています。

平安時代には山上ヶ岳(天川村洞川)を中心とした「金峯山信仰」が盛んになり、奥吉野とその入口にあたる吉野山が吉野地域の信仰の中心となっていきました。それにつれて京都や南都(奈良市内)から吉野へとむかう道や吉野川を舟で渡る「渡し」が整備されています。

柳の渡しは、大淀町北六田と、南岸の吉野町六田とを結んだ渡舟場で、平安時代に醍醐寺の開祖である理源大師・聖宝(832-909)が開いたとされ、美吉野橋がかかるまで、「桜

の渡し(桜橋)」「椿の渡し(椿橋)」「桧の渡し(千石橋付近)」とともに、大いに賑わいました。

平安時代の史料に登場する古代寺院の候補地が越部ハサマ遺跡です。越部1号墳の石室から「堂」の字を墨書きした10世紀後半の平安時代の土器(皿)がみつかり、9世紀頃に書かれた『<sup>にほんりょういき</sup>日本霊異記』に記す「<sup>こしべの</sup>越部<sup>おかのどう</sup>岡堂」で使われたものとみられます。



▲馬佐薬師堂の木造薬師如来坐像  
(馬佐)

安養寺権現堂(大淀町中増)に安置されている木造蔵王権現立像は、平安時代後期に位置づけられる吉野地域でもっとも古い権現像です。大岩大日堂(大淀町大岩)に残る木造大日如来坐像も平安時代後期のもので、古代以来の古密教とのかかわりを物語っています。また町内各地には、佐名伝の「禅(称)林寺」、今木の<sup>いまきでら</sup>「今木寺」、田口安佐谷の寺院等、伝承となっている寺院があります。

田口安佐谷の寺院については既に廃絶して詳細はわかりませんが、ゆかりの仏像群が馬佐薬師堂(大淀町馬佐)や安養寺(大淀町中増)などに残されています。馬佐蔵坂遺跡(大淀町馬佐)からは古代の火葬墓が見つかり、田口安佐谷の寺院との関連が考えられます。

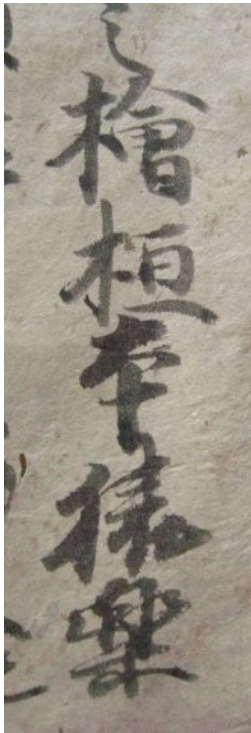
薬水遺跡(大淀町薬水)では発掘調査がおこなわれ、平安時代後期から鎌倉時代にかけての居館跡と溜井、土器溜まりがみつかり、また、大岩古墳群では、奈良時代から室町時代にかけて石室の再利用が行われており、安土・桃山時代からは石塔をとまなう墓地群を形成し始めます。

#### 鎌倉・室町時代

鎌倉時代には、大和国を支配していた興福寺や、山岳地域を中心とする修験道の隆盛に加え、浄土宗や浄土真宗といった鎌倉新仏教の進出で、多彩な宗教文化が花開きました。また、室町時代には、<sup>ひがいちとさるがく</sup>桧垣本を中心に芸能活動をしていた「<sup>かんぜけ</sup>桧垣本猿楽」が観世家との結びつきを深め、京都や各地に出向いた記録を残しています。

径30mの積石塚である石塚遺跡(大淀町下淵)では、付近に立っていたとされる<sup>しょうわ</sup>正和4年(1315)銘の大型五輪塔の残欠が見つかり、現在は鈴ヶ森行者堂(大淀町下淵)に移されています。御所方面から今木を通して吉野へとぬける車坂峠(標高220m)の頂上にあることから、山岳信仰とのかかわりが想定されます。

佐名伝の「禅(称)林寺」については、山口県長門市仙崎の<sup>しょうおう</sup>清月寺に正応2年(1289)の銘をもつ梵鐘(山口県指定文化財)が知られています。また、明治時代の地籍図をみると、佐名伝には「北堂」「堂ノ前」など、寺院にかかわる地名が残されています。



▲「檜垣本猿樂」の文字（吉野山竹林院所蔵文書より）

檜垣本一帯は、鎌倉時代後期に南都・春日社（現・春日大社）の荘園になっていたことを示す記録があります。室町時代に檜垣本猿樂がこの地を拠点に台頭してくる背景を考える手がかりとなります。

檜垣本猿樂にかかわる資料は大淀町内にはほとんど遺されていませんが、面打ちとして知られた「檜垣本七郎」作の能面が、吉野町・和歌山県かつらぎ町・石川県金沢市などに残されています。

また史料などから、能樂の囃子方（<sup>はやしかた</sup>笛方・太鼓方）の芸祖たちが「檜垣本」を姓として名乗っていたことが知られています。この檜垣本猿樂は室町時代の終わり頃になると、大和猿樂<sup>よぎ</sup>四座の筆頭・観世家との関係を強めていき、やがて地元を離れていったと考えられます。

矢走城跡（<sup>やばせじょうあと</sup>大淀町矢走）、下湊城跡（大淀町下湊）は戦国時代（室町時代後期）の山城とされています。未調査のため詳細はわかりませんが、矢走城跡は廓や竪堀、堀切、平坦面がよく残っており、城跡からは14世紀に溯る土師器皿や、16世紀の中国製磁器碗（青花）片が採集されています。また、近年の踏査により谷を挟んだ西側の字シガイクボにも山城跡が確認され（矢走西城）、一連の城郭施設として注目されています。

室町時代の終わりごろには豊臣秀吉による天下統一がなされ、荒廃した地域や吉野山の社寺も整備されていきました。太閤検地にかかわる文禄5年（1596）の土地台帳が大淀町持尾に残されており、江戸時代につながる村のようすがうかがえます。

享保21年（元文元年・1736）に開版された『大和志』の「吉野郡村里」の記述によると、江戸時代以前の吉野郡では335の村が20の<sup>しやう</sup>荘に分かれていました。このうち、吉野川北岸にあたる今の大淀町域には21の村があり、それらは次に述べる4つの荘に属していたようです。〈<sup>いけだのしやう</sup>池田荘〉大淀町域では、比曾・西増・中増・増口・北六田の5か村が属していました。「池田荘」は、吉野川を挟んで対岸にある吉野山を含めた、広い範囲にまたがる荘園でした。

〈<sup>きたのしやう</sup>北ノ荘〉吉野郡の最北部を意味するとみられる「北ノ荘」も広いエリアにまたがっています。大淀町域では、薬水・今木・大岩・鉾立・岩壺・持尾・矢走・芦原・畑屋・馬佐・檜垣本・下湊の12か村が属していました。「北ノ荘」は今でも「北郷」という地域を示す呼び名に残っています。〈<sup>かんじやうのしやう</sup>官上ノ荘〉「北ノ荘」と「池田荘」に挟まれた、現在の下市町域にまたがる地域が「官上ノ荘」です。大淀町域では、吉野川に沿った土田・越部・新野が属していました。

〈<sup>さなてのしやう</sup>佐名伝荘〉町域の西端にあたる今の佐名伝は、宇智郡宇野荘の附属地でした。佐名伝は昭



▲江戸時代以前の大淀町域

和27年(1952)、大淀町に合併・編入するまで宇智郡に属していました。

### 江戸時代

江戸時代になると、それ以前の地域的なまとまりはいったん解消されます。吉野郡内はモザイクのように3種類の領(幕府領・旗本領・大名領ほか)に分断され、地元の有力者が庄屋・年寄(庄屋の補佐役)・百姓代(一般村民の代表)として村々を統治しました。具体的には、「北ノ荘」の岩壺・持尾と矢走の北半部、「池田荘」の比曾・西増の計5か村は旗本の中坊氏に、「北ノ荘」の薬水は高取城を支配する大名・植村氏にゆだねられ、「官上ノ荘」の土田・越部の大半は後述のように紀州徳川家の支配地となりました。

元和5年(1619)に徳川頼宜よりのぶが紀州徳川家の初代藩主となって以降、和歌山城から江戸に向かう参勤交代の重要な道として「伊勢南街道」が整備されました。伊勢南街道は、和歌山県から紀の川および吉野川をさかのぼり、奈良・三重県境の高見峠を越えて三重県松阪市へ向かう和歌山街道の別称です。大淀町域では西端の佐名伝から東端の増口の約10kmがそれにあたり、増口地区は特にその町並みに、当時の街道の歴史的景観をとどめているところです。

とりわけ土田・越部は紀州藩の所領となり、越部に徳川家の宿場としての本陣(秋山家)と脇本陣きちじょうけ(吉條家)が、土田には馬を取り扱う伝馬が設けられていました。江戸時代の半ば頃から「おかげまいり」と称して熱狂的な伊勢参り



▲「おかげ」の文字を刻んだ石灯籠  
(大淀町中増・小幡神社)

が流行しましたが、伊勢南街道も旅人たちで賑わい、その名残の「講(伊勢講)」の記録や石灯籠が町内各地に残っています。

また、大淀町内を南北に横断する峠越えの街道(芦原峠越え、壺阪峠越え、車坂峠越え)も、大阪や京都・奈良と吉野をむすぶ交通路として江戸時代に整備されました。とりわけ、吉野川沿いの村々は農地も少ないため、街道がもたらす物流と各地の情報を生かして、商業重視の集落として発展していきました。

### 明治～令和時代

明治 21 年(1888)、「市制」「町村制」が公布されました。その気運をとらえて、吉野郡北部の 20 の村(佐名伝をのぞく今の淀町域にあった村)は、奈良県知事宛に新たな村を作る「合併村願」を出しました。20 の村が合併し、新しい村を発足させる世話人として、増口のおおきたさくじろう、大北作治郎、越部のきちしょうくめとく、吉條久米徳、桧垣本のしょうじきちへい、下淵のよしなまいじ、吉井榮治と俵本茂一郎の5名が選ばれました。

このメンバーによる度々の話し合いで、新村名については、吉野山の北にあるので「北吉野村」、吉野山の下流にあるので「下吉野村」、3つのグループ(郷)が統合するので「三郷村」など、様々な意見が出たようです。これに対し大北は「大北村」を提案し、吉井は下淵にある「座頭淵ぎとうぶち」のあたりの「よど(澱・淀)」に「大」の字を冠してはどうかと提案。最終的には、この「大淀」が妥当と合意されました。

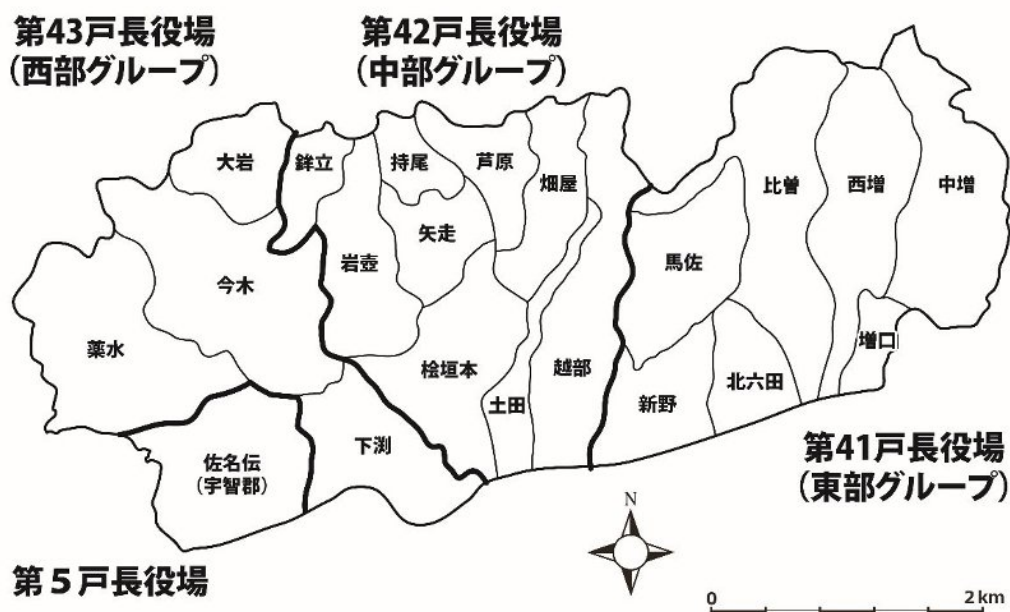
この新村名については、明治 21 年(1888)9月、奈良県に提出された文書のなかに、「古史上ニ称スル大川ノ淀ノ名称ヲ保存センガ為ニ村名ヲ大淀村ト選定ス」と記されています。この「古史」は『万葉集』のことで、「大淀」が「今しくは 見めやと念ひし み芳野の 大川淀を 今

日見つるかも」という万葉の古歌に基づいているのだ、との考えです。このように当時の関係者が、『万葉集』の「大川淀」を町名の由来とすることで意見がまとまり、「大淀」という新村名が採択され、明治 22 年(1889)4月に「大淀村」が誕生。20 の村は、大淀村の「大字」として位置づけられました。

この大淀村は、大正 10 年(1921)2月までの 32 年間続きましたが、明治初期の大小区制時代のグループ意識が根強く、村長・助役・収入役が利害関係によりほぼ1年ごとで交替するなど、村政が不安定でした。そのため明治 35 年(1902)9月には、奈良県に対し「大淀村ヲ廢シ三ヶ村分置ニ関スル建



▲吉野川の河畔に建てられた「大川淀」の万葉歌碑(大淀町下淵・鈴ヶ森)

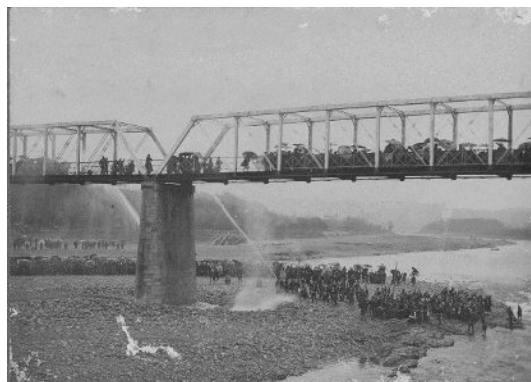


▲明治・大正時代の大淀町域

議書」が提出されました。これは、大淀村を旧東部グループの「北吉野村」、旧中部グループの「北郷村」、旧西部グループの「下淵村」に分割するという案でした。しかし奈良県は、利害関係についてはよく考えて対処し、模範的自治体として現状維持せよとの回答を出し、この建議書を却下しました。結局、奈良県の指導により分村の危機は回避されましたが、この境界区分は現在でもある程度、町内の小学校区・通信事業の管轄区域(郵便・電話番号の局番)などにみることができます。

明治時代の終わり頃から大正時代にかけて、大淀村では梨の栽培(大阿太高原)や茶の生産、養蚕業等の近代産業が盛んになりました。大正元年(1911)には待望の鉄道(吉野軽便鉄道)が村内に開通し、「吉野口駅(御所市)」を基点として「下市口(大淀町下淵)」「吉野駅(大淀町北六田)」が設置され、企業誘致が促進されました。これにより大淀町は、下市口駅を基点に、吉野川を渡る地域交通の要衝である千石橋をへて、その南方にひろがる吉野地域の交通・物資流通の拠点として位置づけられていくことになります。この鉄道創設時の近代化遺産(トンネル・駅のプラットフォーム等)は現在でも現役で使われています。

また、大正8年(1919)には、北六田と対岸の六田を結ぶ「柳の渡し」にかえて、美吉野橋が



▲千石橋のようす  
(明治45年・大正元年)

完成しました。これは木製の5連橋でしたが、吉野山観光を促進する起爆剤ともなりました。

上記のとおり町制施行の諸条件も整ってきた大淀村は、大正10年(1921)2月11日をもって「大淀町」となります。初代の大淀町長には、大正8年(1919)に大淀村長となった新野出身の石田富雄が就任しました。この2月11日は、初代・神武天皇の即位日にあたる「紀元節」で、当時奈良県では最良の「佳節」とされた日でした。

大淀町の誕生を祝う町制施行祝賀会は2月11日の午前11時から行われました。午後は各大字で催し物があり、翌日にかけて太鼓台や屋台がくり出し、大賑わいでした。あいにくの雨で、予定されていた祝賀会当日の小学校児童の旗行列は取りやめとなりましたが、下流から増口にいたる県道(現在の国道169号線)の両脇に国旗・軒燈(イルミネーション)が掲げられ、煙火(花火)の打ち上げなどもあり、町民こぞっての祝祭がなされたようです。

昭和時代は、金融の大恐慌から幕を開けました。続く第二次世界大戦下では厳しい食糧難と軍事政権の圧力下で、民衆は苦しい生活を強いられました。戦時中の傷ましい記憶は、「戦争遺産」として町内外に残されています。

終戦後の復興期は、大淀町にとっても激動の時代でした。1970年代には高度経済成長の追い風に乗って町の人口が1万6,000人に達し、吉野郡の中核自治体として自他共に認める豊かなまちとなりました。1973年には『大淀町史』も刊行され、その後も町内各地でニュータウン(住宅団地)の開発が続きます。

大淀町は平成12年(2000)前後の人口ピークを境に、持続可能なまちづくりをめざして、開発重視から住民のくらし・文化の成熟を目標とする自治体へと舵を切ることになりました。



▲大淀町役場周辺（南東から）



## 第 2 章

# 大淀町の地域遺産

### 1 指定等文化財

大淀町には、吉野・高取山系と吉野川によって育まれた歴史文化の所産として、縄文時代から今にいたるまで、さまざまな地域遺産があります。

大淀町では昭和60年(1985)6月26日に制定された「大淀町文化財保護条例」に基づき、これらの地域遺産の調査と保存・活用に取り組んでいます。なかでも、特に貴重な地域遺産については、「指定等文化財」として指定し、その保存・活用を進めています。現在のところ大淀町内には、国指定(1)、県指定(3)、町指定(17)、計21件の指定等文化財があります。

指定等文化財は、下記のとおり文化財保護法に基づく6つの類型(有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群)に分類されます。以下では、指定区分および類型ごとに指定等文化財の概要を記します。

大淀町内の指定等文化財の状況（令和5年8月時点）

類 型		国指定・選定	県指定	町指定	国登録	小計	
有形文化財	建造物	0	1	0	0	1	
	美術工芸品	絵画	0	0	1	0	1
		彫刻	0	1	7	0	8
		工芸品	0	0	0	0	0
		書跡・典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	0	0	0
		歴史資料	0	0	1	0	1
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	2	0	0	
	無形の民俗文化財	0	0	1	0	0	
記念物	遺跡	1	1	3	0	0	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	2	0	0	
文化的景観		0	-	-	-	0	
伝統的建造物群		0	-	-	-	0	
合 計		1	3	17	0	21	

※〔 0 〕は指定したものがなく、〔 - 〕は制度上存在しないことを示しています。



▲大淀町内の指定等文化財地図

【国指定（記念物・遺跡）】比曾寺跡（比曾）

比曾寺(比蘇寺)の創建は、多くの謎に包まれています。奈良時代(8世紀頃)には、東西に塔を配置する薬師寺式の伽藍を整えていたと考えられます。比曾寺は、奈良時代に成立した歴史書『日本書紀』の欽明天皇 14 年(553)条、「…今吉野寺放光樟像也」の一文にいう「吉野寺」とされ、日本で最も古い仏像の伝承を残す寺院です。また、平安時代には「現光寺」とも呼ばれ、吉野地域を代表する仏寺巡礼地の一つとして知られていました。

大淀町比曾の世尊寺境内には、比曾寺の塔跡の礎石が残されているほか、平成 17 年(2005)の調査で、鎌倉時代から南北朝時代にかけての寺院の東端部分や、西大寺とのかかわりを示す瓦などが見つかりました。比曾寺の東塔跡に建っていたとされる、高さ約 25mの鎌倉・南北朝時代の三重塔は、文禄3年(1594)9月、豊臣秀吉によって伏見に移された後、



▲史跡比曾寺跡 東塔跡（北西から）

慶長6年(1601)、徳川家康が園城寺(三井寺・滋賀県大津市)に寄進しました。現在は国の重要文化財(建造物)となっています。

その後比曾寺は、江戸時代半ばの寛延4年(1751)、禅宗寺院の世尊寺として復興され、現在に至っています。

昭和2年(1927)にはその重要性が認められ、同年4月8日、国指定の史跡となりました。

近年は、納骨堂の建て替えにともなう調査や塔跡を中心とした測量調査などがおこなわれ、飛鳥時代から江戸時代にかけての寺域の変遷なども検討が進んでいます。

【 奈良県指定（有形文化財・建造物）】 世尊寺太子堂（比叡）

太子堂は、大淀町比叡にある世尊寺本堂の南西に東面して建っています。高さは礎石から棟まで約7.8m。方三間（一辺7.9m）で寄棟のお堂（法堂）の後ろに入母屋の張り出し部（角屋）がつく、奈良県内でも珍しい造りの建物です。

創建年代はわかりませんが、建物の軒丸瓦には、後醍醐天皇（1288-1339）から賜った寺名「栗天奉寺」の「栗」の字が残されています。また角屋の鬼瓦には享保7年（1722）の銘、棟の飾り瓦には寛政8年（1796）の銘があり、同年の修理札もみつかっています。平成16年（2004）3月に縁の修理が、平成28年（2016）から平成31年（2019）にかけて床材の補修工事が行われ、今日に至っています。平成元年（1989）3月10日、太子堂は、寛政8年（1796）の修理札とともに奈良県指定文化財（建造物）となりました。

なお、世尊寺では毎年4月29日（かつては4月22日）、聖徳太子報恩大会式（おた いっさん）が行われます。なお、太子堂本尊の聖徳太子孝養像は、鎌倉時代（13世紀後半）に制作されたものです。

【 奈良県指定（有形文化財・彫刻）】

木造十一面観音立像（比叡）

世尊寺に残る十一面観音立像は、高さ



▲世尊寺太子堂（比叡）



▲木造十一面観音立像（世尊寺蔵）

222cm の巨像です。カヤ材による一木造りで、木彫像としては吉野地域で最も古い、奈良時代後期の作と考えられています。頭部は後世の補作で、元禄 13 年(1700)、京都の仏師家城左近による修理がなされています。昭和 29 年(1954)におこなわれた像内の納入品の調査では、鎌倉時代から江戸時代までの古文書、経典類が発見され、そのなかには「和州大だい御輪寺 比丘高びく覚」が中心になっておこなった、寛文2年(1662)の修理記録もありました。

平成 18 年(2006)3月 31 日、その価値が認められ、奈良県指定文化財となっています。その後、平成 26 年(2014)に本格的な修理がおこなわれ、往年の美仏がよみがえりました。

### 【 奈良県指定（記念物・遺跡） 】 石神古墳 附 大岩 2 号墳（大岩）



▲石神古墳（大岩）

石神古墳は、大淀町大岩集落の北端、標高約280mの丘陵の頂部に築かれた、直径22.5m、高さ約4.3mの円墳です。花崗岩の自然石を積みあげた全長約10mの横穴式石室が、南にむかって開いています。

石室は、奥の部屋(玄門)が長さ4.2m、幅・高さは共に2m、手前の通路部分(羨道)が長さ5.8m、幅1.5m、高さ1.6mを測ります。また、奥の部屋の壁石が2段積み、通路部分の壁石が1・2段積みで、石の表面を平たく揃えてあるところに、近畿の主な横穴式石室の特徴がみいだせます。

発掘調査の結果、吉野川産の緑泥片岩の石棺材や鉄釘などの金属製品、7世紀中頃の装飾付き須恵器(子持器台)がみつかって

います。7世紀の装飾付き須恵器は全国的にも珍しく、それ以前の6世紀では、紀ノ川下流域の古墳でよくみられる特徴的なものです。この古墳の被葬者は、吉野・紀ノ川を通じたの交易・交流にかかわり、飛鳥に都をおいた中央政権ともつながりをもちながら、この周辺地域を拠点に、北と南・西への交通路を使って勢力を蓄えた有力者とみることができます。平成24(2012)年3月30日、その重要性が認められ、奈良県指定文化財(史跡)となりました。

現在、大岩の遺跡はゴルフ場へと姿を変え、昔日の面影を知ることは難しくなりましたが、石神古墳と、大岩大日堂の脇に移築された大岩3号墳の箱式石棺が、古代の大岩を今に伝えています。

【大淀町指定（有形文化財・絵画）】 現光寺縁起絵巻（比叢）

この絵巻は、吉野郡最古の寺院である比叢寺（現光寺）から世尊寺に伝わったもので、飛鳥時代の創建から、鎌倉時代の再興までの当寺の縁起が記されています。絵巻は上下2巻からなり、上巻は詞6段・絵6段、下巻は詞7段・絵6段で、絵画・漢文かな交じり体の文により構成されています。紙高（巻物の上下の長さ）はどちらも35cm、長さはそれぞれ約9mです。上巻は、光を放つクスノキ材で作られた日本最古の釈迦・観音像の由来と、仏像2軀が当寺に祀られるまでの由緒が説かれ、下巻は、沈水香じんすいこうの流木で作られた十一面観音像と聖徳太子像の由来、比叢寺（現光寺）の寺号・山号の由来、伽藍の様子、天皇の行幸などが語られています。

この絵巻の制作年代は、比叢寺（現光寺）が世尊寺として復興される直前の17世紀後半頃と推定されます。また、絵の作者は、同時代の絵巻資料との比較から、京都狩野派の絵師と推定されます。この絵巻は、17世紀代に高まった名刹復興の気運の中で、当時を代表する名筆家と絵師の手によって制作されたと考えられます。また、文学・芸術作品としても、制作当時の吉野の風景、生活、人々の様子を知る手がかりとしても貴重なものです。平成20年（2008）、大淀町指定文化財（絵画）となりました。



▲現光寺縁起絵巻（全2巻）の収納状態  
（世尊寺所蔵）



▲現光寺縁起絵巻  
上巻の絵の一部  
（世尊寺所蔵）

【大淀町指定（有形文化財・彫刻）】 今木蔵王権現堂内外石仏群（今木）

大淀町今木の蔵王権現堂内外には石仏群（石造物群）があります。堂内の蔵王権現像には「永禄十二年（1569）」「備中国（岡山県）」の銘文、役行者像には「永禄十一年（1568）」「ハウキ大山（鳥取県）」「備中国（岡山県）」の銘文、龍王像には「永禄十二年」「備中国」の銘文があって、ほぼ同じ年代に造られたものです。

特に石造りの蔵王権現像は奈良県内でも珍しいものです。権現堂脇にある石仏にも、「永



▲今木蔵王権現堂内の石仏群（今木）

禄十二年「<sup>ほうきだいせん</sup>伯耆大山」「出雲大社(島根県)」の銘文があります。この頃には、すでに権現堂付近に、遠く離れた山陰地域とゆかりの深い石仏が祀られていたようです。平成5年(1993)5月1日、これらの石仏群17点が、あわせて大淀町指定文化財(有形文化財)となりました。

【大淀町指定（有形文化財・彫刻）】

木造金剛力士像 二軀（仁王阿形像 仁王吽形像）（今木）

大淀町今木の泉徳寺(蔵王権現堂)を中心とした一帯は、中世から近世にかけての修験道の歴史と、民間信仰のかたちを残している貴重な場所です。東方山上の山門には延宝5年(1677)の棟木が残っています。もと本寺にあった梵鐘の銘に「権現応跡 小角草創 洪基歳



▲木造金剛力士立像 阿形  
（今木）

雋再興至維時 明暦三年(1657) 本願海雄」の文字があったといい(『大淀町史』)、この頃の住職・海雄が、山門の整備とあわせて権現堂を再興したようです。

山門にある木造金剛力士像(阿形・吽形)は、文禄4年(1594)、泉州(大阪府)の大寺より天狗が両脇に抱えて飛んできた、との伝承があります。阿形像の内側には、「南無日天子 明暦貳年(1656) 大坂今橋道(通)リ尼崎町住ス 摂州四天王寺 上宮聖徳太子之大佛師 国見大部郷藤原重光作 申七月十五日」の墨書があり、伝承より約60年後に作られていたことがわかります。力強い作風と制作年・作者がわかる貴重な仏像として、平成2年(1990)7月1日、金剛力士像2体が大淀町指定文化財(彫刻)となりました。

【大淀町指定（有形文化財・彫刻）】木造大日如来坐像（大岩）

大淀町大岩の大岩大日堂には、高さ約160cmの仏像が伝わっています。元禄10年(1697)に丹生谷(高取町)の山中から移されたとも伝えますが、来歴は定かではありません。

この仏像が安置されている大日堂の正面には、かつてこの大日堂とともに栄え、明治時代に廃寺となった浄土宗「安楽寺」の扁額がかけられています。

この仏像は、右手で左手の人差し指を握る(智<sup>ち</sup>拳印<sup>けんいん</sup>を結ぶ)、金剛界曼荼羅の大日如来を表現した坐像です。材質はクスノキで、素木のまま仕上げられています。光背・台座は後補ですが、その特徴から、平安時代後期の作と考えられます。かつて夏の日照りが続いた時、大日さんが雨を降らせてくれると、このお堂の前で雨乞い行事がおこわれたといわれています。

民俗行事の歴史を伝え、吉野地域でも優れた仏像としての価値が認められ、平成2年(1990)7月1日、大淀町指定文化財(彫刻)となりました。



▲大岩大日堂・木造大日如来坐像  
(大岩)

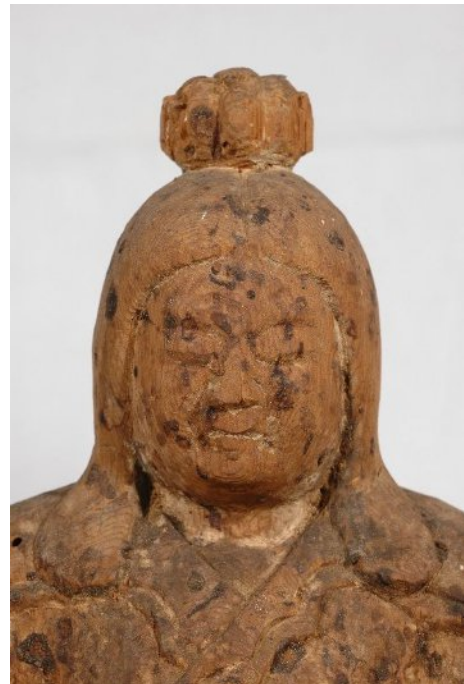
【大淀町指定（有形文化財・彫刻）】

木造男神・女神坐像

附 木札(天文十八年)1点(大岩)

大淀町大岩の氏神・大岩神社には、古くから計6軀の神像が伝わっていました(現在は大岩自治会所蔵)。その姿は、束帯<sup>そくたい</sup>の男神像と唐服<sup>とうふく</sup>の女神像です。いずれも木造で素地仕上げ、像高は16.1cmから18.7cm。男神と女神はそれぞれ3軀あります。

男神像(1)と女神像(1)は両目を膨らみだけであらわす表現や的確な量感把握が共通しています。男神像(2)と女神像(2)は脚部材の木寄せが共通し、男神像(3)と女神像(3)はともに広葉樹材を用い頭部を小さく造る特徴が共通することから、三対の神像が合祀されたものとみられます。いずれも小像ながら本格的



▲木造女神坐像の顔  
(大岩自治会所蔵)

な作風で、均整のとれた姿から鎌倉時代後期(13世紀後半から14世紀前半)の作とみられます。平成31年(2019)3月27日、大淀町指定文化財(彫刻)となりました。

また、「西カマチ(框) 天文十八年(1549)七月十日 ハシラタテ(柱立て) ムマノトチ(午の土地か)」の墨書がある旧社殿の建築部材も、神像の由来を示す関連資料として貴重であることから、<sup>つけたりしい</sup>附指定となっています。

【大淀町指定(有形文化財・彫刻)】

木造薬師如来坐像・木造十一面観音立像・木造地藏菩薩立像(馬佐)



▲馬佐薬師堂内の仏像群(馬佐)

大淀町馬佐にある妙楽寺に馬佐薬師堂があります。この薬師堂の本尊・木造薬師如来坐像とその脇侍(木造十一面観音立像・木造地藏菩薩立像)は平安時代後期に遡る仏像群で、大淀町北方の「安佐谷(田口地区)」から<sup>あさだに</sup>妙楽寺境内へ移されたと伝えられています。

薬師如来坐像はヒノキ材



▲馬佐薬師堂  
木造十一面観音立像  
(馬佐)

の寄木造で像高151cm。左手は膝上でてのひらを上にして薬壺をもち、右手はてのひらを正面にむけ、六角形の裳懸座に座っています。室町時代の補修も著しいですが、「<sup>はんじょうろく</sup>半丈六」(約4尺)相当の巨像であることや全体の像容からみて、11世紀後半～12世紀前半の制作と考えられます。平成31年(2019)3月27日、大淀町指定文化財(彫刻)となりました。

十一面観音立像(像高192.5cm)と地藏菩薩立像(像高160cm)はいずれも広義のサクラ属(ヤマザクラか)で作られた一木造りの巨像で、彫り方にも共通点があります。令和3年(2021)8月31日、大淀町指定文化財(彫刻)となりました。吉野地域で平安時代の仏像がまとまって保存されている場所は珍しく、仏像群の由来が注目されます。



【大淀町指定（有形文化財・彫刻）】 木造蔵王権現立像（中増）

大淀町中増の安養寺境内には、正徳3年(1713)建立の棟木札を残す蔵王権現堂があります。この蔵王権現堂には、厨子入りの木造蔵王権現立像(高さ33.8m)が伝わっています。

この像は、銘文や作者名等の情報は得られていませんが、材質は桧で彩色・<sup>さいしき</sup>・<sup>きりかね</sup>截金が施されています。全体の姿形や穏やかな表現などは、平安時代末期(12世紀)の特徴を示します。厨子・台座・光背などは後世の補修ですが、おおむね当初の像容、彩色をよく残し、地域の信仰の対象として、現在も大切に受け継がれています。

現在確認できる限りにおいて、吉野地域に残る最古の木造蔵王権現像として貴重です。平成29年(2017)8月7日、大淀町指定文化財(彫刻)となりました。



▲木造蔵王権現立像  
(安養寺所蔵)

【大淀町指定（民俗文化財・有形の民俗文化財）】 石塚遺跡（下淵）

大淀町下淵にある石塚遺跡は、車坂峠の頂上にある直径約30m、高さ7mの塚です。この塚は主に近くの地層に含まれている、握りこぶしから人の頭サイズの石を積み上げて造られています。この石塚が築かれた年代を考える唯一の手がかりは、昭和22・23年(1947・1948)頃に付近で発見された巨大な五輪塔の一部です。これは、葛城石(奈良県西部の葛城山付近でとれる花崗岩)を用いて造られています。

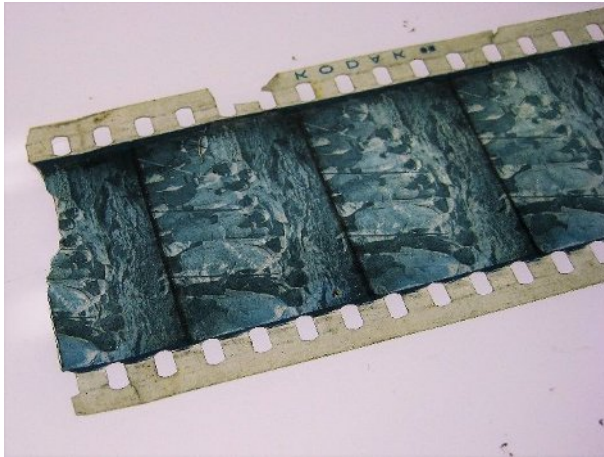


▲石塚遺跡と復元五輪塔（下淵）

なかでも、約70m四方に復元される地輪(方形)には、「六百<sup>しょうわ</sup>人念佛衆造立」「正和4年(1315)卯月(旧暦4月)8日」の銘文が刻まれており、鎌倉時代後期にはこの五輪塔が付近

に立っていたと推測されます。この地輪は現在、鈴ヶ森行者堂(下湊)に移されていますが、石塚付近に残っていた火輪(三角形)、空・風輪(宝珠形・半月形)の残欠を使って、高さ約2mの五輪塔が現地に復元されています。平成2年(1990)7月1日、信仰遺跡としての価値が認められ、大淀町指定文化財(有形の民俗文化財)となりました。

【大淀町指定(有形文化財・歴史資料)】 岸田日出男関係資料・35mmフィルム4巻



▲35mmフィルム(『吉野群峯』)の一部

平成28年(2106)12月、岸田日出男(1890-1959)が暮らした大淀町北六田の自宅から、多くの歴史資料と共に古びた35mmフィルム4巻が発見されました。そのフィルムに遺されていたのは、今からおよそ100年前に遡りかのぼる吉野・熊野の原風景でした。

最古のものは、大正11年(1922)8月に撮影された、<sup>おおみねおくがけみち</sup>大峯奥駈道や大台ヶ原の映像であることが判明しました。現在

のところ奈良県内に残されていた最古の映像群となる可能性があります。

〈吉野群峯〉大正11年(1922)8月、内務省衛生局の撮影隊は大峯山系・大台ヶ原の映像をカメラに収めました。岸田も吉野郡役所の職員として、撮影隊に同行していました。それを編集したサイレント映画『吉野群峯(全3巻)』は、吉野地域を映像化した現存最古の作品です。今回発見されたのは、全3巻のうち第2巻(八経ヶ岳～前鬼 大峯奥駈道)と第3巻(大台ヶ原～川上村大滝)です。いずれも映像にタイトルはありませんが、収納缶に「内務省衛生局撮影吉野群峯写真」の題名があり、それを作品名としています。

〈瀨八丁実写〉大正12年(1923)に撮影されたサイレント映像の一部です。ネガフィルムとして残されていたもので、正式な作品としては公開されていませんが、収納缶のなかに「瀨八丁実写」のメモ書きがあり、これを作品名としています。その映像には、奈良県・三重県・和歌山県の三県にまたがる瀨峡(特別名勝・天然記念物の瀨八丁)が登場します。そそり立つ岸壁や川下りの舟、川辺に咲くつつじ、いかだ流しの様子など、およそ百年前の瀨峡が記録された貴重な映像です。

〈熊野路〉昭和12年(1937)の作品です。鉄道省の企画で製作され、<sup>ゼー・オー</sup>J・O・スタジオが撮影と編集を、日本ビクター管弦楽団が音楽(BGM)を担当しています。フィルム撮影は、吉野熊野国立公園が指定を受けた後、昭和11年(1936)から12年にかけておこなわれたようです。

映像は、和歌山県南端の串本から始まり、那智・新宮・瀬峡・本宮を経て三重県熊野市に至ります。南紀熊野の名所や人々の暮らしが、BGMとナレーションに併せて紹介されています。これらのフィルムは、令和3年(2021)8月31日、大淀町指定文化財(歴史資料)となりました。

【 大淀町指定（有形文化財・天然記念物）】

岸田日出男関係資料・ニホンオオカミ頭骨標本

岸田日出男関係資料のなかには、イヌ科動物の頭骨(上顎骨)が含まれています。その全長は21.3cm、上顎骨最下部の長さ20cm、頬骨の幅11.7cm。保存状態は良好ですが、下顎骨はすでに失われています。これは、岸田日出男が昭和14年(1939)6月20日、吉野郡上北山村西原天ヶ瀬<sup>にしはらあまがせ</sup>の民家から譲りうけたもので、明治時代に同地で捕獲された記録が残ります。その形態的な特徴や、骨に含まれているミトコンドリアDNA配列の分析をおこなった

結果、絶滅動物であるニホンオオカミの頭骨と判定されています。有形文化財(歴史資料)としての価値と、天然記念物(動物標本)としての価値をあわせもつことや、その来歴が判明する奈良県吉野産のニホンオオカミの頭骨としても貴重であることから、令和5年(2023)3月31日、大淀町指定文化財(有形文化財・天然記念物)となりました。



▲ニホンオオカミの頭骨標本  
(大淀町所蔵)

【 大淀町指定（民俗文化財・無形の民俗文化財）】 畝火山口神社の水取神事（土田）

毎年7月26日の午前10時～11時ごろ、畝<sup>うねび</sup>火山口神社(橿原市)の夏季大祭(でんそそ祭り)に用いる水を汲む水取り神事が、大淀町土田の大ケヤキの樹下の川辺(通称ケヤキウラ・ケヤキガフチ)でおこなわれます。

この神事は、名勝・大和三山のひとつ畝傍山と県有数の大河・吉野川の水を結ぶ珍しい民俗行事で、宝暦9年(1759)の「畝<sup>うねび</sup>火山口神社大谷家文書



▲水取り神事の様子（土田）

(天理図書館所蔵)」を初見記録として、現在まで引き継がれてきています。

またこの神事は、大和国中(奈良盆地)の人々にとって、「吉野川の水」がもつ意義を象徴的に示す民俗として、また、畝火山口神社の神事でありながら、地元(大淀町土田)の人々が神事を支えてきた点に、両地域のつながりがうかがえる貴重な民俗として、平成26年(2014)3月28日、大淀町指定文化財(無形の民俗文化財)に認定されました。

#### 【大淀町指定(記念物・遺跡)】 保久良古墳(今木)

大淀町今木の小字「津角山」<sup>つかやま</sup>にある保久良古墳は、南向きを開いた横穴式石室をもつ直径約15m、高さ約4mの円墳で、石室には花崗閃緑岩が用いられています。墳丘西側から南側裾部にかけて、外護列石(墳丘の土留めの役割を果たす積石)がみつかっています。石室は全長約9.5m、奥の部屋(玄室)と通路部分(羨道)からなります。玄室は、長さ約3.5m、幅1.3~1.5m、高さ約1.8m以上で右側(西)に小ぶりの袖部を有しています。羨道は、長さ約6m、幅1~1.2m、高さ約0.8m以上です。羨道が玄室や墳丘規模に比べて長いのが特徴です。石室内からは吉野・紀ノ川流域に産する結晶片岩の板石片が多数みつき、組合式石棺が納められていた可能性があります。石室内からは装身具の一部とみられる琥珀玉も出土しています。



▲保久良古墳近景(南東から)

またこの古墳は、<sup>たけるのみこ</sup>建皇子の<sup>もがりのつか</sup>殯塚との伝承もあります。建皇子(不明~658)は、天智天皇(626~672)と<sup>おちのいらつめ</sup>越智娘の皇子、皇極(斉明)天皇(594~661)の皇孫で、生まれつき声が出せず、8歳で亡くなったと伝えます。建皇子を愛した女帝斉明はその晩年、建皇子を失った悲しみを歌にし、自らの墓に彼を合葬するようにと言い残しました(『日本書紀』斉明天皇4年条)。

いまきなる おむれがうへに くもだにも しるくしたたば なにかなげかむ

(『日本書紀』歌謡116)

この歌に登場する「イマキ」と、当町今木地区のとの関連が注目されています。その後、斉明天皇の陵墓は「<sup>おち</sup>小市(越智)」に造られました。建皇子がそこへ合葬されたのかどうかは記録になく不明ですが、そのなきがらを置いた「殯(もがりの場)」が「今城谷上」に起こされたと伝えます。江戸時代になり、享保21年(1736)開板の『大和志』陵墓の項に「建王殯塚(今日

法具良塚」と記され、明治27年(1894)の陵墓治定にともない、<sup>さいとうみすみ</sup>斎藤美澄の報告(大正3年に『大和志料』下巻として公刊)で「<sup>たけるおう</sup>建弼王殯塚」に比定されたのが、現在の保久良古墳です。

この古墳は、巨勢・イマキ地域(石室)、吉野・紀ノ川流域(石棺)の古墳文化の特徴をあわせもつ7世紀前半の横穴式石室墳として、また、江戸時代中期以降、地元今木地域の人々が飛鳥時代の王族の殯塚伝承を伝えてきた古墳としても貴重です。平成24(2012)年7月26日、大淀町指定文化財(遺跡)となりました。

#### 【大淀町指定(記念物・遺跡)】 槇ヶ峯古墳(新野)

大淀町新野地区の丘陵には、数基の古墳が点在しています。槇ヶ峯古墳(槇ヶ峯1号墳)は、標高約210mの丘陵上にあります。墳丘の一部はすでに削平されていますが、墳丘の直径約11m、高さ約2.5mの円墳と推定されます。6世紀後半の吉野地域を代表する古墳の一つです。埋葬施設は、付近で採れる結晶片岩の板石を組み合わせた横穴式石室で、南向きに開いています。玄室(墓室)は、幅1.7m、長さ1.65m以上(推定2.8m)、羨道(墓室にいたる通路)はすでに一部削平を受けていますが、長さ3.7m以上とみられます。石室内には板石を用いた棚状の構造物(石棚)<sup>いしだな</sup>が設けられ、板石を用いた石棺の一部もみつかっています。これらは、和歌山県の紀ノ川下流域に多くみつかっている「岩橋型石室」<sup>いわせがた</sup>の特徴です。奈良県内では平群町の三里古墳<sup>みさと</sup>、下市町の岡峯古墳<sup>おかみね</sup>(共に奈良県指定文化財)と並んで、その珍しい石室の構造を観察できる、数少ない貴重な例といえます。

大淀町内で唯一岩橋型の石室が残っている槇ヶ峯古墳は、紀ノ川下流域を本拠とした大豪族・紀氏の影響が、古墳時代の吉野地域にも及んでいたことを教えてくれます。平成19(2007)年1月17日、大淀町指定文化財(遺跡)となりました。



▲槇ヶ峯古墳・石室奥の「石棚」(南から)

#### 【大淀町指定(記念物・遺跡)】 柳の渡し(北六田)

大淀町北六田にある「柳の渡し」は、大淀町北六田と、南岸の吉野町六田とを結んだ渡しです。平安時代に醍醐寺の開祖聖宝(832~909)が開いたとされ、美吉野橋が架かるまで「桜の渡し(桜橋)」「椿の渡し(椿橋)」「桧の渡し(千石橋付近)」と共に、大いに賑わいました。



▲柳の渡し全景（北六田）  
写真の奥は吉野川

その北岸には柳が茂り、天明6年(1786)建立の道標を兼ねた石灯笼や石造りの道標が残ります。これらは、現在地よりやや上流にあった元来の渡し場から、この前を通る道路の拡幅に伴って移設したものです。平成17年(2005)6月21日、その歴史的価値が認められ大淀町指定文化財(遺跡)となりました。

なお、六田の淀の清流の風情については、奈良時代に成立した『万葉集』のなかで次のように詠まれています。

音聞 目者未見 吉野川 六田之與杼乎 今日見鶴鴨(巻7の1105)

(音に聞き 目にはいまだ見ぬ 吉野川 六田の淀を 今日見つるかも)

河蝦鳴 六田乃川乃 川楊乃 根毛居侶雖見 不飽河鴨(巻9の1723)

(かわず鳴く 六田の川の 川楊(柳)の ねもころ見れど 飽かぬ河かも)

【大淀町指定(記念物・植物)】 ケヤキ(土田)

大淀町土田にある大ケヤキは、吉野川北岸の堤防に自生し、近隣の住民に親しまれ温かく見守られてきました。高さは15m、幹周りは約8m、枝の張り出しは東西40m、樹齢は推定で600年以上とされ、奈良県内でも有数のケヤキの巨樹です。



▲ケヤキを見上げたところ(土田)

平成14年(2002)の台風で、ケヤキの西半分は倒れてしまいましたが、夏の盛りには未だに青々とした葉を見せてくれます。平成15年(2003)2月10日、大淀町指定(植物)となりました。

また、このケヤキには「神武天皇(あるいは神功皇后)お手植えの木」という逸話も残されています。

## 2 おおよど遺産

### 大淀町選定地域遺産（おおよど遺産）の概要

大淀町では、2016年度に策定した「大淀町地域遺産保存・活用制度 実施要綱」に基づき、町内各地域に残された様々な地域遺産のなかから、とりわけ魅力あるストーリー（物語）をもつものを、有形・無形を問わず「大淀町選定地域遺産（おおよど遺産）」として選定し、地域住民と行政が協力してその保存・活用をめざしてきました。おおよど遺産は、2016年度から2020年度にかけて100件選定されています（参考資料78～80頁一覧）。

選定の分類は、①もの、②わざ、③民俗、④名所、⑤自然、⑥近現代、⑦景観となっています。その推薦は、町内の各区長・自治会長と任意団体からなされます。選定するのは大淀町（行政）ですが、実際に審査するのは行政や専門家ではない、地域住民のなかから選ばれた「大淀町地域遺産会議」の委員であることが特徴です。「おおよど遺産」は、町内各地に根ざした歴史文化を特徴づけるとともに、地域住民の心の拠りどころとして、また、大淀町を訪れる人々が、地域に愛着を感じていただくきっかけとして、そして、地域文化を持続させ、次世代へとつなぐ「記憶のバトン」として活かされることが大いに期待されるものです。

### おおよど遺産の種別・選定年度別内訳

種別	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	計
もの遺産	5	6	4	5	2	22
わざ遺産	0	0	1	1	1	3
民俗遺産	6	4	1	2	2	15
名所遺産	5	4	8	4	6	27
自然遺産	1	0	1	2	2	6
近現代遺産	2	3	2	5	4	16
景観遺産	1	1	2	1	3	8
複合遺産	0	1	2	0	0	3
計	20	19	21	20	20	100

※広域での選定については複合遺産として示している。

### 3 未指定文化財

#### 未指定文化財の概要

ここでは、指定等文化財をのぞいた未指定文化財の概要をまとめます。類型には「埋蔵文化財」「その他(伝承地等)」が含まれます。現在、231件の未指定文化財(参考資料81～84頁一覧)を把握していますが、今後の調査・整理によってさらに増えるものと考えられます。

#### 大淀町内の未指定文化財の状況（令和5年8月現在）

類 型		未指定文化財	
有形文化財	建造物	14	
	美術 工芸品	絵 画	3
		彫 刻	16
		工芸品	3
		書跡・典籍	2
		古文書	5
		考古資料	9
		歴史資料	12
無形文化財		1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	20	
	無形の民俗文化財	12	
記 念 物	遺 跡	37	
	名勝地	0	
	動物・植物・地質鉱物	6	
文化的景観		3	
伝統的建造物群		1	
文化財の保存技術		0	
埋蔵文化財		84	
その他(伝承地等)		3	
合 計		231	



## 4 地域遺産の類型ごとの概要

### ①有形文化財(建造物)

18世紀に初頭に建立された比叡の世尊寺太子堂(県指定)をはじめ、江戸時代にさかのぼる建造物としては、越部の吉條家住宅(旧紀州藩脇本陣)などがあります。また、未指定の社寺建築は各地に現存しています。珍しいものとして、後世に移設されていますが、増口に明治30年頃の建築とみられる茶堂「迎春庵」があります。



▲迎春庵 (増口)

その他、レンガ積みの拱橋やプラットホームなど、大正元年(1912)に開通した吉野軽便鉄道関連の土木遺産、大正・昭和初期の木造倉庫群(北六田の北村化学倉庫など)が各所にあります。



▲吉野軽便鉄道の拱橋 (薬水)

### ②有形文化財(美術工芸品)

町内の社寺に古い仏像・神像、絵画資料等が数多く保存されています。

世尊寺には奈良時代の木造十一面観音立像(県指定)をはじめ鎌倉時代の聖徳太子立像、江戸時代の現光寺縁起絵巻(町指定)、禅宗寺院としての祖師像があります。馬佐・薬師堂の平安時代の仏像群(町指定)は廃寺となった古代寺院「阿佐寺」の遺産です。中増の安養寺は、平安時代の蔵王権現立像(町指定)など密教的信仰の所産に加えて、縮小版の江戸時代の当麻曼荼羅(未指定)も所蔵しています。



▲木造薬師如来坐像 (今木)

また、町西部の大岩には平安時代の木造大日如来坐像(町指定)、鎌倉時代の木造男神像(町指定)、今木の泉徳寺には平安時代の薬師如来坐像2体と山

門の木造金剛力士像(町指定)などがあります。ほかに、佐名伝で保管されていた銅鐸、安養寺に縮小版の当麻曼荼羅(浄土変相図)などがあります。

古文書としては、文禄5年(1596)の「縄目帳」を最古とする持尾の迎居家文書、幕末のオランダ語が書かれた西増の前田家文書、また町内には残っていませんが、国文学研究資料館(東京都立川市)が所蔵している「吉野郡中増村文書」などが残されています。

考古資料としては佐名伝地区で保管されていた銅鐸が、また、近代の歴史資料としては、岸田日出男関係資料があります。大正・昭和初期の35mmフィルム4巻(町指定)は、現在のところ紀伊半島を映した奈良県内最古の現存フィルムです。

### ③無形文化財

新野では金屏風を製作する伝統的な金箔貼り・金箔振りの技術が継承されています。



▲金箔貼りのようす(新野)

### ④民俗文化財(有形の民俗文化財)

鎌倉時代の石塔がみつまっている下測の石塚遺跡(町指定)、今木権現堂内外に残る石仏群(町指定)をはじめ、室町時代の銘のある畑屋の湯釜、比叢の六斎念仏の碑といった石造物等が町内各所に残されています。

### ⑤民俗文化財(無形の民俗文化財)

土田の吉野川の河原で、畝火山口神社(奈良県橿原市)の祭事用の水を汲む「畝火山口神社の水取り神事(町指定)」をはじめ、町内各地で祭礼行事がおこなわれています。また、海と里の恵みが融合した伝統食「柿の葉ずし」は現在でも家庭で作られています。



▲越部1号墳の石室の一部  
(写真下)

### ⑥記念物(遺跡)

『奈良県遺跡地図』および「奈良県所蔵遺跡データベース」によると、大淀町内には127か所の埋蔵文化財包蔵地があり、そのうちの43か所が「遺跡」です。大淀町内には古墳が多く、上

記の遺跡のうち21か所が古墳です。越部1・2号墳では発掘調査の結果、金銅製単鳳環頭こんどうせいたんほうかんとう大刀の柄頭たちつかがしらをはじめ多くの副葬品がみつかっています。

指定されている史跡として、飛鳥時代にさかのぼる比曾寺跡(国史跡)をはじめ、横穴式石室をもつ大岩の石神古墳(県指定)、今木の保久良古墳や新野の槇ヶ峯古墳(町指定)、吉野川を渡る渡舟場としての北六田の「柳の渡し」(町指定)があります。

### ⑦記念物(動物・植物・地質鉱物)

樹齢600年以上とみられる土田のケヤキ(町指定)、をはじめ、町内には伝承のある社叢や巨樹・古木が多くあります。岸田日出男関係資料に含まれる「ニホンオオカミ頭骨標本」(町指定)や大正時代の植物標本は、紀伊半島の動物・植物相の変遷を知る手がかりとしても貴重です。

### ⑧文化的景観

中増には江戸時代から続く茶畑の景観が、佐名伝・薬水にまたがる大阿太高原では明治35年(1902)時代以降に開墾された梨園がひろがる特徴的な景観が維持されています。



▲伊勢南街道の街並み(増口)

### ⑨伝統的建造物群

増口には江戸時代以来の旧伊勢南街道の町並みが現存しています。

### ⑩埋蔵文化財

遺跡をのぞく周知の埋蔵文化財包蔵地は84か所で、そのうち古墳は62か所を数えますが、古墳かどうかわからない古墳状隆起も含まれています。

### ⑪その他(伝承地等)

薬水の弘法井戸、佐名伝にあるおいの池跡と筆捨岩(佐名伝)、桧垣本の後醍醐天皇ゆかりの地など、物語とともに伝わる伝承地が各所にあります。



▲筆捨岩(佐名伝)

大淀町域では、母なる大河・吉野川を中軸として、「まほろば」と称される大和盆地(農村)と、林産業の盛んな吉野山地(山村)の民俗が交差する、個性的な歴史文化が育まれてきました。その歴史文化は、古代以前からつづく吉野地域の「門戸」としての地理条件にくわえて、吉野川にまつわる文化・伝承の豊かさにも特徴があります。

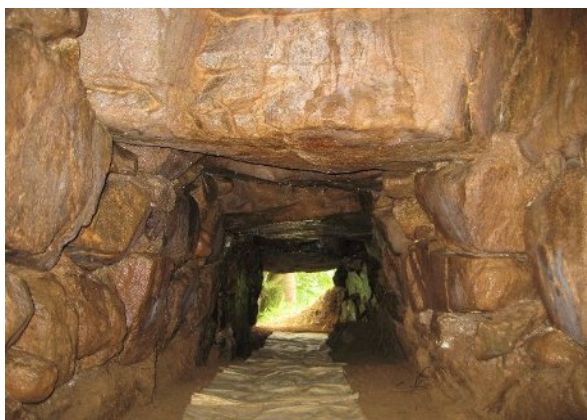
この地域では、街道を通じて多種多様な文化交流が生み出されてきました。著しい近代化の洗礼をうけながらも、農山村で古風な暮らしを続けてきた地域の人々の、日本を代表する芸能集団や偉人たちが輩出されたのでした。

その歴史文化の特性をまとめると、次の5つのテーマに整理できます。

## 1 記紀**伝承**を物語る古代吉野の遺産 —吉野の古墳と古代寺院—

大淀町には、『古事記』『日本書紀』の伝承に記された人物や吉野の古代氏族たちをほうふつさせる 6 世紀から 7 世紀にかけての遺跡や古墳(横穴式石室墳)があります。特異な石室の槇ヶ峯古墳は紀氏とのかかわりが、巨大な石室をもつ石神古墳は巨勢氏との関係が考えられています。保久良古墳は天智天皇の皇子・たけるのみこ建皇子もがりづかの殯塚との伝承があります。

また、『日本書紀』(欽明天皇 14 年条)に記された日本最古の仏像伝承をもつ世尊寺には、吉野郡最古の古代寺院である史跡比曾寺跡や、本尊の「放光仏(木造阿弥陀如来坐像)」、仏教伝来の由来と比曾寺(現光寺)の由緒を記す「現光寺縁起絵巻」が残され、吉野の法灯が現在に受け継がれています。



▲保久良古墳の石室(今木)



▲世尊寺本尊「放光樟像」(比曾)

## 2 聖地へつながる吉野路の交差点 一街道と文化交流一

大淀町は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に代表される聖地巡礼のクロスロード（交差点）であり、その街道沿いには、修験道をはじめとする特徴的な神仏への信仰が今も息づいています。

本町を南北に縦断する峠越えの街道（あしはら芦原とうげ峠越え、つばさかとうげ壺阪峠越え）は、大阪や京都・奈良と吉野をむすぶ交通路として、国道・県道となり今に至っています。また、修験道の開祖役行



▲柳の渡し（北六田）

者のふるさとである葛城山麓から大淀町北西部のくまざかとうげ車坂峠を越え、吉野川を渡って吉野大峯へと続く街道沿いにも、古代にさかのぼる寺社・遺跡・渡舟場（渡し）が点在しています。いずれも修験道を含む密教系文化の影響をうけており、道標や石造物などに様々な文化交流の痕跡が見出されます。

また、町の南端を流れる吉野川沿いには、紀伊国の高野山と伊勢国の伊勢神宮の往還で使われた旧伊勢南街道が東西に連なり、往時をしのぶ町並みが各所に残されています。

## 3 人と自然がおりなす吉野川の民俗 一水と暮らしの文化一

大淀町には、縄文時代以来、吉野川とその支流が生み出す豊かな自然（天然資源）に育まれた、有形・無形の民俗や伝承地等が残されています。

とりわけ、自然のなかに歴史文化が溶け込んでいる農山村と川辺の景観が一体的に残されている点は、大淀町の地理的な特性といえます。

なかでも、『万葉集』やさまざまな和歌に詠まれた川辺の景観、吉野川でおこなわれる畝火山口神社（橿原市）の水取り神事と川辺の巨樹信仰、鮎などの川魚の漁労技術、吉野川を渡る渡舟場（渡し）や山間地の木材をいかだに組み、下流へと流す「いかだ流し」の技術や資料などは、失われていく生活文化の記憶といえます。



▲吉野川・神事の水取り場（土田）

## 4 中世<sup>芸</sup>能文化のルーツ・吉野猿楽 ーお囃子の芸祖と吉野ー

大淀町は、世界無形文化遺産・能楽(猿楽能)のお囃子の芸祖たちを輩出した〈吉野猿楽〉のふるさとです。〈吉野猿楽〉とは室町時代、南都の春日社(春日大社)や興福寺とかかわり、吉野山や高野山麓を演能圏として活躍していた吉野を拠点とする芸能集団(猿楽座)です。観世家の囃子方として結びつきを深めていった「<sup>はやし</sup>桧垣本猿楽」がその中軸を担っていました。

なお、吉野猿楽としてはほかに、下市町<sup>とちはら</sup>柝原を拠点とした柝原猿楽、吉野町の龍門地区を拠点としていた<sup>みのさるがく</sup>美濃猿楽があり、桧垣本猿楽との交流があったと推測されています。

本町の<sup>ひがimoto</sup>桧垣本には、平安時代創建と伝わる桧垣本八幡神社があり、南北朝時代には後醍醐天皇の行在所となります。室町時代後期(15世紀)には吉野猿楽の中核をになった「桧垣本猿楽」がこの神社を拠点として活動を始め、室町時代を通じて、「桧垣本」を名乗る<sup>ふえひこべ</sup>笛彦兵衛や小鼓・太鼓の名手が活躍しました。数々の傑作面を残した能面打ちの「桧垣本七郎(ヤマト七郎)」も桧垣本猿楽の出身者と考えられます。

桧垣本猿楽に関する資料のほとんどは町外に残されていますが、近年、平安時代創建と伝わる桧垣本八幡神社を〈能楽ゆかりの地〉として、能楽師たちによる奉納演奏がおこなわれています。



▲ (左) 桧垣本八幡神社 (桧垣本)

▲ (右) 「ヤマト七郎作」能面「獅子口」の裏面 (和歌山県かつらぎ町<sup>かねにう</sup>河根丹生神社 所蔵)

## 5 吉野の風土に生きた偉人<sup>人</sup>たち—岸田日出男と花岡大学—

大淀町を代表する偉人として「吉野熊野国立公園の父」と称される岸田日出男<sup>きしだひでお</sup>(1890-1959)、仏典童話の開拓者<sup>はなおかだいがく</sup>・花岡大学(1909-1988)がいます。

岸田日出男は奈良県技師として、紀伊半島の自然保護活動に尽力した「地域エコロジー」の先駆者です。一方、吉野郡内のさまざまな地域で聞き取り調査をしながら、郷土史家としても活躍しました。

本町北六田の自宅にあった明治～昭和時代の膨大な資料は「岸田日出男関係資料」(約4,000点)として町に寄贈され、近代の吉野について考える貴重な資料として利活用されています。

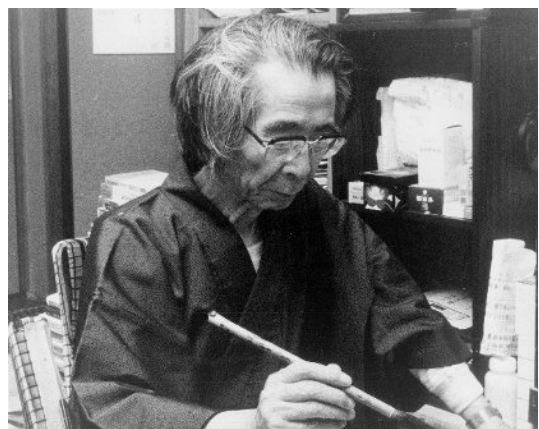
花岡大学は、ふるさと佐名伝地区の浄迎寺(浄土真宗)の住職として、また高校教師・大学教員として、児童文学の世界に「仏典童話」のジャンルを確立し、童話という表現を通じて、「ほとけの心とやさしい言葉」を伝えようとした児童文学の実践者でした。本町には、大阿太高原(佐名伝・薬水)に建つ童話碑をはじめ、彼が収集・保管していた膨大な資料等が各所に点在しています。とりわけ彼が興味をもったのは、室町時代から江戸時代にかけて吉野の農山村に根付いた浄土真宗の宗教文化であり、その実践者として信心に生きた吉野の妙好人<sup>みょうこうにん</sup>・清九郎<sup>せいくろう</sup>(1678-1750)でした。

花岡大学は、その経験によって吉野という風土に根ざした近代文学の創設に尽力するとともに、文芸誌『吉野風土記』を創刊し、下市町の歌人・前登志夫とともに多くの文化人たちを育てました。

また、大淀町増口には花岡大学同様に浄土真宗の僧侶でありながら、哲学者・俳人として吉野というテーマを詩に残した大峯あきら(1929-2018)に関連する資料群もあります。



▲岸田日出男



▲花岡大学

## 第 4 章

# 地域遺産に関するこれまでの調査

### 1 これまでの取り組み

大淀町では、文化財保護法に基づき、町内の地域遺産が適切に保護されているかどうかを巡視し、その状況を調査したうえで、修復・整備等の適切な措置を施しています。とりわけ、各種開発工事等で破壊されるおそれのある埋蔵文化財に対しては、試掘や工事立会などの緊急調査を実施し、その記録保存に努めています。

大淀町では、町内各地に残された歴史文化を詳しく調べるため、各地の地域遺産の調査を実施しています。調査が行われた後は、その成果をひろく還元するため、調査結果を掲載した「調査報告書」等を刊行しています。また、調査とあわせて、町内各地の地域遺産をより多くの人々に知ってもらえるよう、説明会や見学会、関連する講演会・学習会や、刊行物の出版などを通じ、その保存・活用にも努めています。また、関連部署間で連携をとりながら、地域遺産の情報を町内外に発信し、観光事業等への積極的な活用にも努めています。

また、地域遺産の保存・活用については、文化財ボランティア(大淀町文化財調査会)による活動(2005年～現在)、伝統文化ボランティア(おおよど語り部の会)による活動(2011年～現在)や、各地域で保存・管理を進めていく持続可能な仕組みが必要になってきています。

平成28年(2016)から令和3年(2021)には、大淀町独自の「地域遺産保存・活用事業」が実施され、「おおよど遺産」が選定されるなど、行政と住民が協働しておこなう、総合的な地域遺産の保存・活用事業も進められてきました。

### 2 地域遺産の把握調査の概要

大淀町内の地域遺産調査については、戦前から昭和 30 年代にかけての奈良県や研究者による調査を皮切りに、昭和 40 年代には町史編さん事業にともなう調査が、昭和 50 年代以降は奈良県および県内の研究機関による調査がおこなわれ、報告書等が刊行されています。また、平成 17 年(2005)以降は町教育委員会による把握調査が継続的に実施され、報告書や資料集などの冊子、映像 DVD が刊行されています(47～49 頁一覽)。

なお、平成 3 年(1991)以降、町内各大字・自治会や各種団体等が、大字ごとの歴史文化や地域遺産をまとめて収録した地域誌を随時刊行しています(50 頁一覽)。



大淀町の地域遺産把握調査にかかる報告書等一覧

No.	書名	編著・発行者	発行年
1	「比蘇寺址」『奈良県史蹟勝地調査會報告書』第四回	天沼俊一・奈良県	大正6年(1917)
2	『奈良県吉野郡 大淀村風俗誌』	竹山清文	大正7年(1918)
3	「吉野郡北六田の古墳」『奈良県史蹟勝地調査會報告書』第六回	高橋健自・奈良縣	大正8年(1919)
4	「大和大淀町の石器時代遺跡に就いて」『歴史と地理』11巻6号	森本六爾	大正12年(1923)
5	『奈良県宇智郡誌』	奈良県宇智郡役所	大正13年(1924)
6	「比曾寺址」『史蹟調査報告第四 奈良県に於ける指定史蹟第二冊』	上田三平・内務省	昭和3年(1928)
7	「奈良縣吉野郡大淀町下瀨発見の打製石器について」 『考古学雑誌』第18巻第2号	樋口清之・考古学会	昭和3年(1928)
8	「比曾寺」『飛鳥時代寺院址の研究』	石田茂作・大塚巧芸社	昭和12年(1937)
9	「大和下瀨の遺蹟」『近畿古文化叢考』	直良信夫	昭和18年(1943)
10	『奈良縣綜合文化調査報告書－吉野川流域－』	奈良縣教育委員會	昭和29年(1954)
11	「大淀桜ガ丘遺跡」『奈良縣史跡名勝天然記念物調査抄報』第十三輯	奈良縣教育委員會	昭和35年(1960)
12	「史跡比曾寺跡」『奈良縣文化財図録』Ⅰ・記念物編	奈良縣教育委員會文化財保存課	昭和39年(1964)
13	『奈良縣文化財調査報告第13集 民家緊急調査報告書』	奈良縣教育委員會	昭和45年(1970)
14	『大淀町史』 『大淀町史余録』	大淀町史編集委員會・大淀町役場	昭和48年(1973)
15	『平群・三里古墳』奈良縣史跡名勝天然記念物調査報告書 第33集	奈良縣立橿原考古学研究所	昭和52年(1977)
16	『おおよど ふるさとを知ろう』	大淀町教育委員會・大淀町ふるさと運動実行委員會	昭和54年(1979)
17	『大和古墳墓取調査』(吉野郡大淀村大字今木)	野瀨竜潜(秋山日出雄編) 由良大和古代文化研究協會	昭和60年(1985)
18	『奈良縣の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書』	奈良縣教育委員會	昭和62年(1987)
19	『大淀町大岩古墳群』奈良縣文化財調査報告書 第57集	奈良縣立橿原考古学研究所	昭和62年(1987)
20	「下瀨村文書」『奈良縣被差別部落史 史料集 第六巻』	奈良縣部落解放研究所	平成元年(1989)
21	「大淀町大淀桜ヶ丘遺跡発掘調査報告書」『奈良縣遺跡調査概報(第一分冊)1986年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成元年(1989)
22	「吉野郡大淀町稲荷塚遺跡発掘調査報告書」『奈良縣遺跡調査概報(第二分冊)1992年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成5年(1993)
23	「吉野郡大淀町馬佐藏坂遺跡発掘調査概報」『奈良縣遺跡調査概報(第二分冊)1994年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成7年(1995)
24	「吉野郡大淀町土田遺跡発掘調査報告書」『奈良縣遺跡調査概報(第二分冊)1994年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成7年(1995)
25	『越部ハサマ遺跡』大淀町文化財調査報告書 第1冊	大淀町教育委員會・奈良縣立橿原考古学研究所	平成7年(1995)
26	『越部古墳』奈良縣文化財調査報告書 第82集・大淀町文化財調査報告書 第2冊	奈良縣立橿原考古学研究所	平成9年(1997)
27	「吉野郡大淀町北六田遺跡発掘調査概報」『奈良縣遺跡調査概報(第三分冊)1997年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成10年(1998)
28	『奈良縣吉野郡 町名「大淀」の名付け親』	岸田文男	平成11年(1999)
29	「吉野郡大淀町佐名伝遺跡第1次調査報告」『奈良縣遺跡調査概報(第二分冊)1999年度』	奈良縣立橿原考古学研究所	平成12年(2000)
30	『大淀町近世古文書抄』	大淀町教育委員會	平成14年(2002)

大淀町の地域遺産把握調査にかかる報告書等一覧

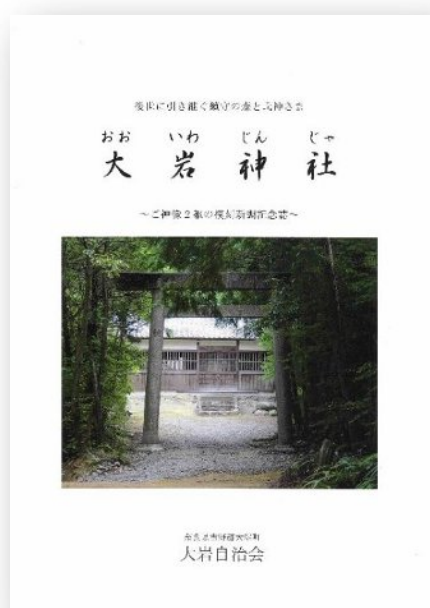
No.	書名	編著・発行者	発行年
31	「薬水遺跡」『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）2002年度』	奈良県立橿原考古学研究所	平成14年（2002）
32	「土田遺跡」『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）2002年度』	奈良県立橿原考古学研究所	平成14年（2002）
33	『大淀桜ヶ丘遺跡 試掘調査報告』 大淀町文化財調査報告 第3集	大淀町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所	平成15年（2003）
34	「薬水遺跡第2次調査」『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）2003年』	奈良県立橿原考古学研究所	平成15年（2003）
35	「大淀町矢走で確認した城跡について」『青陵』奈良県立橿原考古学研究所彙報No.112	奈良県立橿原考古学研究所	平成16年（2004）
36	「吉野郡大淀町佐名伝遺跡2003年」『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）2003年』	奈良県立橿原考古学研究所	平成16年（2004）
37	『市立五條文化博物館 資料目録Ⅰ - 堤昭二氏収集考古資料を中心に -』	市立五條文化博物館	平成16年（2004）
38	『奈良県所在 近世の大般若経調査報告書』	奈良県教育委員会	平成17年（2005）
39	『世尊寺の版木』（財）大和文化財保存会援助事業による	（財）元興寺文化財研究所	平成17年（2005）
40	『大淀町文化財図録』	大淀町教育委員会	平成17年（2005）
41	「世尊寺・木造十一面観音立像」『奈良県指定文化財 平成17年度版（第47集）』	奈良県教育委員会	平成19年（2007）
42	『平成17・18年度大淀町文化財調査報告 史跡比叡寺跡・大淀桜ヶ丘遺跡』大淀町文化財調査報告 第4集	大淀町教育委員会	平成20年（2008）
43	『大淀桜ヶ丘遺跡桜ヶ丘浄水場整備工事にもなる埋蔵文化財の調査』大淀町文化財調査報告 第5集	大淀町教育委員会	平成20年（2008）
44	「奈良県吉野川流域の古代遺跡－吉野郡大淀町中増地区の踏査－」『青陵』奈良県立橿原考古学研究所彙報No.124	山本昭緒・松田度 奈良県立橿原考古学研究所	平成20年（2008）
45	「大淀町薬水城山古墳の城郭遺構について」『青陵』No.124	成瀬匡章 奈良県立橿原考古学研究所	平成20年（2008）
46	『大淀町伝統歳時記』（映像DVD）	大淀町・財団法人地域創造	平成21年（2009）
47	『大淀町の文化財』地図でみる大淀町の歴史と文化 1	大淀町教育委員会	平成21年（2009）
48	「吉野郡大淀町史跡比叡寺跡第5・6次調査」『奈良県遺跡調査概報 2008年』	奈良県立橿原考古学研究所	平成21年（2009）
49	『花岡大学生誕100周年記念事業～大学さんの人と文学～記録集』	花岡大学生誕100周年記念事業 実行委員会	平成22年（2010）
50	『奈良県の近代和風建築 奈良県近代和風建築総合調査報告書』	奈良県教育委員会	平成23年（2011）
51	『平成19～22年度大淀町文化財調査報告 現光寺縁起絵巻・佐名伝遺跡・横ヶ峯古墳の調査』大淀町文化財調査報告 第6集	大淀町教育委員会	平成23年（2011）
52	『大淀町の民俗－平成22年度の調査－』	大淀町教育委員会	平成23年（2011）
53	『大淀町の民俗と伝統文化』	大淀町教育委員会	平成23年（2011）
54	『おおよど文学散歩』地図でみる大淀町の歴史と文化 2	大淀町教育委員会	平成23年（2011）
55	「世尊寺如意輪観音菩薩坐像の修復報告」『元興寺文化財研究所 研究報告 2009-2010』	下野聖・高橋平明 （財）元興寺文化財研究所	平成23年（2011）
56	『おおよどの民俗と伝統文化』地図でみる大淀町の歴史と文化 3	大淀町教育委員会	平成25年（2013）
57	『おおよどの地域文化財を学ぶ－平成19～23年度「おおよど歴史学習会」事業成果報告書－』	大淀町教育委員会	平成25年（2013）
58	『おおよどふるさとカルタ』	おおよどチャレンジクラブ実行委員会	平成25年（2013）
59	「吉野の横穴式石室墳－その変遷と終焉－」研究紀要』第19集	松田度/公益財団法人由良大和古代文化研究協会	平成25年（2013）
60	「奈良県大淀町佐名伝某家所蔵銅鐸の調査」『纏向学研究』第2号	橋本輝彦・奥田尚・奥山誠義 桜井市纏向学研究センター	平成26年（2014）

大淀町の地域遺産把握調査にかかる報告書等一覧

No.	書名	編著・発行者	発行年
61	『奈良県の近代化遺産－奈良県近代化遺産総合調査報告書－』	奈良県教育委員会	平成26年（2014）
62	『平成23～25年度大淀町文化財調査報告 保久良古墳・横ヶ峯古墳ほか』 大淀町文化財調査報告 第7集	大淀町教育委員会	平成27年（2015）
63	「吉野郡内の古代寺院一比叢寺を中心として」『研究紀要』第19集	成瀬匡章・公益財団法人由良大和古代文化研究協会	平成27年（2015）
64	『吉野宮の原像を探る』大淀町地域遺産シンポジウム資料集	大淀町教育委員会	平成28年（2016）
65	『「能楽」のふるさと 大淀町－歴史と現在の取り組み－』	大淀町教育委員会	平成29年（2017）
66	『大淀町の歴史・文化遺産』（映像DVD）	大淀町教育委員会	平成29年（2017）
67	『2016～2020年度おおよど遺産パンフレット』	大淀町	平成29年（2017） ～令和3年（2021）
68	「岸田日出男の遺したもの－大淀町岸田家所蔵資料から－」 『奈良女子大学文学部研究教育年報』第14号	松田度・奈良女子大学文学部	平成29年（2017）
69	『VOICE OF TAKERU2018』大淀町地域遺産創生シンポジウム資料集	ボイス・オブ・タケル 実行委員会	平成30年（2018）
70	『今木の里のもがり塚－保久良古墳へ行こう－』 おおよどの魅力再発見ブックレット1	大淀町教育委員会	平成30年（2018）
71	「龍門騒動を考える－吉野郡大淀町に残る古文書から－」 『龍門騒動200年・記念誌 龍門騒動を回顧＝1818年から200年＝』	松田度・迎居茂實 龍門騒動を考える会	平成30年（2018）
72	『吉野・熊野をつないだ偉人 岸田日出男の遺したもの』平成30年度大淀町× 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 連携シンポジウム	大淀町教育委員会	平成30年（2018）
73	「映画・映像フィルムにみる熊野－昭和10・11年頃の風景から－」『熊野誌』 第64号（岸田日出男資料・35mmフィルムの紹介）	松田度 熊野地方史研究会・新宮市立図書館	平成30年（2018）
74	『放光仏誕生』大淀町地域遺産シンポジウム	大淀町教育委員会	令和元年（2019）
75	『みんなあつまれ！「百羽のツル」でパフォーマンス～メモリアルブック～』 花岡大学生誕110周年記念事業資料集	大淀町	令和元年（2019）
76	『奈良県中近世城館跡調査報告書－第一分冊－』	奈良県	令和2年（2020）
77	『わたしたちのレガシー～地域遺産を次代へつなぐ～』	大淀町教育委員会	令和3年（2021）
78	『世尊寺仏像調査報告書 大淀町比叢』 奈良県未指定仏像実態把握調査事業報告書	関西大学文学部長谷研究室 奈良県文化財保存課	令和3年（2021）
79	『妙楽寺薬師堂仏像調査報告書 大淀町馬佐』 奈良県未指定仏像実態把握調査事業報告書	関西大学文学部長谷研究室 奈良県文化財保存課	令和3年（2021）
80	『おおよど語り部カルタ』	おおよど語り部の会	令和3年（2021）
81	『おおよど百年史』	大淀町・大淀町町制施行100周年 記念事業実行委員会	令和3年（2021）
82	『大淀風土記－百年の時代を越えて－』大淀町100周年記念映像DVD	大淀町・大淀町町制施行100周年 記念事業実行委員会	令和3年（2021）
83	『大淀町の神社』	小西義範	令和4年（2022）
84	『岸田日出男関係資料リスト』	水谷知生・松田度 奈良県立大学地域創造研究センター	令和4年（2022）
85	『吉野・熊野地域における近現代アーカイブの収集と検討（Ⅰ）－岸田日出男 アーカイブと関連資料の評価－』大和・紀伊半島学研究所 共同研究報告書	松田度・岡島永昌 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所	令和4年（2022）
86	『おおよど遺産－2016～2020年度大淀町地域遺産保存活用事業－』	大淀町教育委員会	令和4年（2022）
87	『ふるさとおおよどを語り継ぐ－おおよど語り部の会発足10周年記念誌－』	おおよど語り部の会	令和4年（2022）
88	「連載 文化で地域をデザインする－奈良県大淀町」『地方行政』第11194号	松本茂章	令和5年（2023）

## 大淀町内の地域誌一覧

No	地区	大字（区）	書名	編集・発行者	発行年
1	西部	大岩	郷土 大岩史誌	遠藤撮雄	平成3年（1991）
2	西部	佐名伝	ふるさと さなて再発見 佐名伝分村合併50周年記念誌	佐名伝区	平成14年（2002）
3	西部	佐名伝	佐名伝50周年記念行事 佐名伝の歴史探索 歴史探索グループ報告集	佐名伝50周年記念事業 実行委員会	平成14年（2002）
4	東部	中増	わが村史 ー中増歴史探索ノートー	山本昭緒	平成26年（2014）
5	西部	佐名伝	私たちの佐名伝御霊神社 井上内親王生誕1300年祭記念誌	佐名伝御霊神社護持 会	平成29年（2017）
6	西部	大岩	後世に引き継ぐ鎮守の森と氏神さま 大岩神社 ～ご神像2軀の模刻新調記念誌～	大岩自治会	平成30年（2018）
7	東部	馬佐	山にかこまれた小さな村 馬佐	馬佐区	令和2年（2020）
8	東部	新野	大淀町新野区の記録	新野区自治会	令和2年（2020）
9	東部	新野	新野八幡神社 写真集	新野区自治会	令和2年（2020）
10	東部	中増	普門山本長寺 本堂建設記念誌	普門山 本長寺	令和4年（2022）
11	東部	北六田	ふる里 北六田	小西義範	令和4年（2022）
12	東部	馬佐	馬佐区のあゆみ	馬佐区	令和4年（2022）



▲刊行された地域誌の事例

### 3 地域遺産の把握調査に関する課題

令和 5 年(2023)3 月時点での大淀町内の地域遺産の把握調査の状況は次のとおりです。これまでにみてきた地域遺産の調査の現状をふまえて、次の課題が考えられます。

- 1、建造物、無形の民俗文化財、遺跡、名勝地、埋蔵文化財については、国・県・町および研究機関等の調査で一定の状況把握がなされています。その調査成果が文化財の指定や選定につながっているものがある一方、詳細調査ができていないものが大半です。
- 2、美術工芸品、無形文化財、有形の民俗文化財、動物・植物・地質鉱物、文化的景観については調査が不足しており、その他(伝承等)についても部分的な調査にとどまっていて、全体の把握にはいたっていません。
- 3、1960～70 年代の町史編纂事業で把握されている地域遺産についても、調査後に 50 年以上が経過しているものもあり、現状の把握が必要です。

#### 大淀町内の地域遺産の調査状況

有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物				文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	その他 伝承地等
建造物	美術工芸品		有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物・植物	地質鉱物				
○	△	△	△	○	○	○	△		△	△	○	△

○：おおむね調査済み △：調査不足 ×：該当なし 未：未調査

## 第 5 章

# 地域遺産の保存・活用にむけて

### 1 地域計画の基本理念と基本方針

本計画では、大淀町の総合計画、既述した大淀町の歴史文化の特性、地域遺産の把握調査の課題をふまえ、保存・活用の基本理念を定めます。

#### 基本理念

#### ふるさとの遺産を次世代につなぐ

地域遺産は、大淀町特有の歴史文化によって育まれてきました。本町も近年の過疎化・少子高齢化により、次世代を担う若者たちが減少し、町外への転出が増加するなかで、ふるさと意識の低下が危ぶまれています。

そこで本計画では、地域遺産の価値を明らかにし、その保存・活用事業を通じて、ふるさと意識の向上を図り、確実に次世代へと継承していく(つなぐ)ことを基本理念とします。

ここでは上記の基本理念に基づき、それを実現させるため、2つの基本方針を定めます。

#### 基本方針

1. ふるさとの遺産をみんなで支え、守り伝える社会づくり
2. みんなが集い、学び深めるふるさとの拠点づくり

ひとつは、地域住民とそれを支える多様な人々のつながりを活かし、地域遺産を守り伝えていく(継承していく)持続可能な社会をつくることです(1)。そのためには、地域住民の意識向上や人材育成、組織づくりも必要となってきます。

もうひとつは、上記の多様な人々が集い、本町の自然や歴史文化を学び、深めることのできる常設の伝承・学習施設(拠点)をつくることです(2)。そのためには、どのような拠点がふさわしいのかを話し合い、町内外の人々が集いたいと思えるような環境づくりも必要となってきます。

## 2 地域計画の課題と方針

先に定めた基本方針にそって、本地域計画を進めていくにあたり、どのような課題があるのか、それをどのような方針で解決していくのか、以下に整理しておきます。

### 【課題 1】 調査・研究

#### ○地域遺産の継続的な把握調査と記録保存が十分にできていない。

各地で守り伝えられてきた地域遺産については、一定程度の状況把握はなされているものの、古文書や近現代の資料(戦争遺産・学校にかかわる教育遺産など)、花岡大学関係資料などの近現代文学関係資料、梨や茶といった伝統的な生産地についての詳細調査が十分にできていません。

開発によって失われる埋蔵文化財や遺跡、過疎化・少子高齢化で継承が難しくなっている伝統文化や民俗行事もあるなかで、継続的な把握調査・記録保存も求められていますが、これも十分にできているとはいえません。

#### ○地域遺産の情報が整理できていない。

各地で守り伝えられてきた地域遺産については、その所在情報のリスト化がなされていません。また、担当課で収集(購入)したり、寄贈をうけたりした地域遺産や関連資料(刊行物など)も十分な整理ができておらず、リスト化もなされていません。そのため適切な保存・管理が難しくなっています。

#### ○多様な視点で地域遺産群の関連性を語る「ストーリー」がない。

各地で守り伝えられてきた地域遺産は、本町の歴史文化の特性とその背景にある関連性で、いくつかのテーマごとにまとめることができます。個々の地域遺産をつなぐための「ストーリー」が必要となってきますが、まだ作成できておらず、「おおよど遺産」の取り組みもいかしきれていません。

#### ○町制施行 110 周年(令和 13 年)にむけての町史の編纂事業が進んでいない。

本町は令和 3 年(2021)に町制施行 100 周年を迎え、記念誌『おおよど百年史』を刊行しました。これを機に今後も町史編纂を継続することになりましたが、編纂事業はまだ進捗がありません。

## 【課題2】 人材育成

○過疎化・少子高齢化により、地域住民の遺産保護に対する主体的意識が低下している。

過疎化・少子高齢化により、地域住民のなかに若者世代が少なくなっています。地域社会の持続化が困難となり、世代交代が円滑には進まず、地域遺産の保護を地域住民で主体的におこなうという意識の低下が危ぶまれています。

○地域遺産(伝統文化等)の次世代の担い手がいない。

近年のコロナ禍や、住民の町外への転出等により、地域の伝統的な民俗行事、とりわけその本質を理解し、継続的な催行を担うことのできる次世代が育っていません。

○地域を下支えできる人材が地域で確保できないため地域遺産の継承が困難となっている。

これまで適切に保存されてきた地域遺産(古墳や史跡)の継承が、地域社会の下支えができる人材(現役世代)の町外転出などで困難になってきています。

○地域を越えた広域での地域遺産の保存・活用が困難になっている。

古道や道標、歴史的景観など、地域を越えた広域で保存・活用されてきた地域遺産の継承が、文化財ボランティア等の高齢化により困難になってきています。

## 【課題3】 保存・継承

○重要な地域遺産が未指定のままで修復・修理を必要としている。

指定を受けていないが重要な地域遺産が、未指定のままで保護措置もとられず、また資金不足のため、修理がなされないままとなっています。

○地域遺産の持続的な保存・管理と周辺環境の保全が難しくなっている。

古墳や古文書、戦争遺産などの個人所有・所蔵の地域遺産は、世代交代と過疎化にともない、次世代への継承が困難になってきています。

○国史跡の保存活用計画が作成されていない。

大淀町で唯一の国史跡である比曾寺跡や関連する地域遺産(境内の歴史的景観)等については、史跡地内の現状変更等にもなう単発的な調査を除き、適切な保存活用計画に基づく対応措置がとられていません。



#### 【課題4】 拠点整備

○収集した地域遺産(資料)を保存・管理し、活用しながら次世代へと継承していくための拠点が整備されていない。

大淀町が収集した地域遺産(資料)は、担当課が管轄する公共施設の空きスペース(倉庫・執務室・会議室の棚など)に分散保存されている状況にあり、盗難・散逸の恐れもあります。これらの地域遺産を確実に次世代に継承していくため、一括管理できる拠点施設が必要ですが、現状ではその候補地が確保できず、整備も不十分です。

○地域や学校等で地域遺産を学ぶ教材環境が整備されていない。

地域の公民館等や学校等での学習について、地域遺産のことを学ぶための教材(地図・地形図模型、複製品など)が少なく、その保管場所も確保されていません。

○地域遺産を訪れる見学者に配慮した環境整備がおこなわれていない。

観光や訪問、地域住民や学校等での現地学習で地域遺産を訪れる見学者のための道標や見学路、現地で学ぶためのサイン、ベンチやトイレなどの整備が不十分です。

#### 【課題5】 情報発信

○地域遺産に関する調査・研究報告書や、それらをわかりやすくまとめた一般刊行物が少ない。

地域遺産に関する調査や研究の成果をまとめた報告書(町文化財調査報告書)、それを一般向けにわかりやすくまとめた刊行物(町広報紙への掲載、冊子、マップ、講演やシンポジウムなどの資料集、数頁程度のリーフレット)が少なく、十分な情報発信ができていません。

○地域遺産のことを知る機会(展示)や学ぶ機会(講演会・シンポジウム)が少ない。

地域遺産(およびそこから選定したおおよど遺産)に関する調査や研究の成果を活かしたイベントが少なく、十分な情報発信ができていません。

○魅力的なイベントが少ないため、関係人口・交流人口が増えない。

地域遺産にかかわる多世代むけの魅力的なイベントが少ないため、町内外からのイベントへの参加者も限られ、関係人口や交流人口の増加につながっていません。

○地域遺産の発信情報が少なく、過去の情報が更新されていない。また、地域遺産の魅力が見える化できていない。

大淀町の公式ホームページなどに掲載されている地域遺産の発信情報が限定的で、その多くは過去の情報が更新されないままとなっています。また、写真や動画など「見えやすい情報」が少ないため、その地域遺産の魅力を伝えきれずにいます。

### 地域計画 課題と方針一覧

<b>基本方針1</b> <b>ふるさとの遺産をみんなで支え、</b> <b>守り伝える社会づくり</b>	【課題1】調査・研究	【方針1】調査・研究
	地域遺産の継続的な把握調査と記録保存が十分にできていない。	地域遺産を継続的に把握し、消滅していく可能性の高いものについては必要に応じて記録保存していく。
	地域遺産の情報が整理できていない。	把握した地域遺産を継続的に収集し、アーカイブ化・データベース化していく。
	多様な視点で地域遺産群の関連性を語る「ストーリー」がない。	多様な視点から地域遺産の調査・研究をおこない、「ストーリー」を作っていく。
	町制施行110周年(令和13年)にむけての町史の編纂事業が進んでいない。	令和13年までに、上記の調査・研究成果を町史の編纂事業に反映させていく。
	【課題2】人材育成	【方針2】人材育成
	過疎化・少子高齢化により、地域住民(学生を含む)の遺産保護や文化財防災に対する主体的意識が低下している。	「地域の遺産は地域で守る」という意識向上のための学習・講座や災害予防訓練の実施などにとりくむ。
	地域遺産(伝統文化等)の次世代の担い手がない。	地域遺産(伝統文化等)の次世代の担い手を育成していく。
	地域を下支えできる人材が地域で確保できないため、地域遺産の継承が困難となっている。	地域社会を下支えできる「地域遺産ガイドボランティア・サポーター」の募集と育成をおこなう。
	地域を越えた広域での地域遺産の保存・活用が困難になっている。	地域や専門分野を越えた広域での地域遺産の保存・活用に取り組む団体の設立を推進する。
	【課題3】保存・継承	【方針3】保存・継承
	重要な地域遺産が未指定のまま修理を必要としている。	指定等文化財の指定・修理等を推進する。
	地域遺産の持続的な保存・管理と周辺環境の保全が難しくなっている。	地域遺産の持続的な保存・管理をめざす。 地域遺産とその周辺の環境保全や災害予防対策を推進する。
	国史跡の保存活用計画が作成されていない。	国史跡の保存活用計画を作成していく。

【課題4】拠点整備	【方針4】拠点整備
収集した地域遺産(資料)を保存・管理し、活用しながら次世代へと継承していくための拠点が整備されていない。	地域遺産を保存・管理する拠点施設の整備計画を作る。  町内の文化・観光・交流施設で広域観光に資する取り組みを推進し、地域遺産を利活用できる環境を整備していく。
地域や学校等で地域遺産を学ぶ教材環境が整備されていない。	地域や学校等で地域遺産を学ぶ教材環境を整備していく。
地域遺産を訪れる見学者に配慮した環境整備がおこなわれていない。	指定等文化財を優先に、地域遺産を訪れる見学者に配慮した環境整備を推進していく。
【課題5】情報発信	【方針5】情報発信
地域遺産に関する調査・研究報告書や、それらをわかりやすくまとめた一般刊行物が少ない。	調査・研究報告書や一般刊行物を継続的に刊行し、地域遺産の情報公開とその魅力のPRに努める。
地域遺産のことを知る機会(展示)や学ぶ機会(講演会・シンポジウム)が少ない。	企画展示・講演会・シンポジウム等を充実させ、地域遺産の魅力をひろくPRしていく。
魅力的なイベントが少ないため、関係人口・交流人口が増えない。	ユニークベニューおよび周遊型・体験型のイベントを推進し、関係人口・交流人口を増やす。
地域遺産の発信情報が少なく、過去の情報が更新されていない。また、地域遺産の魅力を見える化できていない。	デジタル化社会に対応したコンテンツの制作・配信・活用を推進し、地域遺産の情報を随時更新するとともに、その魅力を多世代にひろくPRしていく。

### 3 地域計画の措置

本計画では、先にのべた課題・方針に基づき、計画期間内の具体的な措置(事業)を設定し、目標の実現を目指していきます。

また、措置の実施にあたっては、ワークショップや意見交換会などを通じて地域住民の声を反映させるとともに、財源については、町費(自主財源)、県費(各種補助金)、国費(文化庁の文化財関係補助金、デジタル田園都市国家構想交付金等)をあてるほか、その他の民間資金等を活用しながら進めていきます。

事業をおこなう主体は、行政、地域、団体、機関となっています。それぞれが果たすべき役割を勘案しながら、実行委員会のような協働体制も視野に入れて実施していきます。

事業主体の種別

凡 例	
行 政	大淀町 (担当課ほか)
地 域	住民・大字区・自治会・協議会等
団 体	民間活動団体・各種団体・企業等
機 関	専門機関 (大学・博物館・研究機関) 等

#### 【措置 1】 調査・研究事業 (★は重点事業)

##### 1-1 地域遺産の把握調査を実施【行政・地域・団体 R6~10】

古文書・戦争遺産・教育遺産・文学関係資料・梨や茶などの生産地等の地域遺産の所在を把握し、概略をつかむ。

##### 1-2 地域遺産の記録保存調査を実施【行政・地域・団体 R6~10】

文字情報・デジタル画像と動画等で、埋蔵文化財や民俗行事等などの地域遺産の記録保存調査をおこなう。

##### 1-3 地域遺産の収集とアーカイブ・データベースの作成【行政・機関 R6~10】

地域遺産を収集(購入・寄贈受け入れ)し、そのデジタルアーカイブ化・データベース化(リスト作成)を実施する。

##### 1-4 「おおよど遺産ストーリー」の作成 ★【行政・地域・団体 R6~10】

地域遺産の魅力とその価値について多様な視点から研究する参加型のワークショップを実施し、ストーリー(物語)を作成する。

##### 1-5 町史編纂にかかわる調査・研究の実施と成果の公開 ★【行政・機関 R7~10】

過去の町史編纂事業をふまえ、町史編纂委員会を設置し、『(仮)新・大淀町史』(令和13年刊行予定)の編纂にむけた調査・研究等の取り組みを進め、その成果を随時公開する。

## 【措置2】 人材育成事業（★は重点事業）

### 2-1 地域にかかわる学習・講座の開催【行政・地域 R6～10】

住民(個人・団体)・学校を対象とした、郷土の歴史文化や偉人たちの足跡を学ぶ「ふるさと学習」「出前講座」を実施する。

### 2-2 地域にかかわる災害予防訓練の実施【行政・地域 R6～10】

「文化財保護強調月間」「文化財防火週間」などのイベント期間中に災害予防訓練を実施し、地域住民の防災意識の向上を「めざした取り組みを推進する。

### 2-3 地域遺産にかかわる体験型講習会の実施【地域・団体 R7～10】

学校等と連携し、農林業・伝統文化、伝統工芸の技術・知識の継承を目的とする体験型講習会を実施し、次世代の担い手を確保する。

### 2-4 「(仮)地域遺産の語り部」の募集・育成【地域・団体 R7～10】

地域遺産を語り、案内(ガイド)できるボランティアを町内外より募集し、「(仮)地域遺産の語り部」として育成しながら、各地域で取り組めることを実践していく。

### 2-5 「(仮)地域遺産サポーター」の募集【行政・地域・団体 R8～10】

「(仮)地域の語り部」とともに地域社会を下支えしていく、登録型の「(仮)地域遺産サポーター」を町内外より募集し、地域遺産の保存・活用にかかわる活動をすすめる。

### 2-6 地域遺産の保存・活用にかかわる団体の設立 ★【行政・地域・団体 R8～10】

地域遺産の複合的な保存・活用とその寄付金獲得にかかわるネットワーク構築ができる民間活動団体を設立していく。

## 【措置3】 保存・継承事業（★は重点事業）

### 3-1 文化財指定等の推進【行政 R6～10】

未指定の重要な地域遺産について、文化財指定等(大淀町文化財保護審議会による指定審議)に積極的に取り組む。

### 3-2 指定等文化財の修復・修理【行政・地域 R6～10】

「大淀町文化財保存事業補助金交付要綱」に基づき、所有者とも相談しながら、記念物(遺跡など)・美術工芸品(彫刻など)の指定等文化財の修理に取り組む。

### 3-3 地域遺産の持続的な保存・管理【行政・地域 R6～10】

地域遺産の定期的な保存・管理をおこない、古墳や個人所蔵の資料など、個人で保存が困難な地域遺産については公有化し保護する(土地買い上げを含む)。

### 3-4 地域遺産をとりまく景観の保全【行政・地域・団体 R6～10】

行政・地域・団体が協力しながら、地域遺産周辺の適切な景観保全(雑木伐採・草刈り清掃等)に取り組む。

### 3-5 地域遺産の災害予防対策 ★【行政・地域 R6～10】

指定等文化財を含む地域遺産の防災・防犯のための対策(防災指導・巡回・施錠・カメラ設置・獣害対策)をおこない、緊急避難計画等を作成する。

### 3-6 「(仮)史跡比曾寺跡保存活用計画」の策定 ★【行政・地域 R8～10】

大淀町で唯一の国史跡・比曾寺跡について、東西塔跡と宝物庫(収蔵展示施設)の整備を軸とする保存活用計画を策定する。

## 【措置4】 拠点整備事業 (★は重点事業)

### 4-1 地域遺産の保存・管理施設の確保と整備計画の策定 ★【行政 R8・9】

既存の公共施設や学校等の空きスペースなどを確保し、収集した地域遺産を保存・管理する拠点施設(仮称・地域遺産センター)を造っていくため、その整備計画を策定する。

### 4-2 文化・観光・交流施設での地域遺産の利活用にかかわる環境整備 ★ 【行政・地域 R9・10】

行政と地域が連携し、観光施設(道の駅吉野路大淀iセンター等)・文化施設(町文化会館・町立杉本記念文化センター等)・交流施設(各地のコミュニティ施設・古民家等)の環境(ウェブアクセシビリティや展示台・交流スペース)を整備し、広域観光に資する取り組みや地域遺産の利活用(展示・解説)をおこなう。

### 4-3 地域遺産の展示・学習教材の整備 【行政・団体 R8～10】

上記の拠点施設で使用する展示用の模型や複製品(佐名伝銅鐸・桧垣本猿楽関係資料・岸田日出男関係資料)・副読本の作成などをおこない、地域や学校の学習教材としても活用する。

### 4-4 地域遺産のサイン設置・修理 【行政・地域 R7～10】

学校とも連携し、指定等文化財を含む地域遺産の所在地・伝承地にQRコードなどを活用したサイン(案内・解説板等)の設置と修理をおこなう。

### 4-5 地域遺産周辺のベンチ・トイレ設置 【行政・地域・団体 R8～10】

指定等文化財を含む地域遺産の所在地・伝承地周辺に見学者用のベンチ・トイレを設置する。

### 4-6 町内地域遺産周辺の見学路整備 【地域・団体 R8～10】

指定等文化財を含む地域遺産(遺跡・古墳など)にいたる見学路を整備する。

## 【措置5】 情報発信事業（★は重点事業）

### 5-1 地域遺産に関する調査報告書の作成・公開【行政・機関 R6～10】

地域遺産に関する調査報告書を作成し、その成果を随時公開していく。

### 5-2 地域遺産に関する一般刊行物の作成・公開【行政・地域・団体 R6～10】

地域遺産の情報をもりこんだ一般刊行物(町広報紙・冊子・マップ・資料集・リーフレットなど)を作成・公開し、その情報を発信し魅力をPRする。

### 5-3 地域遺産を学び深める企画展示の開催【行政・団体 R6～10】

大淀町文化会館等を中心に、年数回程度、地域遺産にかかわる企画展示を開催し、その情報を発信し魅力をPRする。

### 5-4 地域遺産を学び深める講演会・シンポジウムの開催【行政・団体・機関 R6～10】

大淀町文化会館等を中心に、年1回程度、地域遺産にかかわる講演会・シンポジウム等を開催し、その情報を発信し魅力をPRする。

### 5-5 地域遺産を活かしたユニークメニューの実施【地域・団体 R6～10】

地域と団体が連携し、町内のユニークな地域遺産(寺社・近代建築・古民家・橋梁と川沿いの景観など)を活用した小規模イベントを実施し、その収益を地域遺産の保存・活用等にあてる。

### 5-6 地域遺産等を巡る周遊型・体験型イベントの実施【地域・団体 R6～10】

地域と団体が連携し、地域遺産や古道等を周遊するハイキングおよび体験型イベント等を実施し、その収益を地域遺産の保存・活用等にあてる。

### 5-7 地域遺産コンテンツの制作・配信 ★【行政・団体・機関 R7～10】

地域や学校等と連携し、地域遺産の情報(アーカイブ)から多世代が楽しめるデジタルコンテンツを制作し、インターネット(町公式HP・動画チャンネル・SNS等)を利活用し、随時配信しながら町の魅力PRにつなげる。

### 5-8 地域遺産コンテンツの活用【行政・団体・機関 R7～10】

地域や学校等と連携し、地域遺産のコンテンツやそのデザインの魅力を活かした観光サービスと商品開発をおこない、町の魅力PRにつなげる。

地域計画 措置一覧

事業番号	措置・事業内容	実施主体	期間				
			R6	R7	R8	R9	R10
<b>【措置1】 調査・研究事業(★は重点事業)</b>							
1-1	<b>地域遺産の把握調査を実施</b> 古文書・戦争遺産・教育遺産・文学関係資料・梨や茶などの生産地等の地域遺産の所在を把握し、概略をつかむ。	行政 地域 団体					
1-2	<b>地域遺産の記録保存調査を実施</b> 文字情報・デジタル画像と動画等で、埋蔵文化財や民俗行事等などの地域遺産の記録保存調査をおこなう。	行政 地域 団体					
1-3	<b>地域遺産の収集とアーカイブ・データベースを作成</b> 地域遺産を収集(購入・寄贈受け入れ)し、そのデジタルアーカイブ化・データベース化(リスト作成)を実施する。	行政 機関					
1-4	<b>「おおよど遺産ストーリー」を作成 ★</b> 地域遺産の魅力とその価値について多様な視点から研究する参加型のワークショップを実施し、ストーリー(物語)を作成する。	行政 地域 団体					
1-5	<b>町史編纂にかかわる調査・研究の実施と成果の公開 ★</b> 過去の町史編纂事業をふまえ、町史編纂委員会を設置し、『(仮)新・大淀町史』(令和13年刊行予定)の編纂にむけた調査・研究等の取り組みを進め、その成果を随時公開する。	行政 機関					
<b>【措置2】 人材育成事業(★は重点事業)</b>							
2-1	<b>地域にかかわる学習・講座の開催</b> 住民(個人・団体)・学校を対象とした、郷土の歴史文化や偉人たちの足跡を学ぶ「ふるさと学習」「出前講座」を実施する。	行政 地域					
2-2	<b>地域にかかわる災害予防訓練の実施</b> 「文化財保護強調月間」「文化財防火週間」などのイベント期間中に災害予防訓練を実施し、地域住民の防災意識の向上をめざす。	行政 地域					
2-3	<b>地域遺産にかかわる体験型講習会の実施</b> 学校等と連携し、農林業・伝統文化、伝統工芸の技術・知識の継承を目的とする体験型講習会を実施し、次世代の担い手を確保する。	地域 団体					
2-4	<b>「(仮)地域遺産の語り部」の募集・育成</b> 地域遺産を語り、案内(ガイド)できるボランティアを町内外より募集し、「(仮)地域遺産の語り部」として育成しながら、各地域で取り組めることを実践していく。	地域 団体					
2-5	<b>「(仮)地域遺産サポーター」の募集</b> 「(仮)地域の語り部」とともに地域社会を下支えしていく、登録型の「(仮)地域遺産サポーター」を町内外より募集し、地域遺産の保存・活用にかかわる活動をすすめる。	行政 地域 団体					
2-6	<b>地域遺産の保存・活用にかかわる団体の設立 ★</b> 地域遺産の複合的な保存・活用とその寄付金獲得にかかわるネットワーク構築ができる民間活動団体を設立していく。	行政 地域 団体					



地域計画 措置一覧

事業番号	措置・事業内容	実施主体	期間				
			R6	R7	R8	R9	R10
<b>【措置3】 保存・継承事業(★は重点事業)</b>							
3-1	<b>文化財指定等の推進</b> 未指定の重要な地域遺産について、文化財指定等(大淀町文化財保護審議会による指定審議)に積極的に取り組む。	行政					
3-2	<b>指定等文化財の修復・修理</b> 「大淀町文化財保存事業補助金交付要綱」に基づき、所有者とも相談しながら、記念物(遺跡など)・美術工芸品(彫刻など)の指定等文化財の修理に取り組む。	行政 地域					
3-3	<b>地域遺産の持続的な保存・管理</b> 地域遺産の定期的な保存・管理をおこない、古墳や個人所蔵の資料など、個人で保存が困難な地域遺産については公有化し保護する(土地買い上げを含む)。	行政 地域					
3-4	<b>地域遺産をとりまく景観の保全</b> 行政・地域・団体が協力しながら、地域遺産周辺の適切な景観保全(雑木伐採・草刈り清掃等)に取り組む。	行政 地域 団体					
3-5	<b>地域遺産の災害予防対策 ★</b> 指定等文化財を含む地域遺産の防災・防犯のための対策(防災指導・巡回・施錠・カメラ設置・獣害対策)をおこない、緊急避難計画等を作成する。	行政 地域					
3-6	<b>「(仮)史跡比曾寺跡保存活用計画」の策定 ★</b> 大淀町で唯一の国史跡・比曾寺跡について、東西塔跡と宝物庫(収蔵展示施設)の整備を軸とする保存活用計画を策定する。	行政 地域					
<b>【措置4】 拠点整備事業(★は重点事業)</b>							
4-1	<b>地域遺産の保存・管理施設の確保と整備計画の策定 ★</b> 既存の公共施設や学校等の空きスペースなどを確保し、収集した地域遺産を保存・管理する拠点施設(仮称・地域遺産センター)を造っていくため、その整備計画を策定する。	行政					
4-2	<b>文化・観光・交流施設での地域遺産の利活用にかかわる環境整備 ★</b> 行政と地域が連携し、観光施設(道の駅吉野路大淀iセンター等)・文化施設(町文化会館・町立杉本記念文化センター等)・交流施設(各地のコミュニティ施設・古民家等)の環境(ウェブアクセシビリティや展示台・交流スペース)を整備し、広域観光に資する取り組みや地域遺産の利活用(展示・解説)をおこなう。	行政 地域					
4-3	<b>地域遺産の展示・学習教材の整備</b> 上記の拠点施設で使用する展示用の模型や複製品(佐名伝銅鐸・桧垣本猿楽関係資料・岸田日出男関係資料)・副読本の作成などをおこない、地域や学校の学習教材としても活用する。	行政 団体					

地域計画 措置一覧

事業番号	措置・事業内容	実施主体	期間						
			R6	R7	R8	R9	R10		
4-4	<b>地域遺産のサイン設置・修理</b> 学校とも連携し、指定等文化財を含む地域遺産の所在地・伝承地にQRコードなどを活用したサイン(案内・解説板等)の設置と修理をおこなう。	行政地域							
4-5	<b>地域遺産周辺のベンチ・トイレ設置</b> 指定等文化財を含む地域遺産の所在地・伝承地周辺に見学者用のベンチ・トイレを設置する。	行政地域団体							
4-6	<b>町内地域遺産周辺の見学路整備</b> 指定等文化財を含む地域遺産(遺跡・古墳など)にいたる見学路を整備する。	地域団体							
<b>【措置5】 情報発信事業(★は重点事業)</b>									
5-1	<b>地域遺産に関する調査報告書の作成・公開</b> 地域遺産に関する調査報告書を作成し、その成果を随時公開していく。	行政機関							
5-2	<b>地域遺産に関する一般刊行物の作成・公開</b> 地域遺産の情報をもりこんだ一般刊行物(町広報紙・冊子・マップ・資料集・リーフレットなど)を作成・公開し、その情報を発信し魅力をPRする。	行政地域団体							
5-3	<b>地域遺産を学び深める企画展示の開催</b> 大淀町文化会館等を中心に、年数回程度、地域遺産にかかわる企画展示を開催し、その情報を発信し魅力をPRする。	行政団体							
5-4	<b>地域遺産を学び深める講演会・シンポジウムの開催</b> 大淀町文化会館等を中心に、年1回程度、地域遺産にかかわる講演会・シンポジウム等を開催し、その情報を発信し魅力をPRする。	行政団体機関							
5-5	<b>地域遺産を活かしたユニークバニューの実施</b> 地域と団体が連携し、町内のユニークな地域遺産(寺社・近代建築・古民家・橋梁と川沿いの景観など)を活用した小規模イベントを実施し、その収益を地域遺産の保存・活用等にあてる。	地域団体							
5-6	<b>地域遺産等を巡る周遊型・体験型イベントの実施</b> 地域と団体が連携し、地域遺産や古道等を周遊するハイキングおよび体験型イベント等を実施し、その収益を地域遺産の保存・活用等にあてる。	地域団体							
5-7	<b>地域遺産コンテンツの制作・配信 ★</b> 地域や学校等と連携し、地域遺産の情報(アーカイブ)から多世代が楽しめるデジタルコンテンツを制作し、インターネット(町公式HP・動画チャンネル・SNS等)を利活用し、随時配信しながら町の魅力PRにつなげる。	行政団体機関							
5-8	<b>地域遺産コンテンツの活用</b> 地域や学校等と連携し、地域遺産のコンテンツやそのデザインの魅力を活かした観光サービスと商品開発をおこない、町の魅力PRにつなげる。	行政団体機関							

## 第 6 章

# 地域計画の重点事業

本章では、前章までに述べてきた本町の地域遺産をめぐる課題・方針・措置に基づき、本町が今後取り組んでいく事業の重点政策として、第5章で「重点事業」としてとりあげた①「おおよど遺産ストーリー」の作成(措置1-4)と地域遺産コンテンツの制作・配信(措置5-7)、②広域での取り組み(措置4-2)、③災害予防対策(措置3-5)の3つの事業について述べていきます。

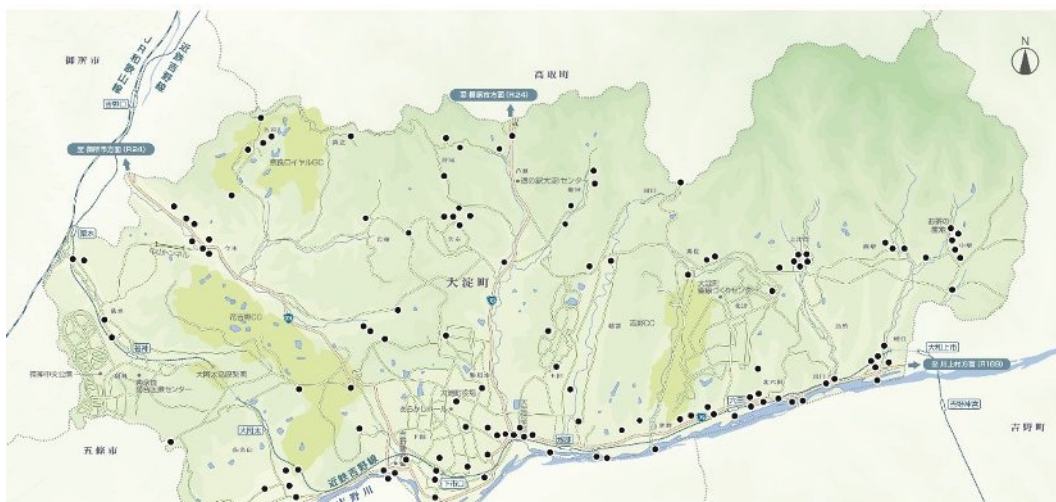
### 1 「おおよど遺産ストーリー」の設定にむけて

「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」に記載する関連文化財群の設定にあたっては、本町の歴史文化の特性とそれにまつわる取り組みをいかした方針を定める必要があります。とりわけ、町内の関連する地域遺産をいくつかのテーマごとにまとめ、つないでいく作業が必要です。

本計画では、上記の「関連文化財群」について、本町独自の地域遺産保存・活用事業のなかで進めている「おおよど遺産」の取り組みと関連付けて「おおよど遺産ストーリー」と称します。

具体的には、町内の地域遺産をテーマごとに分類し、連想しながら、またその背景にあるストーリーを練りながら、計画期間内にその設定等も検討していきます(措置1-4)。

このようにして設定された「おおよど遺産ストーリー」に基づき、コンテンツの制作・配信(措



▲おおよど遺産の分布図

置5-7)など、具体的な事業化をはかります。また、事業化にあたっては、観光振興・まちづくり事業とも連携して、周遊コースの設定などをおこない、周遊型・体験型イベントの実施につなげていきます(措置5-6)。

上記の設定をおこなうにあたり、下記のとおり、本町の歴史文化の特性(5つのテーマ)から抽出された12の「おおよど遺産ストーリー」が想定されます。

#### 大淀町の歴史文化の特性

テーマ	
1	記紀伝承を語る古代吉野の遺産 —吉野の古墳と古代寺院—
2	聖地へつながる吉野路の交差点 —街道と文化交流—
3	人と自然がおりなす吉野川の民俗 —水と暮らしの文化—
4	中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 —お囃子の芸祖と吉野—
5	吉野の風土に生きた偉人たち —岸田日出男と花岡大学—

#### 想定される12の「おおよど遺産ストーリー」

1	古:古代史ゆかりの地
2	伝:伝承地とその遺産
3	祈:祈りの場所(社寺ほか)
4	路:地域の街道や古道
5	水:水遺産と人のかかわりをつなぐ
6	樹:珍しい植物や巨樹遺産をつなぐ
7	創:ものづくりの智恵と技をつなぐ
8	農:農業遺産の魅力をつなぐ
9	芸:芸能文化のルーツをつなぐ
10	祭:祭礼の伝統をつなぐ
11	人:著名な人物ゆかりの場所をつなぐ
12	戦:戦争と近代の記憶遺産をつなぐ

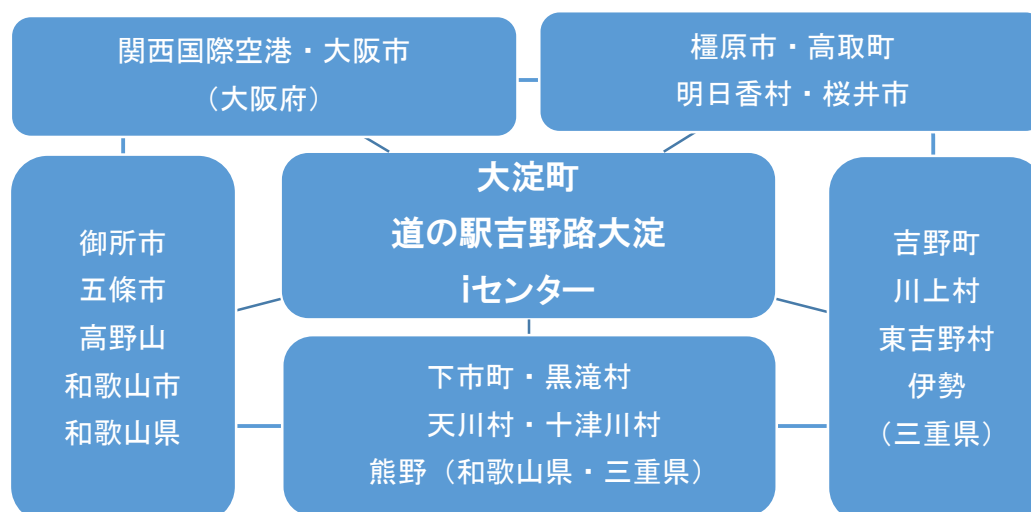
古	伝
祈	路
水	樹
創	農
芸	祭
人	戦

## 2 広域での取り組み

本町を含む奈良県吉野郡は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や日本遺産「森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～」といった文化遺産に恵まれています。本町にその構成資産はありませんが、本町は地理的にみても、その現地を訪れる際にかならず通過する交通アクセスの拠点となっています。吉野郡内に所在する「世界遺産」や「日本遺産」にいたる玄関口としてのさまざまな機能が、本町に求められています。そのような現状を鑑みながら関連自治体と連携し、吉野郡域の観光交流事業に資する構想を検討していくことも本町の課題です。

また、吉野郡3町8村のなかで、現在、文化財主管部局に文化財専門職を配置している自治体は、吉野町・大淀町・十津川村だけです。郡内において、質の高い文化財行政サービスを持続させつつ、より一体的な広域での文化財の保存・活用をめざすには、各自治体の地域遺産に精通した専門職・担当者同士の補完・支援の体制づくりが不可欠であり、そのなかで大淀町の果たす役割は大きいといえます。

本計画では、吉野郡域全体の将来的な目標として、本町の歴史文化の特性をいかしつつ「道の駅(吉野路大淀iセンター)」をハブ拠点とし、世界遺産や日本遺産、郡内の観光地や文化施設等を周遊する「(仮称)広域観光圏構想」の策定とそれにとまなう環境整備を検討していきたいと考えています(措置4-2・4-3)。また、上記とあわせて地域遺産等をより広域のネットワークで保存・活用する「(仮称)広域文化財保存活用構想」についても検討し、そのなかでの大淀町の役割についても模索していきたいと考えています。



▲大淀町をとりまく広域観光圏のイメージ

### 3 災害予防対策 ―地域遺産の確実な継承にむけて―

近年は、これまで経験したことがないような大規模災害(震災・火災・風水害等)により、長く守り伝えられてきた地域遺産がまたたく間に失われてしまう事例も増えています。また、山間地では過疎化・少子高齢化によって地域社会の担い手が減少し、無住(兼務)の寺院が増え、神社の境内や社叢の保全・管理なども困難になりつつあります。一方でコロナ禍の影響から、地域の祭りや行事、会合等も休止せざるを得ない状況が続きました。

このような地域社会のありようをふまえて、地域遺産を確実に次世代へ継承していくためには、地域住民だけで完結しない、より広域なネットワークによる保護支援体制が必要とされます。また、災害予防対策として地域住民自身が地域遺産の現状を正確に把握し、専門家や関係機関と情報共有しながら災害時において迅速な減災対応ができる体制づくりも必要です。

奈良県が平成18年(2006)7月に策定した『文化財災害対応マニュアル』には、災害発生時の応急措置と復旧対策や日常の災害予防対策等も示されています。令和5年(2023)4月には第3回目の改訂もおこなわれ、未指定文化財の取り扱いや県内関係機関との連携等が追加されています。

また本町においては、令和3年(2021)5月、大淀町地域防災会議が『大淀町地域防災計画』を作成しています。このなかには、防災対策の総合的な指針とともに、文化財等の保護と被災時の応急対策についても記載があります。

本計画では、上記のマニュアルや計画に基づき、来るべき災害発生にそなえて地域遺産の記録保存を定期的実施し、データベース化(リスト化)しておくとともに(措置1-2・1-3)、地域住民の防災意識の向上をめざす取り組み(措置2-2)や、日常の災害予防対策(措置3-5)なども進めていきます。

大規模な災害が発生した場合は、被災者の救助と地域住民の安全確保をおこなった後、地域遺産の被災状況を把握し、被害が拡大しないよう適切な減災措置を講じたうえで奈良県に報告し、今後の対応を検討していきます。また、地域住民のみで災害復旧等の対応ができない場合は、奈良県を通じて、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターに協力を求めることとします。

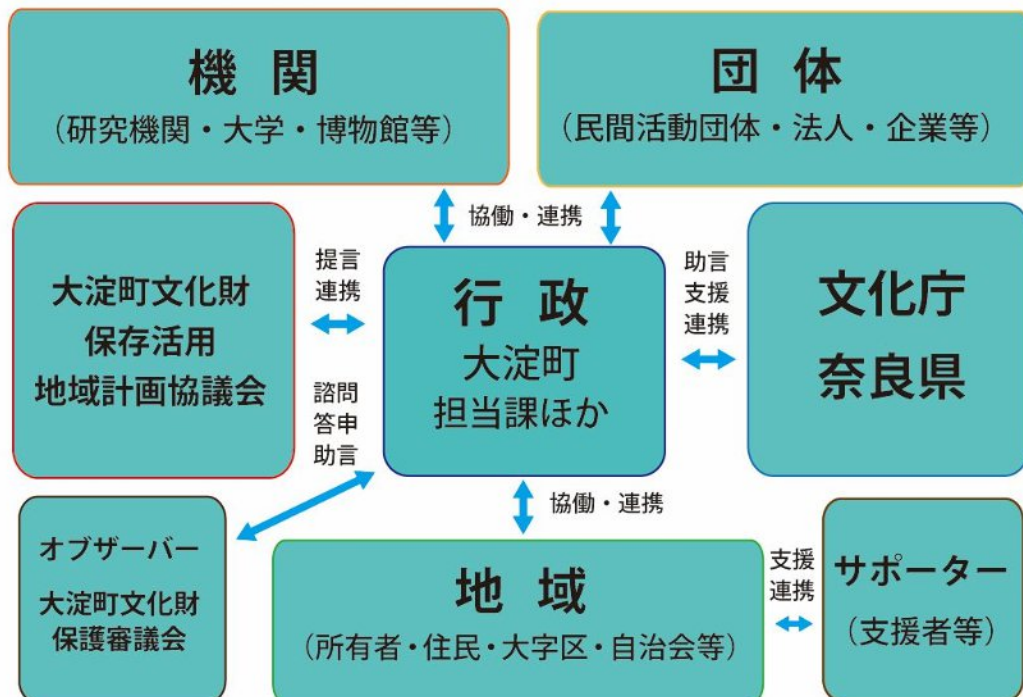
## 第 7 章

# 地域遺産保存・活用の推進体制

### 1 地域計画の推進体制

本計画の第6章で定めた措置(事業)を適切に推進していくため、担当課および関連部局においては、今後、地域遺産の保存・活用事業に従事する職員等を確保するなど、体制を充実させる必要があります。また、文化財保護法第191条に基づき「(仮)大淀町文化財保護指導委員」を設置し、巡視等による地域遺産の現状把握と保護体制を強化するとともに、地域遺産の保存・活用にかかわる民間団体を「文化財保存活用支援団体」に指定し、地域住民との協働・連携事業を推進していきます。

推進体制については下図のように、行政(大淀町担当課ほか)を中心に、地域・団体・機関等の協働・連携事業として取り組んでいきます。



▲推進体制のイメージ

## 地域計画の推進体制

### 行政（大淀町 担当課ほか）

大淀町教育委員会事務局 文化振興課 文化・文化財係

- ・業務内容：地域遺産の保存・活用に関する事業
- ・職員1名（文化財専門職）

大淀町役場建設環境部 建設産業課

- ・業務内容：商工観光振興・道の駅に関する事業

その他の関連部局

- ・大淀町役場総務部 総務課
- ・大淀町教育委員会事務局 文化振興課 文化会館施設運営・管理係および図書館係 他
- ・大淀町教育委員会事務局 学務課（小学校・中学校関係）・社会教育課

### 文化庁

文化庁文化資源活用課

### 奈良県

奈良県文化・教育・くらし創造部

- ・文化財保存課・文化財保存事務所・文化資源活用課・文化振興課
- ・奈良県文化財保護指導委員（吉野・大淀地区） 1名

### 大淀町文化財保存活用地域計画協議会

- ・協議内容：地域計画に基づく町内地域遺産の保存活用に関する総合的な取り組み
- ・委員（10名）： 委員長1名・副委員長1名・委員8名

### オブザーバー（大淀町文化財保護審議会）

- ・審議内容：町内地域遺産の保存活用に関する重要事項
- ・委員（10名）： 委員長1名・副委員長1名・委員8名

### 団体（民間活動団体・法人・企業等）

NPO法人：おおいわ結の里・公益財団法人杉本教育記念財団・うちのの館・奈良まほろばソムリエの会 他

公益財団法人：元興寺文化財研究所・由良大和古代文化研究協会・阪本龍門文庫・吉野川紀の川源流物語 他

文化芸術団体：大淀町文化連盟・大淀町文化財調査会・大淀古文書文化研究会・おおよど語り部の会 他

まちづくり団体：大淀町商工会・大淀いきいきプロジェクト・大淀町人権のまちづくり運動推進協議会 他

### 機関（研究機関・大学・博物館等）

奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立民俗博物館・奈良県立万葉文化館

奈良県立図書情報館・奈良県立美術館・なら歴史芸術文化村

奈良国立博物館・文化財防災センター・奈良文化財研究所・国立映画アーカイブ

大学機関：奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所・奈良県立大学 地域創造研究センター 他

博物館・資料館：吉野歴史資料館・市立五條文化博物館 他



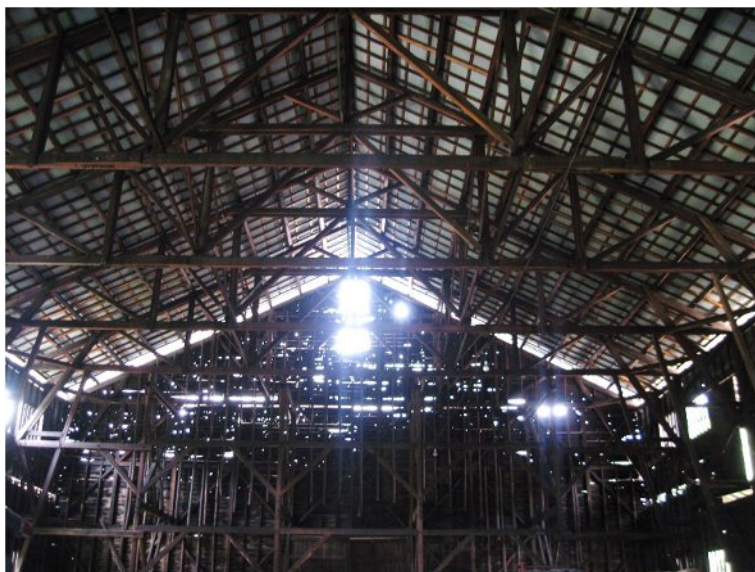
## 2 地域計画の評価

本計画の計画期間は、令和6年度(2024年度)から令和10年度(2028)までの5年間で、令和8年度(2026年度)には、計画の変更等も検討していきます。そのため、計画作成のため組織された現行の「大淀町文化財保存活用地域計画協議会」を再編成し、令和6年度以降も引き続き、認定された地域計画の変更や実施にかかわる連絡調整と、実施した事業の評価をおこなっていきます。

## 3 地域遺産（文化財）の登録の提案

本計画に記載した地域遺産のうち、速やかな保護措置が必要なものについては、文化財保護法第183条の5に基づく「登録文化財制度」を活用し、所有者と協議しながら地域社会での活用と次世代への継承をはかります。

登録の提案にあたっては、奈良県と協議したうえで、提案書および関連書類を作成し、本町文化財保護審議会にて当該地域遺産が登録基準をみたすかどうか意見を聴いたうえで、奈良県を通じて文化庁へ書類を提出するものとします。



▲保護すべき地域遺産（北六田 北村化学倉庫）

## 参考文献

- 大淀町(総務課)『広報おおよど』(1961年～2023年)・『町勢要覧』(1966年～201年)。
- 大淀町(大淀町史編集委員会編)『大淀町史』大淀町役場 1973年。
- 大淀町(大淀町史編集委員会編)『大淀町史』大淀町役場 1973年。
- 大淀町『おおよど百年史』2021年。
- 大淀町『第4次大淀町総合計画(基本構想・前期基本計画)』2017年。
- 大淀町『第4次大淀町総合計画 後期基本計画 第2期大淀町地方創生総合戦略』2022年。
- 大淀町果樹組合『大阿太高原のあゆみ』2005年。
- 大淀町教育委員会『大淀町文化財図録』2005年。
- 大淀町教育委員会『大淀町の民俗と伝統文化』平成22年度大淀町地域伝統文化活性化事業(文化庁支援事業)普及用冊子 2011年。
- 大淀町教育委員会『おおよどの地域遺産を学ぶ-平成19～23年度「おおよど歴史学習会」事業成果報告書-』2013年。
- 大淀町教育委員会『「能楽」のふるさと大淀町-歴史と現在の取り組み-』2017年。
- 大淀町教育委員会『わたしたちのレガシー～地域遺産を次代へつなぐ～』大淀町地域遺産シンポジウム 2021資料集 2021年。
- 大淀町教育委員会『吉野のなかの大淀町 未来に伝えるレガシー』大淀町地域遺産シンポジウム 2022資料集(文化庁令和4年度地域文化財総合活用推進事業) 2022年。
- 大淀町教育委員会『おおよど遺産-2016～2020年度大淀町地域遺産保存活用事業-』2022年。
- 大淀町佐名伝区『ふるさと さなて再発見』佐名伝分村合併50周年記念誌 2002年。
- 大淀町地域防災会議『大淀町地域防災計画』2021年。
- 大淀町立大淀桜ヶ丘小学校編『百年史』大淀町立大淀桜ヶ丘小学校百周年記念事業実行委員会 1975年。
- 小島俊次『奈良県の考古学』郷土考古学叢書1 吉川弘文館 1965年。
- 小西義範『大淀町の神社』2022年。
- 竹山清文編『奈良県吉野郡 大淀村風俗誌』1918年。
- 奈良県『奈良県文化財保存活用大綱』2021年。
- 奈良県『文化財災害対応マニュアル』2006年(2023年 第3回改訂)。
- 奈良県教育委員会『奈良県の近代化遺産—奈良県近代化遺産総合調査報告書—』2014年。
- 奈良県宇智郡役所編『奈良県宇智郡誌』1924年(臨川書店 1994年復刻)。
- 文化庁『地域総がかりでつくる文化財保存活用地域計画—歴史文化で魅力ある地域へ—』2022年。
- 文化庁『文化財保護法に基づく文化財保存活用地域大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針』2023年。

## 参考資料

地域計画の対象地域(大淀町).....	74
大淀町の航空写真.....	75
大淀町全図.....	76
大淀町内の指定等文化財一覧.....	77
おおよど遺産一覧.....	78
大淀町内の地域遺産一覧.....	81
大淀町文化財保存活用地域計画協議会設置要項.....	85
大淀町文化財保存活用地域計画 報道発表資料(概要).....	86
大淀町文化財保存活用地域計画 課題・方針・措置対応表(折込み)	



▲地域計画の対象地域(大淀町)

(出典) 国土地理院タイル地図(標準地図)に一部加筆して作成



▲大淀町の航空写真（2017年1月6日撮影）



▲大淀町全図

大淀町内の指定文化財一覧（2023年8月）

番号	区分	種別	名称	員数	所在地	所有者	所有（保持）者住所	指定年月日	時代	解説版
	国	記念物 遺跡	比叢寺跡		大淀町比叢	世尊寺 管理団体は大淀町	大淀町比叢762	昭和2年4月8日	飛鳥～室町	設置
	県	有形文化財 建造物	世尊寺太子堂 附 銘札 1枚	1棟	大淀町比叢755	世尊寺	大淀町比叢762	平成元年3月10日	江戸	設置
	県	有形文化財 彫刻	木造十一面観音立像（本堂安置）	1躯	大淀町比叢755	世尊寺	大淀町比叢762	平成18年3月31日	奈良	
	県	記念物 遺跡	石神古墳 附 大岩2号墳	1墓	大淀町大岩103-6の1部	株式会社奈良 ロイヤルゴルフクラブ	大淀町大岩66-1	平成24年3月30日	古墳	設置
1	町	民俗文化財 有形の民俗文化財	石塚遺跡	1墓	大淀町松垣本・下刈	下刈行者講	大淀町下刈769	平成2年7月1日	中・近世	設置
2	町	有形文化財 彫刻	今木権現堂山門 木造金剛力士像 仁王阿形像（右） 仁王吽形像（左）	2躯	大淀町今木1394	個人	大淀町今木840	平成2年7月1日	江戸 （明暦2年）	設置
3	町	有形文化財 彫刻	蔵王権現堂内外石仏群	17点	大淀町今木1800-2	個人	大淀町今木840	平成5年5月1日	室町 （永禄11・12年）	設置
4	町	天然記念物 植物	ケヤキ	1本	大淀町土田	土田区	大淀町土田	平成15年2月10日		設置
5	町	有形文化財 彫刻	木造大日如来坐像	1躯	大淀町大岩（大日堂）	大岩区	大淀町大岩	平成15年2月10日	平安	設置
6	町	記念物 遺跡	柳の渡し		大淀町北六田487-1	北六田区	大淀町北六田	平成17年6月21日	江戸	設置
7	町	記念物 遺跡	榎ヶ峯古墳	1墓	大淀町新野528	大淀町	大淀町松垣本2090	平成19年1月17日	古墳	設置
8	町	有形文化財 絵画	現光寺縁起絵巻 上・下巻	2幅	大淀町比叢755	世尊寺	大淀町比叢762	平成20年7月23日	江戸	
9	町	記念物 遺跡	保久良古墳	1墓	大淀町今木151-1	大淀町	大淀町松垣本2090	平成24年7月26日	古墳	設置
10	町	民俗文化財 無形の民俗文化財	畷火山口神社の水取り神事	1件	大淀町土田	土田区 畷火山口神社	大淀町土田 榑原市大谷町	平成26年3月28日		設置
11	町	有形文化財 彫刻	木造蔵王権現立像	1躯	大淀町中増724	安養寺	大淀町中増724	平成29年8月7日	平安	設置
12	町	有形文化財 彫刻	木造薬師如来坐像	1躯	大淀町馬佐 （薬師堂）	馬佐区	大淀町馬佐	平成31年3月27日	平安	設置
13	町	有形文化財 彫刻	木造男神・女神坐像 附 木札（天文十八年） 1点	6躯	大淀町大岩	大岩自治会	大淀町大岩	平成31年3月27日	鎌倉 木札は天文18年	
14	町	有形文化財 彫刻	木造地藏菩薩立像	1躯	大淀町馬佐 （薬師堂）	馬佐区	大淀町馬佐	令和3年8月31日	平安	設置
15	町	有形文化財 彫刻	木造十一面観音立像	1躯	大淀町馬佐 （薬師堂）	馬佐区	大淀町馬佐	令和3年8月31日	平安	設置
16	町	有形文化財 歴史資料	岸田日出男関係資料・35mmフィルム	4巻	大淀町松垣本2090	大淀町	大淀町松垣本2090	令和3年8月31日	大正・昭和初期	
17	町	有形文化財 歴史資料 天然記念物	岸田日出男関係資料・二ホンオカミ頭骨標本	1点	大淀町松垣本2090	大淀町	大淀町松垣本2090	令和5年3月31日	明治	

番号 大淀町指定文化財番号

## おおよど遺産一覧

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日
1	オカリヤをたてる 御霊神社の秋祭	民俗遺産	佐名伝	2017年3月31日
2	潮の香りと弥生人の記憶 佐名伝銅鐸	もの遺産	佐名伝	2017年3月31日
3	梨の花香る里山 大阿太高原	景観遺産	佐名伝・薬水	2017年3月31日
4	大正浪漫のタイムトンネル 薬水門	近現代遺産	薬水	2017年3月31日
5	薬水の由来 弘法井戸	名所遺産	薬水	2017年3月31日
6	おおみそかの送り火 牛と馬のトンド	民俗遺産	今木	2017年3月31日
7	天まであがれ 大岩のトンド	民俗遺産	大岩	2017年3月31日
8	アメタンモレの伝承 大日如来と大岩神社の神像	もの遺産	大岩	2017年3月31日
9	蓮のつぼみを抱えた大日如来	もの遺産	岩壺	2017年3月31日
10	ワッタイヨーで強くなれ 子ども相撲	民俗遺産	岩壺	2017年3月31日
11	村の庄屋の物語 迎居家の文化遺産	もの遺産	持尾	2017年3月31日
12	お正月の風物詩 カンジョウカケ	民俗遺産	畑屋	2017年3月31日
13	忠臣小金吾 伝説をものがたる石塔	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日
14	能楽お囃子のふるさと 桧垣本八幡神社	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日
15	張子の仏に願いを込めて 桧垣本釈迦堂	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日
16	安佐寺ゆかりの仏たち 馬佐薬師堂	名所遺産	馬佐	2017年3月31日
17	吉野最大級 北六田の木造倉庫群	近現代遺産	北六田	2017年3月31日
18	ふるさとを見守る ムクノキの巨樹	自然遺産	比曾	2017年3月31日
19	子どもに恵まれますように 上比曾のいのこ	民俗遺産	比曾	2017年3月31日
20	椿井の杜の鎮守さま 水分神社	名所遺産	増口	2017年3月31日
21	ほとけの心とやさしい言葉 花岡大学の童話作品	もの遺産	佐名伝	2018年3月31日
22	氏神さんに祈る日々 戦勝祈願の絵馬	近現代遺産	薬水	2018年3月31日
23	こもればはふるさとの灯 車坂古道	名所遺産	今木・下湊	2018年3月31日
24	近代化を支えた和漢薬 大岩の薬業遺産	近現代遺産	大岩	2018年3月31日
25	古風な宮座の神事 天髪王神社のトヤワタシ	民俗遺産	矢走	2018年3月31日
26	オンリーワン!の狛犬 天髪神社	名所遺産	持尾	2018年3月31日
27	鐘の音色は姫の声 正覚寺の梵鐘	もの遺産	芦原	2018年3月31日
28	500年続く龍神さまの記憶 畑屋の湯釜	もの遺産	畑屋	2018年3月31日
29	うったきさんへ牛つれて 牛滝まつり	民俗遺産	馬佐	2018年3月31日
30	みこしに乗って夏祭り 水神祭	民俗遺産	下湊	2018年3月31日
31	弥生人が入っています 常門遺跡の壺	もの遺産	越部	2018年3月31日
32	のぞいてびっくり 榎ヶ峯の古墳群	名所遺産	新野	2018年3月31日
33	北六田創村物語 毘沙門講の古文書	もの遺産	北六田	2018年3月31日
34	吉野の原風景がみえる 岸田日出男の遺したもの	近現代遺産	北六田	2018年3月31日



おおよど遺産一覧

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日
35	伊勢と和歌山をつなぐ道 伊勢南街道のまちなみ	景観遺産	増口	2018年3月31日
36	あの山のむこうに伊勢がある 高見地蔵	名所遺産	西増	2018年3月31日
37	お伊勢さんのおかげです おかげ灯籠	民俗遺産	中増	2018年3月31日
38	目で見る阿弥陀さんの世界 観経曼荼羅	もの遺産	中増	2018年3月31日
39	受け継がれる伝統の技と志 茶の里・増	わざ・景観遺産	中増・増口	2018年3月31日
40	弘法大師も筆を投げたり 筆捨岩	自然遺産	佐名伝	2019年3月31日
41	蔵王権現を守り伝える 今木権現堂と安養寺	名所遺産	今木・中増	2019年3月31日
42	建皇子の物語 保久良古墳と女帝の歌碑	名所遺産	今木	2019年3月31日
43	洞川から吉野口へ 大峯索道の遺産	近現代遺産	今木・大岩	2019年3月31日
44	愛宕山から矢がはしる 矢走城跡	名所遺産	矢走	2019年3月31日
45	後世に伝えたい 安政の大地震の記録	もの遺産	矢走	2019年3月31日
46	壺阪寺へ続く道 畑屋と北野の道標	名所遺産	畑屋・北野	2019年3月31日
47	美しすぎる観音さん 観音寺	名所遺産	桧垣本	2019年3月31日
48	さくらが丘の風ひかる 巨樹と桜の並木道	景観遺産	下淵	2019年3月31日
49	「一の行場」の大五輪塔 石塚遺跡	名所遺産	下淵	2019年3月31日
50	蓮如、吉野で人生を詠う 光明寺	名所遺産	下淵	2019年3月31日
51	時代をこえて 下市口の風景	近現代遺産	下淵	2019年3月31日
52	舟から橋へ 三つの渡しと近代橋	景観遺産	下淵・越部・北六田	2019年3月31日
53	吉野の水よ清らかに ケヤキと水取り神事	自然・民俗遺産	土田	2019年3月31日
54	梨木仏と「岡堂」の伝承 越部古墳	名所遺産	越部	2019年3月31日
55	太子信仰の遺産 世尊寺太子堂とおたいっさん	名所・民俗遺産	比曾	2019年3月31日
56	蘭学のDNA 前田家文書	もの遺産	西増	2019年3月31日
57	アイデア野菜でツクリモノ 西増・増口の地蔵盆	民俗遺産	西増・増口	2019年3月31日
58	あかい石が支えた地域産業 比曾石	もの遺産	大淀町内各地	2019年3月31日
59	ふるさとの智恵と味 柿の葉ずしを作ろう	わざ遺産	大淀町内各地	2019年3月31日
60	語り継がれる秘話 龍門騒動の記憶	もの遺産	大淀町内各地	2019年3月31日
61	吉野の水を国中へ 吉野川分水	近現代遺産	今木・下淵	2020年3月31日
62	ススキ提灯で心一つに 甲神社の秋祭り	民俗遺産	今木	2020年3月31日
63	心にのこそう 山村の原風景	景観遺産	鉾立・持尾	2020年3月31日
64	水の神、時々、幸福の女神 弁天さん	名所遺産	岩壺・馬佐	2020年3月31日
65	のこされた街道の記憶 芦原峠	名所遺産	芦原	2020年3月31日
66	のこされた戦争の記憶 忠魂碑	近現代遺産	下淵	2020年3月31日
67	下市口にて 安西冬衛の詩碑	もの遺産	下淵	2020年3月31日
68	農を支えた水利システム 桧垣本村の古絵図	もの遺産	桧垣本	2020年3月31日

おおよど遺産一覧

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日
69	ここで旗を振った 桧垣本のオシ塚	民俗遺産	桧垣本	2020年3月31日
70	プレイバック昭和 福田惇の記録映像	近現代遺産	土田	2020年3月31日
71	この一本がのこった カヤの巨樹	自然遺産	畑屋	2020年3月31日
72	奥越部に忌部の里 太玉神社	名所遺産	越部	2020年3月31日
73	世々に時を告げながら 長胴太鼓	もの遺産	新野	2020年3月31日
74	吉野の近代化を下支え 活版印刷の道具	もの遺産	新野	2020年3月31日
75	日本古来の伝統的な技 金箔貼り・金箔振り	わざ遺産	新野	2020年3月31日
76	氏神さんはお産の女神 新野八幡神社	名所遺産	新野	2020年3月31日
77	花と緑に包まれて 世尊寺の花木	自然遺産	比曾	2020年3月31日
78	縁起絵巻は物語る 放光仏	もの遺産	比曾	2020年3月31日
79	大淀町の名付け親 大北作治郎の遺産	近現代遺産	増口	2020年3月31日
80	線路は続くよいつまでも 吉野鉄道の遺産	近現代遺産	大淀町内各地	2020年3月31日
81	大陸風のまなざしで 佛眼寺	名所遺産	佐名伝	2021年3月31日
82	葛城と大峯をつなぐ 泉徳寺	名所遺産	今木	2021年3月31日
83	地名の由来は大きな岩 大岩古墳群	名所遺産	大岩	2021年3月31日
84	見上げれば、石垣の上に ウルシの古木	自然遺産	持尾	2021年3月31日
85	万葉歌と「大淀」のルーツ 鈴ヶ森	名所遺産	下湊	2021年3月31日
86	物語の主人公を偲んで お俊・伝兵衛の石碑	もの遺産	桧垣本	2021年3月31日
87	縄文の海の記憶 土田八幡神社の樹叢	自然遺産	土田	2021年3月31日
88	まちづくりの原点 山の神と平城神社	名所遺産	土田（南大和）	2021年3月31日
89	川沿いの古道をたどって 安産の滝	名所遺産	越部	2021年3月31日
90	冥界ワンダーランド 出口地蔵堂の地獄絵図	民俗遺産	比曾	2021年3月31日
91	祈りを刻んで400年 六斎念仏講衆の石塔	民俗遺産	比曾	2021年3月31日
92	インパールからの帰還 日章旗	近現代遺産	中増	2021年3月31日
93	旅人たちの思い出をつなぐ 交差点の道標	もの遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
94	おおよどは吉野一の米所 農村の原風景	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
95	先生どうもありがとう！ 教育者たちの記念碑	近現代遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
96	変わらない風景のなかに 吉野群山	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
97	四季折々の彩り 吉野川	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
98	『大淀町史』をつくる 町史編纂の記録	近現代遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
99	オールスターが大集合 みんなで大淀おどり	わざ遺産	大淀町内各地	2021年3月31日
100	おおよどのシンボルマーク 大淀町章	近現代遺産	大淀町	2021年3月31日

大淀町内の地域遺産一覧(2023年8月時点)

番号	名称	種別1	種別2	文化財の 指定等	指定等 年月日	おおよど 遺産	地区	所在地 (大字)	所有者・管理者	時代
1	史跡比叢寺跡	記念物	遺跡	国指定	S2.4.8	○	東	比叢	世尊寺	古代・中世
2	世尊寺太子堂 附 銘札1枚	有形文化財	建造物	県指定	H1.3.10	○	東	比叢	世尊寺	江戸時代
3	木造十一面観音立像	有形文化財	彫刻	県指定	H18.3.31		東	比叢	世尊寺	奈良時代
4	石神古墳 附 大岩2号墳	記念物	遺跡	県指定	H24.3.30	○	西	大岩	奈良ロイヤルゴルフクラブ	古墳時代
5	現光寺縁起絵巻 上・下巻	有形文化財	絵画	町指定	H20.7.23	○	東	比叢	世尊寺	江戸時代
6	今木権現堂山門 木造金剛力士像 2軀	有形文化財	彫刻	町指定	H2.7.1		西	今木	泉徳寺	明暦2年(1656)
7	木造大日如来坐像	有形文化財	彫刻	町指定	H15.2.10	○	西	大岩	大岩自治会	平安時代
8	木造男神・女神坐像 附 木札(天文18年)1点	有形文化財	彫刻	町指定	H31.3.27	○	西	大岩	大岩自治会	鎌倉～室町時代
9	木造薬師如来坐像	有形文化財	彫刻	町指定	H31.3.27	○	東	馬佐	妙楽寺	平安時代
10	木造十一面観音立像	有形文化財	彫刻	町指定	R3.8.31	○	東	馬佐	妙楽寺	平安時代
11	木造地藏菩薩立像	有形文化財	彫刻	町指定	R3.8.31	○	東	馬佐	妙楽寺	平安時代
12	木造蔵王権現立像	有形文化財	彫刻	町指定	H29.8.7	○	東	中増	安養寺	平安時代
13	石塚遺跡	有形文化財	有形の民俗文化財	町指定	H2.7.1	○	中	下瀬	大淀行者講	中・近世
14	岸田日出男関係資料・35mmフィルム4巻	有形文化財	歴史資料	町指定	R5.3.31	○	東	北六田	大淀町	近現代
15	岸田日出男関係資料・二ホンオオカミ頭骨標本	有形文化財	歴史資料・動物	町指定	R5.3.31	○	東	北六田	大淀町	近現代
16	蔵王権現堂内外石仏群 17点	民俗文化財	有形の民俗文化財	町指定	H5.5.1	○	西	今木	権現講・泉徳寺	室町時代
17	畝火山口神社の水取り神事	民俗文化財	無形の民俗文化財	町指定	H26.3.28	○	中	土田	土田区・畝火山口神社	近現代
18	保久良古墳	記念物	遺跡	町指定	H24.7.26	○	西	今木	大淀町	古墳時代
19	横ヶ峯古墳	記念物	遺跡	町指定	H19.1.17	○	東	新野	大淀町	古墳時代
20	柳の渡し	記念物	遺跡	町指定	H17.6.21	○	東	北六田	北六田区	古墳時代
21	ケヤキ	記念物	植物	町指定	H15.2.10	○	中	土田	土田区	
22	吉野軽便鉄道拱橋(薬水拱橋(ほか))	有形文化財	建造物			○	西	薬水・佐名伝	近畿日本鉄道	大正時代
23	吉野川分水関運施設群(導水路)	有形文化財	建造物			○	西・中	今木	農林水産省	近代・現代
24	大岩大日堂	有形文化財	建造物			○	西	大岩	大岩自治会	江戸時代
25	大峯索道	有形文化財	建造物			○	西	大岩	個人ほか	近代
26	芦原峠周辺の街道遺産	有形文化財	建造物			○	中	芦原	個人ほか	
27	下瀬八幡神社本殿	有形文化財	建造物				中	下瀬	下瀬八幡神社	江戸時代 (天明年間か)
28	森家住宅	有形文化財	建造物				中	下瀬	個人ほか	昭和29・30年
29	吉野川分水関係遺産群(下瀬取水口)	有形文化財	建造物			○	中	下瀬	国土交通省	現代
30	下市口駅旧プラットフォーム	有形文化財	建造物			○	中	下瀬	近畿日本鉄道	大正時代～現代
31	檢垣本八幡神社	有形文化財	建造物			○	中	檢垣本	氏子総代会	江戸時代
32	紀州藩脇本陣(吉條家)	有形文化財	建造物				中	越部	吉條家	江戸時代
33	北六田の木造倉庫群	有形文化財	建造物			○	東	北六田	北村化学・北村木材工業	大正～昭和初期
34	旧吉野駅	有形文化財	建造物			○	東	北六田	近畿日本鉄道	大正時代
35	茶堂・迎春庵	有形文化財	建造物			○	東	壇口	個人	明治時代
36	阿弥陀如来画像	有形文化財	絵画			○	中	下瀬	光明寺	室町時代
37	檢垣本村古絵図	有形文化財	絵画			○	中	檢垣本	口檢垣本・上檢垣本区	明治時代
38	観経曼荼羅(浄土変相図)	有形文化財	絵画			○	東	中増	安養寺	江戸時代
39	木造薬師如来坐像	有形文化財	彫刻			○	西	佐名伝	仏眼寺	室町時代
40	木造薬師如来坐像 2軀	有形文化財	彫刻			○	西	今木	泉徳寺	平安時代
41	大日如来坐像	有形文化財	彫刻			○	西	岩壺	岩壺区	平安時代
42	木造千手観音立像	有形文化財	彫刻			○	中	檢垣本	観音寺	鎌倉～南北朝時
43	木造阿弥陀如来坐像	有形文化財	彫刻				中	檢垣本	観音寺	平安時代
44	木造聖徳太子立像(十六歳孝養像)	有形文化財	彫刻			○	東	比叢	世尊寺	鎌倉時代

大淀町内の地域遺産一覧(2023年8月時点)

番号	名称	種別1	種別2	文化財の 指定等	指定等 年月日	おおよど 遺産	地区	所在地 (大字)	所有者・管理者	時代
45	木造阿弥陀如来坐像	有形文化財	彫刻			○	東	比叢	世尊寺	江戸時代
46	雲門即道坐像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	江戸時代
47	中坊秀祐坐像	有形文化財	彫刻			○	東	比叢	世尊寺	江戸時代
48	厨子入阿弥陀如来坐像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	江戸時代
49	木造役行者倚像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	室町時代
50	木造蔵王権現立像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	江戸時代
51	木造文殊菩薩坐像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	江戸時代
52	木造相師坐像	有形文化財	彫刻				東	比叢	世尊寺	江戸時代
53	木造千手観音立像	有形文化財	彫刻				東	西増	東福寺	室町時代
54	木造聖観音坐像	有形文化財	彫刻				東	中増	安養寺	江戸時代
55	下市漆器	有形文化財	工芸品			○	中	持尾	迎居家	江戸時代
56	梵鐘	有形文化財	工芸品			○	中	芦原	正覚寺	江戸時代
57	長胴太鼓	有形文化財	工芸品			○	東	新野	正光寺	江戸時代
58	光明寺真宗関係資料(蓮如・実如書跡ほか)	有形文化財	書籍			○	中	下淵	光明寺	室町時代
59	世尊寺禅宗聖教関係資料(頂相ほか)	有形文化財	典籍				東	比叢	世尊寺	江戸時代
60	安政の大地震の記録	有形文化財	古文書			○	東	矢走	松林寺	江戸時代
61	迎居家文書	有形文化財	古文書			○	中	持尾	迎居家	江戸時代
62	毘沙門講関係資料	有形文化財	古文書			○	東	北六田	北六田毘沙門講	江戸時代~
63	前田家文書	有形文化財	古文書			○	東	西増	個人	江戸・明治時代
64	中増村文書	有形文化財	古文書				東	東京都立川市	国文学研究資料館	江戸時代
65	銅鐙および付属資料	有形文化財	考古資料			○	西	佐名伝	個人	弥生時代
66	大淀桜ヶ丘遺跡出土資料	有形文化財	考古資料				中	下淵・松垣本	橿原考古学研究所附属博物館	縄生~古代
67	土田遺跡出土資料	有形文化財	考古資料			○	中	土田	橿原考古学研究所	弥生時代
68	壺形土器(常門遺跡出土)	有形文化財	考古資料				中	越部	個人	弥生時代
69	古式須恵器(土田遺跡隣接地採集)	有形文化財	考古資料				中	越部	個人	古墳時代
70	越部古墳出土資料一括	有形文化財	考古資料				中	越部	橿原考古学研究所および博物館	古墳時代
71	越部ハサマ遺跡出土資料一括	有形文化財	考古資料				中	越部	橿原考古学研究所	縄文・弥生時代
72	北六田遺跡出土資料	有形文化財	考古資料				東	北六田	橿原考古学研究所附属博物館	縄文時代
73	中増下垣内遺跡出土資料	有形文化財	考古資料				東	中増	大淀町	古代
74	花岡大学関係資料	有形文化財	歴史資料			○	西	佐名伝	浄迎寺	大正・昭和時代
75	花岡大学童話碑	有形文化財	歴史資料			○	西	佐名伝	浄迎寺	現代
76	大川淀の万葉歌碑(犬養孝揮毫)	有形文化財	歴史資料			○	中	下淵	吉野ライオンズクラブ	現代
77	忠魂碑	有形文化財	歴史資料			○	中	下淵	大淀町戦没者遺族会	昭和28年(1953)
78	安西冬衛誌碑	有形文化財	歴史資料			○	中	下淵	大淀町	現代
79	大淀町史編纂時の記録類	有形文化財	歴史資料			○	中	松垣本	大淀町	昭和時代
80	岸田日出男関係資料	有形文化財	歴史資料			○	中	土田	個人	明治~昭和時代
81	福田厚旧蔵記録像	有形文化財	歴史資料			○	中	土田	個人	昭和時代
82	活版印刷の道具類	有形文化財	歴史資料			○	東	新野	岡本印刷所	昭和時代
83	茶業記念碑	有形文化財	歴史資料			○	東	増口	個人	大正3年(1914)
84	大臺あきら関係資料	有形文化財	歴史資料				東	増口	専立寺	現代
85	日章旗(辰巳善次旧蔵)	有形文化財	歴史資料			○	東	中増	大淀町	昭和時代
86	金箔貼り・金箔振り	無形文化財				○	東	新野	高橋正	現代
87	戦勝祈願の絵馬	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	西	薬水	薬水八幡神社	江戸・明治時代
88	弁天社	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	西	岩壺・馬佐	岩壺区	
89	天鬘神社	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	中	持尾	天鬘神社	室町・江戸時代

大淀町内の地域遺産一覧(2023年8月時点)

番号	名称	種別1	種別2	文化財の 指定等	指定等 年月日	おおよど 遺産	地区	所在地 (大字)	所有者・管理者	時代
90	忠臣小金吾の碑	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	中	松垣本	個人および区	明治時代
91	オシ塚(松垣本人幡神社伏拝所)	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	中	松垣本	個人	江戸時代
92	張子の釈迦如来坐像(松垣本釈迦堂安置)	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	中	松垣本	松垣本釈迦講	江戸時代
93	比叟石の石迦物 庚申塔	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	北六田	安養院	明暦2年(1656)
94	世尊寺の版木	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	比叟	世尊寺	江戸時代
95	六斎念仏講衆 供養塔 3基	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	比叟	上比叟区	天正9年(1581)
96	増口水分神社	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	増口	増口区	江戸時代
97	高見地藏(秀尊肖像)	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	西増	個人	江戸時代
98	おかげ灯籠	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	中増	小幡神社	天保9年(1831)
99	茶司・忠次郎の供養碑	民俗文化財	有形の民俗文化財			○	東	中増	安養寺	現代
100	大岩の業業遺産	有形文化財	有形の民俗文化財			○	西	大岩	個人ほか	近世・近代
101	妙好人清九郎関連資料	有形文化財	有形の民俗文化財			○	西	鉢立・松垣本	光蓮寺ほか	江戸時代
102	湯釜	有形文化財	有形の民俗文化財			○	中	畑屋	畑屋区	文明11年(1479)
103	壺阪道・畑屋越えの道標	有形文化財	有形の民俗文化財			○	中	畑屋	畑屋区	江戸時代・明治時代
104	石塚遺跡出土石造物	有形文化財	有形の民俗文化財			○	中	下洲	大淀行者講	正和4年(1315)
105	太玉神社	有形文化財	有形の民俗文化財			○	中	越部	個人	
106	新野八幡神社	有形文化財	有形の民俗文化財			○	東	新野	新野八幡神社	
107	佐名伝の秋祭・オカリヤ建て	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	西	佐名伝	佐名伝自治会	
108	甲神社の秋祭り	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	西	今木	甲神社	
109	牛と馬のトンド	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	西	今木	中野家	
110	大岩のトンド	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	西	今木	大岩区	
111	岩壺の秋祭・子ども相撲	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	西	岩壺	岩壺区	
112	天鬘王神社のトヤワタン	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	中	矢走	天鬘王神社	
113	畑屋のカンジウウカケ	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	中	畑屋	畑屋区(宮座講)	
114	水神祭	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	中	下洲	下洲八幡神社	
115	柿の糞ずし	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	中	松垣本	おおよど語り部の会ほか	
116	牛滝社・牛滝まつり	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	東	馬佐	馬佐区	
117	上比叟のいのこ	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	東	比叟	上比叟子ども会	
118	地藏盆のつくりもの	民俗文化財	無形の民俗文化財			○	東	西増	個人	
119	奉膳下村遺跡	記念物	遺跡				西	御所市奉膳 字村下、吉野 郡大淀町今		弥生・古墳時代 ～飛鳥時代
120	稲荷塚	記念物	遺跡				西	今木		古墳時代
121	寺の下(正福寺)古墳	記念物	遺跡				西	今木	個人	古墳時代
122	ジヲウ古墳(坂合黒彦皇子墓)	記念物	遺跡				西	今木	個人	古墳時代
123	大岩3号墳	記念物	遺跡			○	西	大岩		古墳時代
124	大岩5号墳	記念物	遺跡			○	西	大岩		古墳時代
125	大岩4号墳	記念物	遺跡			○	西	大岩		古墳時代
126	大岩6号地点(墓地)	記念物	遺跡				西	大岩		古墳時代
127	大岩7号地点(墓地)	記念物	遺跡				西	大岩		室町・江戸時代
128	大岩8号地点	記念物	遺跡				西	大岩		室町時代
129	薬水遺跡	記念物	遺跡				西	薬水		鎌倉・室町時代
130	佐名伝遺跡	記念物	遺跡				西	佐名伝		平安・鎌倉時代
131	車坂古道	記念物	遺跡			○	中	下洲・今木	大淀町	江戸時代～近代

大淀町内の地域遺産一覧(2023年8月時点)

番号	名称	種別1	種別2	文化財の 指定等	指定等 年月日	おおよど 遺産	地区	所在地 (大字)	所有者・管理者	時代
132	矢走城跡	記念物	遺跡			○	中	矢走		室町時代
133	矢走西城	記念物	遺跡			○	中	矢走		縄文～江戸時代
134	大淀桜ヶ丘遺跡	記念物	遺跡				中	下刈・椀垣本		縄文・弥生時代
135	越部ハサマ遺跡	記念物	遺跡				中	越部		縄文～江戸時代
136	土田遺跡	記念物	遺跡				中	土田		弥生時代
137	常門遺跡	記念物	遺跡				中	越部		弥生時代
138	平畑遺跡	記念物	遺跡				中	椀垣本		
139	下刈城跡	記念物	遺跡				中	下刈		
140	越部1号墳	記念物	遺跡			○	中	越部	個人	古墳時代
141	越部2号墳	記念物	遺跡			○	中	越部	個人	古墳時代
142	馬佐蔵坂遺跡	記念物	遺跡				東	馬佐		弥生時代
143	馬佐蔵坂1号墓	記念物	遺跡				東	馬佐		平安・鎌倉時代
144	下垣内遺跡	記念物	遺跡				東	中増		平安～中世
145	トノカイト遺跡	記念物	遺跡				東	比曾		縄文～江戸時代
146	高取城跡	記念物	遺跡				東	比曾・高取町		飛鳥～江戸時代
147	稲荷山古墳	記念物	遺跡			○	東	新野	個人	室町・江戸時代
148	模ヶ峯2号墳	記念物	遺跡				東	新野		古墳時代
149	模ヶ峯3号墳	記念物	遺跡				東	新野		古墳時代
150	模ヶ峯4号墳	記念物	遺跡				東	新野		古墳時代
151	模ヶ峯5号墳	記念物	遺跡				東	新野		古墳時代
152	正光寺裏山の古墳(消滅)	記念物	遺跡				東	北野		古墳時代
153	北六田2号墳(消滅)	記念物	遺跡				東	北六田		古墳時代
154	北六田3号墳(消滅)	記念物	遺跡				東	北六田		古墳時代
155	北六田1号墳(消滅)	記念物	遺跡				東	北六田		古墳時代
156	梨の古木	記念物	植物			○	西	薬水・佐名伝	個人	明治時代
157	エノキの巨樹(切り株のみ)	記念物	植物				西	岩壺	個人	
158	カヤの巨樹	記念物	植物			○	中	畑屋	個人	
159	岸田日出男資料・植物標本	記念物(有形文化財)	植物(標本)			○	中	椀垣本	大淀町	
160	世尊寺境内の花木類	記念物	植物			○	東	比曾	世尊寺	
161	ムクノキの巨樹	記念物	植物			○	東	比曾	上比曾区	
162	大阿太高原	文化的景観				○	西	薬水・佐名伝		明治時代～現代
163	山村の原風景	文化的景観				○	西・中	純立・持尾		
164	茶の里・増	文化的景観				○	東	中増		江戸時代～現代
165	伊勢南街道の街並み	伝統的建造物群				○	東	増口		江戸時代
166										
～	(遺跡の可能性がある埋蔵文化財包蔵地)	埋蔵文化財								
249										
250	おいの池	その他	伝承地等				西	佐名伝		
251	筆捨岩	その他	伝承地等			○	西	佐名伝		
252	薬水の井戸	その他	伝承地等			○	西	薬水	個人	

# 大淀町文化財保存活用地域計画協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、文化財保護法第183条の3に規定に基づき、大淀町における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画として「大淀町文化財保存活用地域計画（以下、地域計画という。）」を策定し、かつ地域計画に基づいて文化・文化財を活かしたまちづくりと地域活性化を進める組織としての「大淀町文化財保存活用地域計画協議会（以下「協議会」という。）」を設置するにあたり、その運営を円滑に遂行するため必要な規定を定めるものである。

(構成)

第2条 協議会は、大淀町長及び副町長、大淀町教育委員会教育長と、大淀町が委嘱する10名以内の委員により構成する。また、委員のうち5名程度を町内在住・在勤者より選出する。

2 協議会には委員長及び副委員長をおく。委員長は構成員の互選により決定し会務を統括する。副委員長は委員のうち委員長からの指名によって決定し委員長を補佐する。また委員長に事故あるときまたは不在のときはその職務を代理する。

3 協議会には、オブザーバーとして大淀町文化財保護審議会委員が数名参加する。

(事務局)

第3条 協議会の設置にあたり、大淀町は町職員数名からなる事務局を設置する。

2 事務局は協議会にかかわる諸事務を処理し、協議会の会計を処理する。

(会議)

第4条 協議会は、年数回の会議と必要な事業をおこなう。会議は、委員長が構成員を招集するものとし、議長は委員長がその任にあたる。

(事業)

第5条 協議会は、町行政からの要請をうけ、大淀町内に伝わる地域固有の文化・文化財とそれにかかる主体的な取組みを総合的に調査、記録保存し、地域計画の作成を目指すとともに、ふるさとに残る地域遺産を見直し、行政と地域住民の協働でその保存と継承を持続させ、かつ文化・文化財を活かしたまちづくりと地域活性化に資する文化政策についての提言をおこなう。

(期間および任期)

第6条 協議会の設置期間および委員の任期は2年とし、再任をさまたげないものとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則（令和4年4月27日）

この要綱は、令和4年4月27日から施行する。

# 14 大淀町文化財保存活用地域計画

-未来に伝えたいおおよどの遺産-

【奈良県】

【計画期間】 令和6～10年度（5年間）

【面積】 38.10 Km<sup>2</sup>

【人口】 約1.6万人

大淀町は、吉野川中流域の北岸の台地にひらけたまちで、隣り合う市町村とは一部を除いて、下線や分水嶺等の自然境界で接している。



大淀町では、母なる大河・吉野川を中軸として、「まほろば」と称される大和盆地（農村）と、林産業の盛んな吉野山地（山村）の民俗が交差する、個性的な歴史文化が育まれてきた。

## 歴史文化の特性

### 1 記紀伝承を物語る古代吉野の遺産 - 吉野の古墳と古代寺院 -

伝承に記された人物や、遺跡や古墳と日本最古の仏像伝承が現在に受け継がれている。

### 2 聖地へつながる吉野路の交差点 - 街道と文化交流 -

聖地巡礼の交差点であり、修験道をはじめとする特徴的な神仏への信仰が今も息づいている。

### 3 人と自然がおりなす吉野川の民俗 - 水と暮らしの文化 -

吉野川とその支流が生み出す豊かな自然に恵まれた、有形・無形の民俗や伝承地等が残されている。

### 4 中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 - お囃子の芸祖と吉野 -

世界無形文化遺産・能楽のお囃子の芸祖たちを輩出した〈吉野猿楽〉のふるさとである。

### 5 吉野の風土に生きた偉人たち - 岸田日出男と花岡大学 -

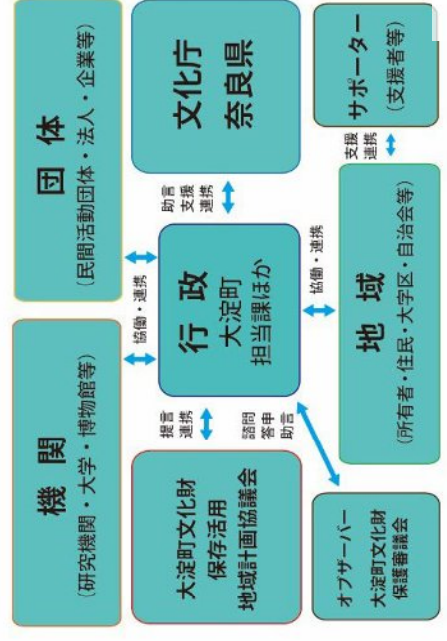
吉野熊野国立公園の父・岸田日出男、仏典童話の開拓者・花岡大学の遺産が残されている。

## 指定等文化財件数一覧 (令和5年8月現在)

類型	国指定	県指定	町指定	小計
建造物	0	1	0	1
絵画	0	0	1	1
彫刻	0	1	7	8
工芸品	0	0	0	0
美術工芸品	0	0	0	0
書跡・典籍	0	0	0	0
古文書	0	0	0	0
考古資料	0	0	0	0
歴史資料	0	0	1	1
無形文化財	0	0	0	0
有形の民俗文化財	0	0	2	2
無形の民俗文化財	0	0	1	1
遺跡	1	1	3	5
記念物	0	0	0	0
動物・植物・地質鉱物	0	0	2	2
文化的景観	0	0	-	0
伝統的建造物群	0	0	-	0
合計	1	3	17	21

- 指定等文化財は、21件
- 未指定文化財は、231件を把握

## 推進体制



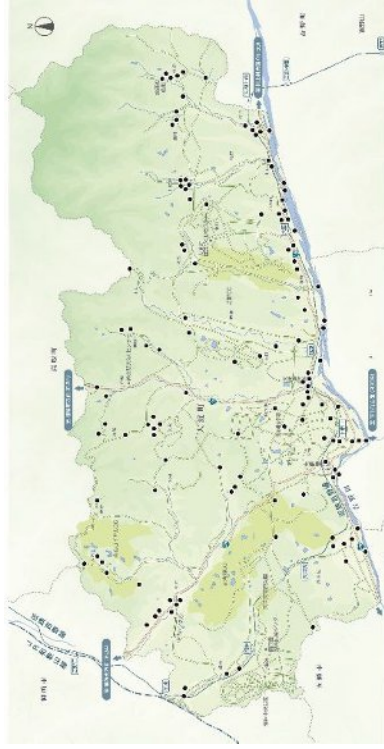


# 基本理念 ふるさと・おおよどの遺産を次世代につなぐ



## 14 大淀町文化財保存活用地域計画【奈良県】

# 重点事業 1 「おおよど遺産ストーリー」の設定にむけて



「おおよど遺産」の分布図

大淀町の歴史文化の特性（5つのテーマ）	
1	記紀伝承を物語る古代吉野の遺産 — 吉野の古墳と古代寺院 —
2	聖地へつながる吉野路の交差点 — 街道と文化交流 —
3	人と自然がおりなりす吉野川の民俗 — 水と暮らしの文化 —
4	中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 — お囃子の芸祖と吉野 —
5	吉野の風土に生きた偉人たち — 岸田日出男と花岡大学 —

想定される12の「おおよど遺産ストーリー」

1	古：古代史ゆかりの地	古	伝
2	伝：伝承地とその遺産	祈	路
3	祈：祈りの場所（社寺ほか）	水	樹
4	路：地域の街道や古道	創	農
5	水：水遺産と人のかかわりをつなぐ	芸	祭
6	樹：珍しい植物や巨樹遺産をつなぐ	人	戦
7	創：ものづくりの智恵と技をつなぐ		
8	農：農業遺産の魅力をつなぐ		
9	芸：芸能文化のルーツをつなぐ		
10	祭：祭礼の伝統をつなぐ		
11	人：著名な人物ゆかりの場所をつなぐ		
12	戦：戦争と近代の記憶遺産をつなぐ		

## おおよど遺産ストーリー

◆本計画では「関連文化財群」について、本町独自の地域遺産保存・活用事業のなかで進めている「おおよど遺産」の取り組みと関連付けて「おおよど遺産ストーリー」と称する。

⇒【措置 1-4】「おおよど遺産ストーリー」の作成

◆行政・地域・団体 ◆R 6～10

◆町内の地域遺産をテーマごとに分類し、連想しながら、その背景にあるストーリーを練りながら、計画期間内におおよど遺産ストーリーを設置・検討。（右表：想定される12の「おおよど遺産ストーリー」）

◆設定された「ストーリー」に基づき、コンテンツの制作・配信をおこない、「ストーリー」を活かした周遊・体験型イベントの実施をめざす。

⇒【措置 5-7】地域遺産コンテンツの制作・配信

◆行政・団体・機関 ◆R 7～10

## 重点事業2 広域での取り組み

### 「(仮称)広域観光圏構想 / (仮称)広域文化財保存活用構想」の策定にむけて

◆吉野郡域全体の将来的な目標として、大淀町の歴史文化の特性をいかしつつ、「道の駅(吉野路大淀iセンター)」をハブ拠点とし、世界遺産や日本遺産、郡内の観光地や文化施設等を周遊する「(仮称)広域観光圏構想」の策定と、それにともなう環境整備等を検討していく。また、郡内の地域遺産等について、より広域での保存・活用をめざす「(仮称)広域文化財保存活用構想」について検討し、そのなかでの大淀町の役割についても模索していく。

#### ⇒【措置4-2】文化・観光・観光・交流施設での地域遺産の利活用にかかわる環境整備

行政と地域が連携し、観光施設(道の駅吉野路大淀iセンター等)・文化施設(町文化会館等)・交流施設(各地のコミュニティ施設・古民家等)の環境を整備し、広域観光に資する取り組みや地域遺産の利活用(展示・解説)をおこなう。 ◆行政・地域 ◆R9~10

#### ⇒【措置4-3】地域遺産の展示・学習教材の整備

拠点施設で使用する展示用の模型や複製品・副読本の作成などをおこない、地域や学校の学習教材としても活用する。 ◆行政・団体 ◆R8~10

### ◆背景

本町を含む奈良県吉野郡は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や日本遺産「森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～」といった文化遺産に恵まれている。本町にその構成資産はないが、本町は地理的にみても、その現地を訪れる際にならず過する交通アクセスの拠点となっている。吉野郡内に所在する「世界遺産」や「日本遺産」にいたる玄関口としての機能が求められている。

### ◆周辺自治体との連携

吉野郡3町8村のなかで、現在、文化財主管部局に文化財専門職を配置している自治体は、吉野町・大淀町・十津川村だけである。郡内において、質の高い文化行政サービスを継続させつつ、より一体的な広域での文化財の保存・活用をめざすには、各自治体の地域遺産に精通した専門職・担当者同士の補完・支援の体制づくりが不可欠である。そのなかで大淀町の果たす役割は大きい。



## 14 大淀町文化財保存活用地域計画【奈良県】



令和4・5年度地域文化財総合活用推進事業

**大淀町文化財保存活用地域計画**

—未来に伝えたいおおよどの遺産—

編集 奈良県大淀町

(〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本 2090 番地)

発行 令和5年(2023)12月15日





奈良県大淀町

